大正十二年十月卅一日發行（毎月一回一日發行）

各種社會問題之研究

滿洲之社會



佳節特別號

第貳巻第參號

滿洲之社會―第貳卷第參號

（大正十二年佳節號）

一資本金　壹億圓

一積立金　七千參百萬圓

本店　橫濱

支店
出張所

東京、大阪、神戸、名古屋、長崎、下關、倫敦、漢堡、里昂、紐育
桑港、羅府、布哇、シドニー、新嘉坡、カルカッタ、シャトル、ス
ウラバヤ、ブエノスアイルス、バタビヤ、リオデジャネイロ、西貢
孟買、蘭貢、馬尼剌、香港、上海、漢口、青島、濟南、天津、北京
牛莊（營口）、奉天、開原、長春、哈爾賓、浦鹽斯德

大連市大山通一番地

橫濱正金銀行大連支店

電話＝代表番號三一六一番
海關取扱所四七六二番
宿直專用六〇一五番

一、資本金參千萬圓

一、一般銀行業務並ニ大連市金庫事務ヲ取扱申候

大連市伊勢町二十一番地

株式會社 満洲銀行

頭取 中村光吉

電話四一二一番

振替貯金大連三三三〇番

支店所在地

大連市山縣通、同小崗子、沙河口

金州、普蘭店、貔子窩、瓦房店、鞍山、奉天、

奉天小西關、撫順、本溪湖、安東縣、安東縣

興隆街、新義州、鐵嶺、公主嶺、長春、吉林

右ノ外内地、朝鮮、満洲各樞要ノ地ニ為替取引先有之候

●設立　明治四拾壹年壹月

●資本金　貳千萬圓

●拂込濟資本金　九百五拾萬圓

●諸積立金　貳百參拾壹萬五千圓

◎定期預金利子　(一ヶ年)七分

大連市大山通十四番地

電話代表番號七二一一番
振替貯金(大連)三三〇番

日支合辦　株式會社

正隆銀行

頭取　安田善四郎
相談役　安田善次郎

●當行は安田貯蓄銀行の代理支店として一般貯蓄預金を御便利に取扱申候

●當行は日本內地、朝鮮、南北滿洲、支那內地に於て約二千の爲替取引先を有し候

●當行は關東州地方費現金竝に大連市金庫事務取扱致候

●當行は臺灣銀行と特約を結び外國爲替取扱致候

支店(所在地)　旅順、營口、奉天、撫順、開原、四平街、長春、鄭家屯、錦州、天津、青島

派出所(所在地)　大連市小崗子(電話五七四)、奉天城內

資本金壹千四百四拾萬圓

關東州地方費現金取扱

大連市金庫事務取扱

日支合辦 株式會社

龍口銀行

大連市浪速町

電話 代表番號 七一五一番

宿直用 五七三六番

公衆用 三三二八番

振替口座大連 一五五〇番

支店所及出張所在地

龍口、青島、哈爾賓、安東、鞍山、公主嶺、瓦房店、松樹

派出所

大連市內磐城町

日本內地及臺灣、朝鮮、滿洲、支那各地に爲替取引先有之

一般銀行業務便宜に御取扱仕候

大連市濱町

滿洲船渠株式會社

本社營業所

大連市山縣通加藤ビルヂング内

電話五八五三番

旅順工場

旅順東鄉町

電話 四番 / 一八〇番

大連工場

大連市濱町四十五號地

電話 長四七一〇番 / 九六五番

祝天長節

資本金參百萬圓

大連市愛宕町十九番地

大連取引所

錢鈔信託株式會社

電話（四二一四番
　　（五二三八番

大連市軍用地二區二號

大連取引所信託株式會社

電話（七一二一番
　　（五七五八番

營業目的

一、大連重要物產取引所に於て成立したる賣買取引の擔保及び精算業務

二、重要物產取引者に對する資金融通業務

祝天長節

大連市大山通

株式會社

大連株式商品取引所

電話 八一四一番
七一六三番

英、米、土、其、古埃及煙草
マニテジヤマイカ其他各國産葉卷煙草
各國洋酒類直輸入商
山田正路丸發賣元

大連市大山通（浪速町角）

東昌洋行

電話五五二〇番
振替大連一六九七番

祝天長節

關東州辯護士會

電話四九一一三番

事務所　大連市丹後町

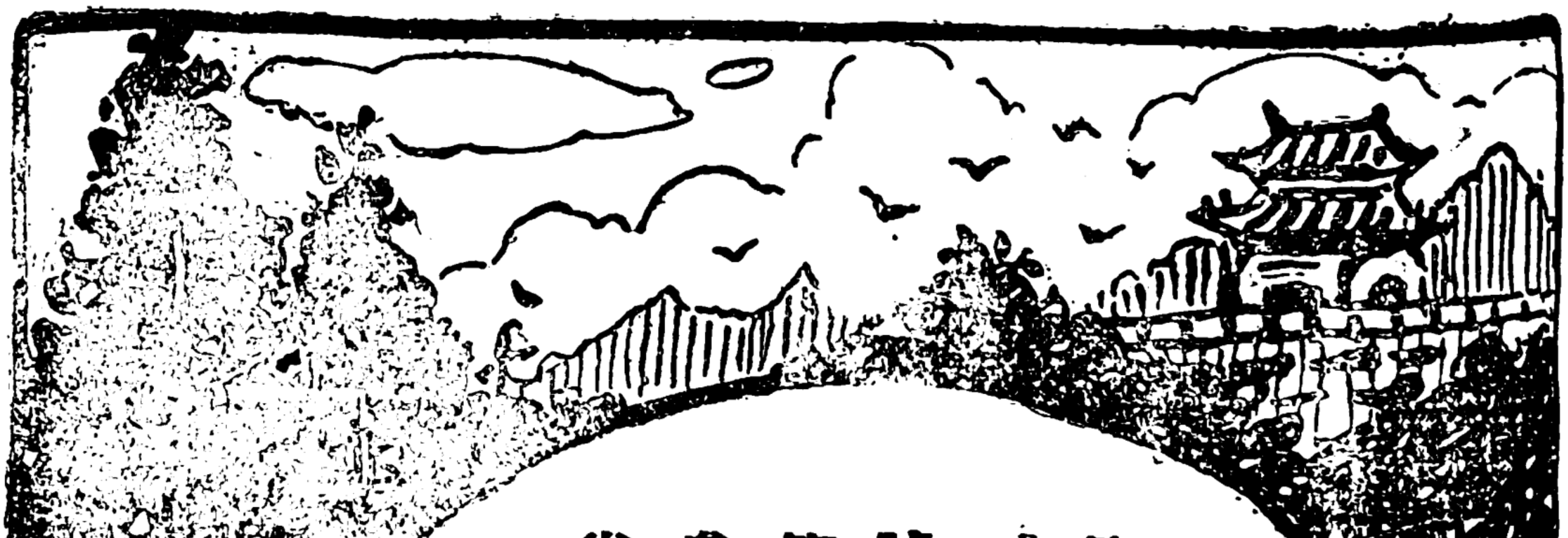
祝天長節

輸出入貿易業

三菱海上火災保險株式會社代理店

三菱商事株式會社大連支店

大連市山縣通四十二番地



第貳號第參巻

世界の日本

天長の佳節を迎へ、吾人は先づ聖壽萬歳、寶祚無窮を高唱すると共に、併せて深く我が帝國の現狀に想到せざるを得ず。言ふ迄もなく、今日の日本は東洋の日本にあらずして世界の日本なれば、官に在りて政を行ふもの、民として業を營むもの、相共に此の大見地に立ちて忠實に各々その職分に當らざるべからず。皇道を中外に展べ大義を四海に布くは我が帝國々民の一大責務なり。尊王愛國とは造次にも顚沛にも之を忘れずに守ることゝ知れよ。

今日の我が帝國々民は頗る複雜となれり。吾々大和民族は固より其の中堅國民なるも、一千七百餘萬の朝鮮人も、三百餘萬の臺灣人も、新高國の生蕃人も、南洋の土族も、樺太の土人も、皆齊しく我が帝國々民にして、則ち我が陛下の赤子なり。文化の差に依りその取扱に自ら別なきを得ざるも、陛下の赤子、帝國の國民たるにおいては、一切平等無區別なり。我れ獨り國民顏して他を夷狄視し禽獸視し奴隷視するの不合理なるを知らざる可らず。

更に此心を以て友邦及び友邦民に對し、平和と文化を中核とし、以て世界に臨むべきなり。帝王の德は六合を包み八紘を掩ふ。之を奉體して邇きより遐きに及ぼし、時代に適する新施設新經綸を講じ、努力黽勉、日進月捗して息まずんば、皇道を中外に展べ大義を四海に布かんこと難きにあらず。世界的日本の實は斯くして擧がるべし。官たると民たるとを問はず、深くこゝに思ひを致し、廣く大きく進み行くべし。是れ實に尊王愛國の極致なり。

滿洲之社會　第貳卷第參號　大正十二年十一月發行

綱紀肅正と國民生活の安定

山本現內閣は普選卽行、行政財政の整理、外交刷新、思想の善導、綱紀肅正及び國民生活の安定等を政綱とし、議會開會前にこれを發表し且その實行を期すとの事だが、何れも緊急缺ぐべからざる當今の要務である。今此內の綱紀肅正と國民生活の安定といふ事について卑見を述べて見たい。近年綱紀の弛廢せることは爭ふべからざる事實で、各方面における黨弊の浸潤とこれより生じた種々の疑獄事件はその一例であり、更に大正七八年の空景氣時代に醞釀された人心の物質的惡化より生じた多くの犯罪も、また綱紀弛廢の一に數ふべきものであつて、是非とも肅正を要する事柄である。こゝに最も注意すべき一事は、此くの如き犯罪も疑獄も機械的物質文明と自由放任政策を基調とした資本主義的經濟組織とが要するに其の母體であると云ふことで、政黨の弊も此點から起るのである。人類のエゴイストを全く亡くしてしまうことは勿論不可能だが、科學の異常なる進步に伴ふ機械的物質文明と、自由放任の資本主義的經濟政策と、商工業の顯著なる發達と、之がために一層濃厚となつたメルカンチリズムとは、人類のエゴイストを非常に鋭くし、同時に優勝劣敗、弱

肉强食の理法を如實に表現し、この人類社會を恐るべき修羅道と化せしめた。斯くして此の社會は獨逸語の謂ゆるゲマインシャフト的より次第にゲゼルシャフト的となり、社會結合の核心たる愛の現はれが鈍り、虛僞と濫着 爭鬪と悶着が殖ゐ、益益各人の利己心を旺盛ならしめ、人心を惡化したこと一通りでない。萬人の求むるところはパンであるが、高き階級に在るものは、パンに不自由せぬと共に、權勢と富貴に憧がれ、利己心が强烈となり、その心が自然と荒んで來る。空景氣時代における貨幣至上主義の黃金病は一段と人心を惡化した。無產階級に屬する筋肉勞働者が喧嘩腰の殺伐的になつたのも之がためである。投機虛業、浮華輕佻、奢侈贅澤の弊風もこの人心の惡化から生じたもので、羅馬衰亡史の著者は羅馬末葉の社會相を叙して「人々は多く外觀を飾り、華美を好み、女子は劇場、宴會又は舞踏會に競ふて出入し、隨つて貞操、紀律、節制の美風全く衰ゐた」といつたが、我國の最近における社會相もそれに似たところがある。震災氣分で些か見直したとは云へ、まだ決して安心は出來ぬのであるから、綱紀肅正の必要は大いに在る。綱紀肅正は勢ひ司法權の發動となつて現はれ來るべく、韓非子の「治强は法より生じ、弱亂は阿より生ず、爵祿は功より生じ、誅罸は罪より生ず」といふことになるべく、餘りに冷酷な法治主義も感心しないが、宗敎も道德も權威を失墜する程に人心の腐敗墮落した場合には、司法權の發動によつて綱紀の肅正をなすも餘儀ないことゝ謂はなければ

ならぬ。次に國民生活の安定といふことは、近代の進歩的社會政策によりて物心兩面より着々その實を擧ぐるの外なきも、恒産ありて恒心ありと云ふが一般民衆の常情であるから、先づパンを得られる樣にして荒みゆく人心を和らげることが第一である。孟子が「五畝の宅之れに樹うるに桑を以てすれば五十のもの以て帛を衣るべし、雞豚狗彘の畜その時を失ふなければ七十のもの以て肉を食ふべし、百畝の田その時を奪ふなければ數口の家以て飢うることなかるべし」と言つたのは、まだ商工業の發達しない農業時代に立脚した立言であるけれども、デモクラシーの要諦はここに存じ、社會政策の眼目もまたこゝに在るのであつて、國民生活の安定といふことは先づ職を與へパンに事缺がぬやう立法し行政する事であらねばならぬ。貧富の懸隔を甚だしくし、一方に少數の富貴人を作り、他方に多數の貧困者を生ぜしむるやうな事では、國民生活の安定は到底望まれない。併し人はパンのみにて活きずと云ふのも眞理であるから、一面において敬神、愛國、犧牲獻身、博愛仁慈、社會奉仕等のヒユーマニチーを高調し、先づ恒産あらしめて恒心を生ぜしめ、萬人をして成るべく內面生活を營ましめ得るやうに仕たいものである。況や綱紀弛廢して一世の風氣大いに紊れたる場合において此事最も必要である。山本內閣がいかに綱紀を肅正し又如何にして國民生活の安定を圖るかは、吾等の刮目して觀んと欲することろであるが、要するに社會政策がその骨子であらうと思ふ。（芙峰）

心靈の洗濯

◉人間も人間の力で拵らへた物も大なる天力には敵はぬと云ふことが今度の母國關東地方の震災で立派に證據立てられた◉斯んな事は常識上誰にも夙に解つて居る筈だのに邪念や妄想の雲に心の鏡を曇らせ機械的文明に陶醉し精神生活を閑却して物質生活に耽溺するものが多い◉殊に大正八九年の空景氣時代に此の謬つた思想が上下に瀰蔓し彼の戰時成金の如きは最も愚劣な皮相的物質生活を炫燿しその物質主義は貨幣至上主義となり黄金の前には節義も廉耻もないといふ醜態を曝露した◉種々の犯罪は皆之より生まれ綱紀は弛廢し人心は惡化し天を畏み神を敬ふもの少なく增長我慢の有らん限りを盡した◉我々人間は常に大自然の惠みの下に活きて居るのに何等之れに向つて感謝せず敬虔の念乏しく宗教が何んだ倫理道德が何んだといふ權幕であつた◉中江兆民は無神無靈魂を說いたが其實彼は極めて正直な極めて純眞な眞骨頂であつたのだ◉無常の風一たび吹き來らば富貴も權勢も木の葉の如く散らされて了つて本來空の元に還らねば成らぬ此事は今度の震災で誰も合點したであらう◉眞にソロモンの榮華も野の百合の花にだも若かずだ權勢慾や富貴慾やに憧がれて居るものは此際汚れた心の洗濯が第一だぞよ◉因果の理法は歷然として爭はれぬ身亡ぶるとき從ふものは善惡の業果のみと佛が說かれたのは千古の鐵案だ◉人間共が天から承けた大事な神性を汚し良智を曇らし業火の焰を上げて罪惡の限りを盡せば軈てまたノアの水とロトの火が此の人類界をお見舞申すだらう◉自然科學は人類の棲んで居る地球が宇宙の一小天地に過ぎない事を敎へて居るにも拘はらず小ぽけな人間界にのみ齷齪として宏大無限なる宇宙に眼を放つて靜觀諦視するものが尠い◉斯うして我々人間は邪道に踏み込み墮落に墮落を重ね今度のやうな天災で痛い目に遇はなければ容易に眼が覺めない◉生活改善も心の悔ひ改めが元だ心の眞底から出た生活改善でなければ本物にならない形式だけの生活改善では遠からず撚を戻すことに成るだらう◉人はパンのみにて活きずといつた基督の言を泌々と味はつて看るがいゝのである◉何にしても之から大いに精神生活を向上させ神性と良智を磨き如何なる物質的誘惑にも打克つと云ふ事にしたいものである。

清風明月

◆人間が人間界にのみ没頭して四六時中齷齪して居ると段々人間の器が小さくなりそして悪くなる◆自然の恵みに包まれて居る田舎者は世事に迂く七月のお槍で何處かに間の抜けた所があるけれども概して正直だ◆自然よりも人爲の優つてゐる都會の人は智慧があつて敏捷で活潑であるがその代りに不正直で悪狡いものが多い◆都會には人間が鮓詰のやうになつて住ひ自動車が飛び電車が走り汽笛が鳴り煤煙と砂塵が舞ひそして大事な空氣を濁らす◆それに種々の事件や悶着が多く泣いたり笑つたり怒つたりする事が絶ゐないので神經が苛付いて心が落着かない◆それ丈け都市人は成るべく自然に近付くやうに努め三更人靜まつての後に古書を繙き讀む位の餘裕を自ら作らねばならぬ◆然るに一日の仕事で身體が綿のやうになり大いに疲れた結果は酒と女に走り一時の娯樂と慰藉を取らうとする◆それが度を重ねると酒と女の外に我を慰むる物なしと云ふことになつて段々墮落する◆斯うして都市人の多くはその心に妄想と邪念が蔓り純眞無垢の神性と天性を汚して不知不識種々の悪い事をする◆天性を冒瀆することそれ自體己に大なる罪悪であるのにそれを自覺し得るものも尠い◆都市人は顔を清め歯を磨き沐浴して身體を洗ひ或は綺麗な着物を着飾つて美しく見せやうとするが肝腎な心の清めと磨きを怠るものが多數を占めて居る◆都會には外觀だけで内味のない胡魔化し物が多いが人間にも上部だけ綺麗に見ゐて心の極めて汚ないものが多い◆維新改革の指導者であつた吉田松陰は『皇國の道を明かにするの書及び聖經賢傳は暫くも坐右を離すべからず◆日課を定めて是等の書三篇或は五篇を四五回程も朗讀し然る後職務に當る時は事甚だ簡要にして心氣を養ふの益日に深かるべし』と力を籠めて說いて居る◆今日の都市人たる紳士紳商に聖經賢傳を日課として讀むものが果して何人あらうか科學技術に關する書物や職務に關係ある

書物や新聞雜誌類は讀んでも經書を讀む者は餘りあるまい◆隨つて彼等の天性（神性又は佛性とも云ふ）は常に汚されて垢だらけ埃だらけとなり其の不純な心が軈て魔となる◆座敷でも一日掃除をしないと塵埃が溜るそれと同樣に心にも絶へず箒木とはたきを入れないと妄想邪念といふ塵埃が溜つて曇つた鏡のやうになる◆心が明鏡の如く澄んで居なければ萬象が明かに映らぬ間違つて映ることもある主觀が正しくなければ客觀もまた曲るわけだ◆斯うして都市人の多くは魔道と邪道に踏み込み小慧しく且惡狡くなるばかりで概してその品性が劣惡である◆極の田舍に往くと無學文盲でも大自然の懷裡に惠まれて居るので野性的な所はあるけれども何處かに純眞無垢な所がある◆臺灣の北番人は他人種の首狩りをしたり物の道理が分らないで困る事もあるが子供のやうに無邪氣で正直だ◆仲間同士の關係は極めて親密で紀律も正しく昔の人倫五常の敎ゑが自然の間に行はれて居る此點は文明人よりも優つて居る◆大體斯ういふ樣な理由で眞の文化は物質的に惡化した都會から生まれないで却つて大自然の惠みに潤ふた田舍から生まれる獨逸のクルチユールが森林から生まれたと云ふのは眞理だ◆眞の英雄も偉人も正人も義人も田舍から出る我が豐太閤は愛知郡中村の土百姓の倅で淸敎の化身といはれたクロンウエルは垢面蓬頭の大なる田舍漢だつた◆餘りに文弱に流れて『百敷の大宮人は暇あれや櫻挿して今日も暮らしつ』と唄はれた京都の公卿は土豪の田舍武士に天下を讓つたではない乎◆歐洲文明の華といはれた羅馬が蠻族ゴールのために蹂躪されたのは其の文明が餘りに爛熟し腐敗し墮落した爲めではない乎◆物質的に何も彼もゴチヤ〳〵した都會は人間の天性を汚し人間を人間臭くし不正直にし高慢ちきにし天を畏み神を敬ふと云ふ純眞を冒瀆させる◆大連や奉天に住む都市人も此點を考ゐて成るべく大自然に親しみ眞書經書にも親しむ樣にし宇宙と冥合する天性を常に磨く樣にして欲しい。



消費節約と資本通貨の蓄積

法學博士　小林丑三郎

我國現在の經濟的悲境を救濟する唯一の良方法は官民一致の國民的大節約を外にして全く他にない。節約は固より消極的のものであるが其の裏面には必らず大增產を產み出すといふ積極的活動が含まれねばならぬ卽ち一方には努めて消費を節約すると共に他方には國民一致の努力による生產の大增殖を計らなければならぬ。此の兩面の努力は獨り日本ばかりでなく實に世界の大勢であるが殊に我國の現狀に照らし大節約大生產を目標とする國民的大運動を必要とする。一部の間には節約の結果今にも增した一層の不景氣を招徠し、賣らんとするものも賣れず、商業が上つたりになると云つて反對する人もあるが、行詰つた今日の經濟を救ふの途は何と云つても節約の外にない。現狀のまゝに放擲して別段に國民的努力をなさないとしても、將來物價は必らず下落するであらうが、然しその下落の道程は所謂ダラダラ下りであつて、一年後、二年後、或は三年の後に至つても景氣の恢復を見ることが出來ず、唯だ手を拱いて何時を果とも知れぬ不景氣を喞つて居るの外はない。今日の日本の經濟は斯くの如く前途の見込のない放任を許すことが出來ぬほど行詰つた事情

の下にあるのだから、一方に大節約と他方に大増産をやつて、寧ろ下がるものならば一度にそれをどん底まで下げ、そして一日も早く當然落着くところまで落着かせるべきであると思ふ。世には物價が下がると困ると云ふものがあるがそれは大なる間違ひである。普通の考へでは物價の上がるときに利益が多いやうに感ぜられるが、物價の上がる際は要するに貨幣の價値が下がつて居る場合で、體裁はよい樣でも多寡の知れたものである。だから物價が上つても一般に上がるのでは格別利益がないと同じやうに下がつても一般に下落する場合には大した損はない。世人は能くこの點に注意を加へて欲しいのである。買ふものも安く賣るものも安ければたとひ投機的の利益はないにしても決して憂ふるに及ばない。

消費の節約とは要するに消費通貨を減らすと云ふことである。消費通貨とは資本通貨に對する稱呼で、例へば茲に百圓の紙幣を持つて居るとして、其うち七十圓を生活費に使用し、殘り三十圓を預金にしたとすれば、つまり生活に費した七十圓は消費通貨であり、預金した三十圓は資本通貨である。即ち資本通貨は預金なり貯金なりにして置けば利子を生んで生産の元金になるのであるが、消費通貨は消費物の賣買に使用せられて了ふもので、一にこれを賣買通貨とも云はれて居る。國民全體が消費通貨を餘計に使つて資本通貨を蓄積することが尠なければ尠ないほど物價は益々上がつて來る。前に云つた七十圓の生活費を九十圓に高めれば資本通貨は十圓に減じて來る譯で、一人の額で云へば僅少なものであるが、之れが國民全體の額になると非常なものになる。國民の現在生活が若し斯う云ふことであるならば物價は結局上がるばかりである。之に反し若し七十圓の生活費を切りつめて五十圓となし、他に五十圓の資本通貨を殘すとすれば、それは國民全體の上に於て非常なものとなり、從つて一般物價は下落せずには居ない。斯くの如くして現在の物價の高下は一面資本通貨と消費通貨との增減如何によつて決定せられるものである。若し資本通貨が增せば金利は下

がり其の結果は購買力を養成する。購買力が増せば從つて物價は上がり景氣は眞に恢復する。勿論奢侈によつて消費價をばら撒くことに依ても物價は上がるけれども、一方は根底のある堅實の上り方であり、他方は根底のない一時的の騰貴である。此の二つの方法において國民の採らねばならぬ途が何れであるかは云はずして明らかである。また消費通貨の節約は消費節約とは自ら別のものである。消費通貨の節約はこれを生活必要品の節約と奢侈品の節約とに分つことが出來るが消費通貨を減らせと云ふことは奢侈及び贅澤に撒き散らす通貨の節約を意味する。奢侈は單に經濟の基礎を破壞するばかりでなく之れを行ふに當りて必ず他人に反感を起こさせる。これが社會に何れほど危險思想を激成せしむるか分らない。

斯くの如く奢侈は物價の騰貴を誘致する憎むべきものであるばかりでなく、其の結果は市場において生活必要品よりも奢侈贅澤品の生產を多くならしめ、從つて其の生產事業の擴張のために資本、原料、勞力等を濫費し、眞の生產事業に要する原料及び勞力を奪ひ、遂に生活必需品までをも騰貴せしむるに至るのである即ち奢侈の結果は其の人を貧困に陷るゝ許りでなく社會全體の貧困の原因となる。事こゝに至りては經濟上損失の問題を越へて實に天下の罪惡であると云はなければならぬ。況や奢侈は國民の品行を破壞する憎むべき物であるから、先づ社會より此の風潮を絕滅せしむるに非ざれば、いかに節約の宣傳を遣つても眞の效果は上らない。次に消費の節約と云ふうちには消極的の節約と積極的の節約とがある。節約と云つても唯々無暗に節約するばかりでは畢竟無效の節約であつてそれは消極的のものである。之れに反し有效の節約とは何であるかと云へば、それは社會に一物たりとも餘分に造り出だすところの大增産の努力に必用なる貯蓄を爲すことであつて、謂ゆる資本通貨の蓄積を意味するに外ならない。玆に云ふ貯蓄とは單なる金の死藏を云ふのではなく、其の金を働かせて自己又は社會の爲めにする生きた資本を指すのである。凡ての人々は皆此の貯

蓄を有せなければならない。人は之れを持つて初めて獨立することが出來、その事業を保證し、信用を高め學問修養を得せしめ、人格を向上せしむることが出來るのである。卽ち人間が獨立するかせぬかは一に其の背景に貯蓄が有るか無いかによつて極まるものである。人間が若し食はんが爲めにのみ働かなければならぬとなれば七十年の生涯は凡て丸裸體に終つて社會に何物をも殘すことが出來ない。さうした生活は決して人生の意義に適つたものでない。若しそこに貯蓄があれば二六時中食はんが爲めに働かずとも、七十年の或時間は何等かの仕事において社會に盡すことが出來、人はこれあるが爲めに其の五十年乃至七十年の人生を二倍に利用することが出來る。一國に於ける文化藝術の發達の根源は玆に存する。

現在の社會において最も憂ふべき傾向は過激思想の漸く瀰蔓せんとする事である。此の傾向は基くところ一に財產制度の缺陷にあると云へる。卽ち一方には巨萬の富を擁したる富豪があり、他方には一錢の貯蓄もない貧困者がある、と云ふ社會の病源に根ざして居る。一方では限りなき贅澤生活をやつて居るものがあるのに他方ではいくら働いても食べられないものがある。卽ち一は資本階級として超然たる態度を採り、他は勞働階級として多少の僻目を持ち、其間に越えがたき一條の溝渠を劃して兩々相對するの形勢にある。而かも其の兩極の間に介在し半ばは資本に依り半ばは勞働によつて生活するところの謂ゆる半資本半勞働の階級に屬するものがある。現在の多くの商工業者の大部分は之れに屬するもので之れこそ社會の中堅たる中產階級を形成するところのものである。純粹に資本のみによつて生活する眞の資本家の數は我國においては甚だ少ないが、それと同時に、全然勞働のみに依つて衣食する純粹の勞働者卽ち工場勞働者の數は約二百萬人足らずであつて、其他の大多數の國民は此の半資本半勞働の中產階級である。所が此の階級は他の階級と異つて極めて結束力に乏しく、全く個立的の位置に立ち、そして兩極たる資本と勞働との二階級から絕えざる壓迫を

受けて居る。現在資本家の利益なるものは殆んど中産階級から搾取掠奪したところのものであるが、他面勞働者はよし物價が上つても資本家の利益が多ければそれだけ餘分の收入もあり、さもなければ其の結束力たる團體の力を以て資本家を牽制し、生産減少、能力低下となつて現はれるから、結局苦しむものは資本家にあらずしてヤハリ中産階級である。つまり上からも下からも苦しめられて居るのが中産階級である。斯くの如くして中産階級なるものは絶えざる壓迫を受けて漸く破壞の淵に沈まんとして居る。彼等の生活難は歩一歩痛切なるものとなつて居るが僅かにその體面を考へて堪へがたき辛抱を續けて居る。併し此の辛抱も際限なく何時までも續く譯のものではない。現に此の階級の落伍者は自ら身を下して純勞働者となり其の子女は遂に都會に投げ込まれて暗黑化されてしまう。何れにしても彼等は資本階級に入込んで行くことが出來ないで相率ひて勞働階級へと突入して行く。斯くの如くして社會が少數の有産者と多數の無産者のみとなつたならば到底社會の平和を保つことが出來ないのは云はずして明かである。社會の上下兩階級の間に此の中産階級があつてこそ初めて社會の平和が保たれるのである、否、實を云へば全社會を擧げて中産階級となすを最も可とし、全社會が半資半勞の人のみに依つて充たされて行きたいものである。そうするには上を押へ下を助けて此の階級を保護して行かなければならぬ。そこに社會政策の必要が存する。

此の方法としては勿論種々のものがあるが、簡單なる一法として租税立法によりて上方を押へ、本問題の要點たる貯蓄の普及によつて下方を育てるのである。若し貯蓄が少し宛でも積まれて行けば、無産の勞働者はやがて半資半勞の狀態となつて、恰も農業者が農作ばかりでなく養蠶の補助によつて生活を助ける二股の行方と同樣、勞働者は勞働ばかりでなく其の保有する蓄積を運用して自己の生活を一層安定にすることが出來る。斯くして中産階級を擴張して行くことによつて社會の惡化を防止し思想の動搖を鎭靜することも可能

となるのである。然らば如何にして勞働者を資本化せしむべき乎。之れに就いては現に英米でも實行して居るところであるが、それは各勞働者をして其の所得の二割を天引きしてこれを蓄積せしむるにある。英米においては初めて勞働者を雇ふ場合、其の人の家族の多寡によりて適當なる貯蓄を强制し、頻りに勞働者の資本家化に努めて居る。此の制度を完全にする爲めには政府は須らく貯金の利率を高めなければならぬ。資本家よりする公債に對しては六七分の利子を支拂ひ乍ら、中産階級以下のものゝ零細なる郵便貯金に對しての利子が四分乃至五分であるのは、甚だ當を得ぬことで、要するに資本主義的傾向であると云はれても仕方がない。その他小額貯蓄債劵の發行、貯金通帳を以てする融通の便利、預入、引出等取扱上の便利、貯金勸誘員の派遣等、此の制度の普及に要する幾多施設の必要がある。猶ほ一般に貯蓄組合の普及、全國各地に於ける貯金所の設置等もまた極めて必要なことである。而もこれらは歐米何れの國においても夙に施設されてあるのに見て我國の現狀に鑑み頗るその急務なるを感ずるのである。

人類生活と國民の生活改善

法學博士　松井　茂

共同生活は國民生活の眞諦であつて、法律はその國民生活の反映であるから、日常生活は則ち法の對照であらねばならぬ。國家の最終の目的が平和である以上は、國家間においても完全なる生活を望むのは人情の常であつて、平和は實に世界一般の聲である。我國に在りても古來神社等に於て夙に國家安全を唱へ、又家

庭に在りても家内安全を祈つて來たが、之れ畢竟するに安全を要求するのが人類自然の勢であるからである。殊に交通の進歩、經濟の變遷に伴ひ、人事の益々紛糾し來ると共に、國民の生活改善問題は今や實に世界の實際問題となつたのである。彼の住宅難の如きは世界に通ずる生活問題の著るしき一例である。此の生活改善なるものは、衣食住の節約とか社交儀禮の簡略とか云ふ性質のものばかりでなく、一面は社會及び國家に關係し、他面は國際に關係あるところの大きな範圍のものである。

近時盛んに唱導されつゝある安全第一(セーフチージエファルスト)の聲の如きも獨り米國のみの問題ではない。ウイルソン大統領が倂て自から率先して火災豫防日(フアイヤープレベンションデイ)を定めて、米國民に之が大々的宣傳を行はしめたるが如きも、決して偶然ではない。曩に東京に於て災害防止展覽會の開催を見たるが如き、また近頃各地に於て警察消防等の展覽會が續續開催せらるゝが如き、何れも皆時代の要求であると言はねばならぬ。警察協會を國民的に改造すべしとの聲が近時盛に行はれつゝあるのも同協會が國民に災害防止の思想を注入することを使命の一として居るからであらう。余は斯の如き事業が將來社會の各種方面に陸續として起り來らんことを衷心より希望して止まざるものである。元來人類の生活は頗る廣汎なる範圍を有するも、概して之を個人生活、社會生活、國際生活の三に分つことが出來るから、以下この區別に從つて聊か論じて見やう。

(一)個人生活　個人生活としては國民各自が連帶道德心に基き自治心を基礎として生活改善の實行に當らなければならぬ。法律は國民の日常生活が本であるが更にその元を尋ねるときは實に道德心が基礎となつて居る。例へば國民の生活上都市計畫の必要ありとするも、萬一國民の自治的實行力が之れに伴はなかつたならば、如何に立派な成文法も何んの效果も奏せぬであらう。近時一部の識者が時間の厲行嚴守や計量思想の普及に努めつゝあるのも畢竟するに國民の自治的道德心が其の根源であるのを認めて居るからである

殊に生活改善の思想は兒童の時代より徹底せしめて置くことが最も必要である。近年歐米において少年赤十字、少年巡査等の設けを見るに至つたのも決して偶然ではない。又婦人が生活改善の中心として看過すべからざる事は、極めて明白なる事柄であつて、國民の生活改善思想を發達せしめんが爲め、將來大いに此の方面の力を借るの必要ある事は今更言を俟たぬ所である。殊に生活改善思想の涵養上注意すべきことは道德と經濟とを結び附けて宣傳する事である。世人は常に深くこの點に留意して生活改善問題を經濟化すると同時に更らにまた之れを道德化することを忘れてはならないのである。

個人生活は互に相共同して共同生活となり爰に完全なる社會生活を形成するのである。此の見地よりして警察と生活改善との問題は密接なる關係を有して居る。歐米人は常に、國民が政府の存在を認むるのは、內閣員にも非ず、また地方長官にも非ず、實に警察官吏その者であると言ふて居るが、是れ警察官吏の職掌が社會民衆に直面し、民衆が一度門を出づれば必ず警察官吏に遭遇するのみならず、警察官吏は家庭に盜難あれば走りて之れに赴き、人家に傳染病あれば直ちに行いて救助を施し、其他事々物々國民の日常生活と警察とが密接して居るからである。此の如く國民と警察とは性質上互に相聯關して居るのであるから、生活改善問題に對しては、特に警察官吏において之が奬勵に努めんことを希望する。

國民の生活改善の事項は殆んど數限りが無いが、今試みに警察に直接の關係を有するものの一二を擧げんに例へば衣食住の問題中、衣服の改良の如きは交通警察と自から關係を有するものである。衣服改良の結果は國民が敏速に道路を步行し得ることゝなるから、電車の乘降上にも好影響を及ぼし、之が爲めに自然死傷者をも減少する事となるのである。袒裼裸體は野蠻國の惡風であるが、歐米人が一度我國に遊び、その第一步として長崎港や神戸港や横濱港に到着して此の蠻風に接するとき、彼等は甚だしく不快を感ずるのであるか

ら外事警察の見地よりしても此くの如き弊風は速かに除去したきもので、而も服裝の改良は偶然に之を實行し得ることが出來るのである。また電車內、汽車內で太股を露はすものも寡くないので、東京市中の電車內の注意的掲示中には、電車開通當時より太股を出すべからずとの警告がある位であるが、世界廣しと雖も斯くの如き類例は何れの國にも無き我國特有の汚點である。然るに衣服の改良が行はるゝに至れば此等のことも自然に消滅するであらうと思ふ。我國でも古來勞働者の使用せる股引はズボンに腹掛はチョッキに草鞋は靴に當るべく、彼等が居酒屋において樽に腰を掛けて飲食するの風は恰かも椅子に倚ると同樣の意義である此の如く我國でも昔は生活上自然の要求が彼等の活動に便益を與へ來つたのであるから、將來も總ての階級が活動生活を營むにおいては、必ず活動に適合せる服裝を擇ぶであらうと思ふ。

次に食物問題に就いては、これを警察上の見地から言へば、警察はその性質上社會公衆に有害な影響を與へる場合において之が取締の任務を果すのが原則である。例へば傳染病の如きは、民衆の一人が飲食物に對して注意を怠つた結果、他の一般公衆にそれが傳播したものとすれば、大いに飲食物の取締りをなすと共に一面各人自制の力によつて他人に迷惑を及ぼさしめぬやう平素に於て衞生上多大の注意を拂はしめねばならぬのである。飲食物と共に食器の檢査も大切である。獸肉、麥酒、牛乳等の檢査は勿論、食器も公衆衞生上直接關係を有するものであつて、萬一有害物を使用する場合は、爲めに多數の人命を奪ふに至るもので、その實例も寡くないのであるから、大いに取締の必要があるのである。着色料の取締の如きも必要である。小兒の玩具に有毒の着色を爲し、或は菓子類に之を施し、而して其の害毒を他に及ぼす等の例も少くないからである。要するに飲食物に關する警察は一見極めて些事なるが如くにして其實衞生及び保健に大なる關係があるから國民一般の特に注意を拂ふべき重要なる生活改善上の問題である。

更に研究を要するは建築問題である。我國の如き木造家屋は火災上甚だ危險なること今更ら言ふまでもない。殊に今回の京濱地方の震火災に遭ふて、世人が愕然として家屋建築の上に多大の注意を拂ふこととなつたのは當然であるが、今日までは之が豫防上につき無頓着のものも尠くなかつたのである。歐米に於ても昔時は木造建築物が盛んに行はれたのであるが、其後火災が頻繁に起るに及び、種々考究する所あり、今や彼地では概して建築警察の規定に基き不燃質的家屋を建設する様になつて來た。我國は世界中殊に風力の强き國柄なる上に、木造家屋を有する結果、古來屢々大火災に見舞はれ、世界中の有名なる火災國である。明治年間に於ても屢次大火に逢つたので、當時の當局者は之を憂ひ、國民が勤勉して折角蓄積した財產を一朝にして烏有に歸せしむるは、國家經濟上より見ても實に甚だしき損失であると云つて、其後獨逸人マエット氏に諮り火災保險の事を研究するに至つた。斯くて數年間具體的に火災の事實を硏究した結果、一時は强制的に法律を以て火災保險の制度を施行せんと意氣込みたる事もあり、一面には建築條例を制定し、又は水利の必要上河川を改修し、猶ほ火災の際に於ける財物保護の上より道路を擴張するなど、熱心なる調査計畫を試みた。未だ理想通りには實行し得ざるも、逐年改善の域に進み、大火災の數は昔日に比して大分に減少した尤も今回の震災に伴ふ大火災は別物であつて普通の理論には當嵌らぬのである。

我國における建築警察の沿革を見るに、京都に在りては平安遷都の時に屋上制限が行はれ、農工商は板葺草葺にて宜しかりしも、神社、宮殿、寺院等は瓦葺に定められたのである。建仁時代には神社佛閣に倣ひ今日の如き土造の建築が勃興し來つたが爾來酒屋や質屋などの如きものも不燃質の物を以て建築する樣になつた。江戶時代に及んでは、天正十年德川氏が覇府を定むるに當り、火災防止の上より頗る見るべき江戶城を建築した。然れども一般家屋に對する火災防止の設備に於ては遺憾ながら極めて不完全を免れなかつた。其後

明治年間に至り旅館、劇場、寄席、勸工場など公衆の出入すべき場所に對しては建築改定を爲したけれども概して建築警察のことは振はなかつた。近年漸く都市計畫法の發布に伴ひ、市街建築法の制定を見るに至つたが、今後は大いに此の方面の向上發展を期したいものである。獨逸のハンブルグや米國のシカゴは、曾て大火災を起したことあるが、市民は何れも奮勵努力禍を轉じて福と爲すの計畫を執り、其後兩市とも火災豫防と消防事業とに卓越せる成績を示した。我が東京、横濱等の市民もこれに鑑みて、此際倍一倍の決心を固め、鋭意復興事業の爲めに盡瘁すべきは勿論、然らざる都市の住民も平常の場合に非常の場合における用意をなし火災豫防と消防とには常に十分の注意を拂つて欲しいのである。

(二)社會生活　都市計畫法の實施は社會生活上都市の福利を増す上において最も重大なる意義を有するものである。今や之に對する聲が各地に起りつゝあるのは國家の爲めに頗る喜ぶべき現象である。此の法律の内にも警察に關する保安事項を含むことが寡くない、火防、衛生、交通等に就いては最も關係が深い次に社會生活として又當面の緊急問題として最も注意すべきは住宅問題である。住宅に就いては、政府の特許會社を設くるが如き、家屋所有者の便利の爲めに組合を設けしめ、之に對して國家が或は低利資金を供給し、或は地方税を免除し、或はまた官公有地の隨意契約の締結上に便利を與ふるが如き、其他種々時代に適應すべき方法がある。今回の震災地に於ける應急施設は別問題として、一般細民窟の住宅整理問題の如きも研究を要する緊急事項なので、内務省社會局の當事者は熱心に盡力して居る。

國民の大多數が勞働者である以上、國民生活の問題として緊急なるは失業者の問題である。官公立の無料職業紹介所が六大都市その他に設置さるゝ事となつたのは、國家の爲め喜ぶべきことで、政府も之が爲めに補助金を支出することゝなつて居る。公設市場も國民生活上必要なる施設たるや言ふまでもない。然し現在

の公設市場の實情は遺憾ながら種々の點に於て不完全なるを免れない。其の內容と組織において缺けたところが尠くない。今や全國を通じて百數十箇所も出來て居るのであるが、今後はその內容の改善に努め、一方に中央市場を設け、國民生活の上に十分役立つものにして欲しい。

(三)國際生活

各國が協力して世界人類全體の福利增進の爲めに共同事業を經營することは近來の顯著なる傾向である。人類は國によつて種々生活情態の異なるものであるが、其の異別は異別として、一面に於ては國際生活上各國が成るべく共通的に其の生活を向上發達せしむることも自然の要求である。國際生活の爲めに必要なる規則を設くるのは國際聯盟の一の任務であらねばならぬのであるが、それと同時に、各國の人々が國際生活の必要を自覺し來るところに國際生活の中心點が存在するのである。此の見地からして國際聯盟の思想と共に國際警察の問題も起り來つた。婦人の賣買禁止、阿片、疾病防止等の問題などが何れも皆國際聯盟の實際問題となつたのは要するに時代の自然的要求の然らしむる所である。

國際聯盟會議には將來如何なる問題も適用せらるゝ事ゆゑ、各國民の利害關係を有する國際的生活問題は今後必らず聯盟會議上に於て論議せらるゝことゝ信ずる。例へば國民生活に關係ある左側通行の如きも將來世界各國を通じて或は右側通行といふことに統一さるゝかも知れない。國際生活は風土、習慣によつて異なることと勿論であるが、之と同時に無線電信、飛行機、電車、自働車等の如き世界的共通の交通機關や通信機關の發達に伴ひ、國際生活もまた一面において大いに進展し來らんことは蓋し世界大勢の然らしむる所であらねばならぬ。歐洲戰爭後、經濟上の變遷に伴ひ、盛んに各種の改造問題が唱へられつゝあるが、今や我國民は前古未曾有の變災に襲はれ、物質上、精神上共に一大痛擊を加へられたるのであるから、今後は之が動機と爲つて國民の生活改善問題にも種々の新考案が實行せらるゝことゝなるであらう。兎に角此の機會にお

いて我が國民が共同一致し堅實なる社會を組織せんが爲め延いてはまた國家の隆興のため大いに此の方面の事業に向つて努力を拂はれんことを衷心より希望して已まざる次第である。

生活改善に關する卑見

棚橋源太郎

生活の改善と云ふことは今日は餘程普及して參りまして到る處で唱へられ全く實行上の問題となつて居ります。今日の文化運動は種々ありますが、此の生活改善は其の中の重要なる一つであると思はれます。處が生活改善は口にはするけれども未だ一向徹底して居らぬ。生活改善の利益幸福は我々にどう云ふ關係があるか、即ち國家の發展と國富の充實といふ上において生活改善がどう云ふ關係を有つて居るか、といふ事になつて來ますと、甚だハッキリ致して居らぬ。之が爲め種々の誤解があり、重大な事であるに拘らず、それが輕々に看過されて居る傾きがありますから、此點は特に注意を願ひたい。

今日我々の行つて居る生活樣式俗にいふ暮し振りと云ふものは、その大部分が封建時代の德川三百年の天下泰平の時代に發達したものでありまして、幾分か變つて來ては居るけれども、殆ど其儘傳はつて來てゐるので、從つて現代の生活には不向なことが多いのであります。殊に歐羅巴からだん〳〵新しい樣式が入つて來るにつれ、それが從來の習慣の中に入つて來ると共に、人々が二重三重の生活をすると云ふやうな妙な時代になつて來て居ります。たとへば從來の如く疊を敷いて障子や唐紙を立てゝ居る座敷に住つて、洋服を着靴を穿き、また和服も要ると云ふやうに、生活樣式が二重三重になつて居て、少しも整理せられて居ないの

であります。歐羅巴の諸國は國と國との競爭が劇しかつた結果、土地を割かれたり償金を取られたりすることも多かつたので、自然國民の氣風が緊張し、出來るだけの無駄を省き節約をして國力を恢復するに努めると云ふことが屢々起り、歐洲においては數百年の間に幾度か斯樣なことが繰返されて來て居ります。從つて其の國民の生活と云ふものが其の時々に全部整理され洗練されて來て居るのであります。私共が歐洲に參つて見ましても、文明國のことでありますから國民全體が餘程華やかな生活をして居るものと思つて居りましたが、實際を見ると隙間のない緊張した生活振りであるのに驚くことがあります。

私は戰前伯林の郊外に暫く泊つて居た事がありますが、其處には電燈がなく石油のランプを使つて居りました、そして其處の主婦がランプに火を灯すのに、先づ一本のマッチを擦つてランプに火をつけ、それを一寸消して傍に取つて置き、別なランプに火をつける時、新しいマッチを使はず、前に一度使つた殘りのマッチの軸でランプから火を移すやうにして居るのを見ました。それから私共の捨てるやうな靴下などでも、それを與へますと、綺麗に洗ひ清め、破れたものは叮嚀にそれ〳〵繕つて、立派にその家族の人々の用を足すと云ふ風で、少しの無駄もせぬのに驚きました。又客を呼ぶにしても料理など至つて簡單なもので一皿位ゐで樂しく語るやうになつて居る。それが大學の教授などの處へ招ばれて行つた時でも其の通りで極めて質素なものでありました。日本では近頃漸く小學校の國費が增加された位ゐでありますけれども獨逸では古くから小學校から專門學校や大學校までも全部國庫の負擔であります。獨逸は英佛を向ふに廻して居る國でありますから、凡らゆる點に國費が嵩み、國民の負擔も自然輕からぬため、其の苦しい所からして、國民一般が斯く切詰めた生活をして居るのでありますが、花の都の華美な生活といふ豫想を裏切るほどに眞に引締つたもので、他にも日本の如きだらしのない生活をして居る國はありません。

我が日本國は未だ諸外國のやうに艱難を甞めたことがありません、未だ土地を割いたこともなく、償金と云ふものを出した事もありません。德川三百年の間は鎖國主義を取り、その間外國の船が來たこともありましたけれども、地形が亞細亞の東の方に片寄つてゐる關係上、鎖國が出來、外國の手がつかなかつたのであります。それ故、世界の大局から見れば危機一髮の間にあり乍ら國民は德川三百年の泰平を樂み、謂ゆる武陵桃源の夢を貪つて暢氣な生活をして來たのであります。戰國時代には國民が塗炭の苦を甞めたのでありませうが、兎に角三百年の間は泰平に馴れ、安逸に流れ、自然泰平の弊害をも受けて來たのであります。古い時代の服裝を見ますれば、日本の着物も皆筒袖を着、股引を穿き、よく物に腰を掛けて居つたのであります德川時代に入つてからも、彼の最も華美だつたと云はれて居る元祿時代の服裝でも、長袖ではない短い元祿袖で、勞働者などは更に便利な服裝をして居つたのであります。處がこの袖が天下泰平の時代に二寸伸び三寸伸び、いつしか引ずるやうな振袖となり、長袖となり、帶の如きも段々巾廣になり、胸高になつて、今では肺臟の活動を苦しくする程の無駄なものとなつて了つたのであります。泰平の時代にはそれでも一向差支がなかつたのでありませうけれども、今日は列國を向ふに廻して激烈なる生存競爭の活舞臺に立つて居るのでありますから、不必要な服裝は改めなければならず、また女と雖も決して安逸に流れず、共に協力して能率を擧げ、全國民一致して活動するやうにしなければならぬと思ひます。

先日私は其筋の人々と共に耐火建築の宣傳を致しましたが私共の住んで居るのは全く焚付け同樣の家であります。若し一朝飛行機から爆彈の投下でも受けようものなら、一瞬に灰燼に歸するやうな家の中に平氣で住まつて居るのであるが、斯かる建物が眞に家と名づけることが出來るものでせう乎。亞米利加あたりの建築物は氣候風土に適應して作られ、外は寒風吹きすさぶ冬の氣候でも室內は春のやうな暖かさで、人は室內

でシャツ一枚で輕快に仕事をして能率を上げて居ります。然るに日本の家はどうでせう、外氣はまるで吹き通しに家の中に入つて來る、外出する時には一々留守番を置かねばならず、夜や朝の雨戸のあけたてのみでも隨分の人手を要する有樣です。殊にその建築法は昔の武家時代の遺物であります。卽ち昔の武士はよし内懷が苦しくとも外面に堂々と門を張り、玄關を廣げ、客間は庭に面した一等良き場所を占めるやうにして社交に供へたものでありますが、武士ならぬ人までそれを見習ひ、不必要な使ふことの稀な客間のみに贅を盡し、家人の常に居座する居間や臺所の如きは總て日當りの惡い空氣の流通の良くない場所に置いて省みないといふ風で、それが今日も其の因襲のまゝになつて居ります。斯くの如きことは保健上から云つても一日も速かに改め家人の常に居る處を先づ第一に空氣のよい日當りよき場所とするやうに改める必要があると思ひます。今は大分改まつて居りますが、店舗の如きも昔のやうに疊の上に坐つて番頭が一々小僧に品物を出させて商取引をするやうでは時代遲れのもので、どうしても客も店員も腰掛け式として目の前に見本を供へて直ぐにあれこれと敏活に品物を決定するやうにしなければ、人手ばかり多く要し、無駄な費用も自然嵩む樣になり、決して能率が上るものでありません。近頃はあらゆる方面が皆斯うした洋式になりかゝりつゝありますが之れは能率の增進上から云つても眞に悅ばしい現象であると思ひます。

これは私事でありますが、私は近年一切和服を作らぬ事にして居ります。無論浴衣や平常着を持たぬではありませんが、外出着であるとか紋付であるとか云ふものは一切廢し、皆洋服で押通して居ります。それで結句何等の不便をも感じません。洋服は最初作る時は高いやうですけれども、それのみにして裏返しをしたりクリーニングをすれば相當永く保ち、時に疊の上で窮屈な思ひをさせられることが無いでもありませんけれども、近來は皆椅子式になりかゝりつゝありますから、多くの場合何の不便も感じません。日本の着物は

將來は矢張りどうしても此の國際的の洋式になるものと思はれます。現今の日本婦人の如き着物は世界各國何處に行つてもなく、朝鮮服でさへ活動の點から云つても保温の上から云つても日本の着物に勝つて居るものと思はれます。埠頭あたりで船に人を見送りに行つた婦人などが服裝の關係等で梯子などを登る場合に尻込みをして居るのを見ると眞に氣の毒な感がいたします。斯うした狀態では廣く世界の人と交はつて行くことが出來ません。日本婦人は足が短いから洋服では不格好だなどゝ云ふが如きは全く笑ふべき偏見であると思ひます。どうしても將來は女の着物も洋式に改める必要があると思ひます。

終りに食料のことに就いて一言述べましやう。今日我々が食用に供して居るもの、それがあらゆる點から見て果して私共に適當した完全な食料でありませうか、これ等は研究もし改善もしなければならぬ問題でありませう乎、私共の身體に適した榮養價値を含むものであるかどうか、これ等は研究もし改善もしなければならぬ問題であります。今日の男子は食ふ時には大いに食ふ、西洋料理を五皿も七皿も食つて終つて得々として居ることもあるが、それは決して適當の榮養を攝つたものではありません、徒らに胃に詰め込んだのであつて、唯だ排泄の量を增し、胃腸や腎藏に無益な勞力をかけるばかりであります。又女子の多くは漬物などでサラ〳〵と食事を濟ましてしまう癖があり、これを女子の美德であるかの如くに考へて居る傾向がありますが、之等も改善を要することであります。女子は母たるの大役があり、殊に姙娠中はその食物が胎兒の骨となり、肉となり、母となつては其の子に授乳する等の大きな務めがあるのであるから、寧ろ男子よりも榮養を多くしなければならぬのであります。價の多からぬもので眞に滋養價のあるものを選擇することも必要で、これも生活改善上の要件であります。

生活改善問題の審議と決議

滿洲社會事業研究會の特別評議員會

物質文明は吾々人類の生活を非常に複雑にしたるが各方面より諸種の文化の輻輳せる今日の我國は其の國民生活を最も複雑ならしめ思想界の多岐なるが如く日常生活の上にも二重三重の弊を生じ之がために生計費も嵩み而も此間猶は因襲傳來の時代錯誤的風習の存するありて頗る畸型的となり随つて改善革新を要するもの多々あり殊に大正七八年の空景氣時代に醞釀せられたる浮華、輕佻、奢侈、贅澤の弊風は其後の不況時代に入りても全然拔け切らず人心の惡化と共に綱紀は弛廢し種々の犯罪事件を起し上流階級の風紀もまた紊れ中流階級に屬する俸給生活者も勞働者の多くも收入の増加せしを好き事にして浪費をなすもの尠からず上下相率ひて華に走り實に遠かり興風の氣風殆ど地を拂はんとせり。

天意測り知るべからざるも此時に方り母國關東地方に大震災起り次いで大火災を生じ我國の中央首都たる東京を半ば以上廢墟の如くならしめ横濱を殆ど潰滅せしめ內外の國民に大なるショックを與えたるは幸か不幸か此事ありてより人心頓に引締まり上ッ調子の生活をなし來れるものも飜然省みる所あるものゝ如く節約氣分俄かに濃厚となり各地に眞劍味を帶びたる生活改善の企てをなすもの續出せり耐久力に乏しき我國民は果して之れを堅實に恒久に維持し得るや否や咽喉元過ぎて熱さを忘るゝやうの事なきか帝都復興の緒に就くに從ひ外資の輸入等と相待つて更に中間景氣を發生したる場合又々投機虛業を流行せしめ折角引締りたるものが更に弛廢する事なきか此點聊か懸念なるも兎に角此の機會に儉素質實の興國的氣風を作興すると共に時代錯誤的陋風の存する我が國民生活の上に一大改善を加ふるは極めて緊急事ならざる可らず爰に於てか我が滿洲社會事業研究會は卒先して此の緊急事に當らんことを期し十月一日、五日、九日の三回に亙りて特別評議員會を大連市役所委員室に開催し生活改善事項について審議

討究を重ねたり開會に先だち參考のため各相談役並に各評議員に配布せし原案左の如し。

生活改善事項

一、衣食住に關する件

實用と質實を旨とし華美、炫耀、虛飾を避け冗費濫費、浪費を省くこと

一、社交儀禮に關する件

(イ)結婚費は當事者年收三割以下の程度とし結婚式は自宅又は神聖の場所において行ひ披露會は簡略にし披露會における新婦の色直し(着換)は之れを廢し祝儀は身分と程度を超えざる樣にし祝儀返しは之れを廢すること

(ロ)死亡の通知は親近者に限り新聞廣告は簡略にし靈前の供物は成るべく質素にし花輪、放鳥等の虛飾は出來るだけ之れを避け香奠は香料の實費に相當する位の少額に止め通夜は親近者に限り出棺及び葬式の時刻はこれを厲行し途中の葬列はこれを廢し葬儀は嚴肅と簡略を旨とし而して香奠返しはこれを廢止すること

(ハ)宴會は飲食よりも社交に重きを措き料理店にての宴會は成るべく之を避け社交的宴會には婦人其他相當年齡以上の家族を出席せしめ酒杯の獻酬を廢し擧杯を以て之れに代へ而して其の開會時刻は必ず之を厲行すること

(ニ)贈答は努めて其の場合を尠くする樣にし形式的の手土產又は交換的及び過分の贈答はこれを廢し贈答品は實質を旨とすること

(ホ)訪問は早朝、食事時、出勤前、就寢時を避け面會時間はこれを定め用件の訪問は挨拶よりも簡單に用件を述ぶる樣にし接待を簡略にし故なく來客を長時間待たせぬ樣にすること

(ヘ)送迎は成るべく親近者に限り親近者以外の送迎は各自その代表者を出すこと

此他猶ほ公衆作法として集會又は人群雜沓の場所に於ては靜肅と秩序を重んじ必ず弱者を扶け幼者老人に對しては路を避け席を讓り汽車、電車、劇場、寄席、活動寫眞館、會堂等にて妄りに廣く席を取り又は容儀を崩さぬ樣にし公衆出入の場所に不要物を棄て又は啖唾を吐かぬ樣にし街路通行の際には車道と人道との區別に從つて必ず左側を步行し交通頻繁の場所にてボール投げをなし又は兒童を遊ばしめざる樣にする事

更に生活改善の方法としては公設市場及び消費組合を改善擴張して成るべく一般にこれを利用せしめ猶ほ生產と消費の距離を接近せしむべき種々の經濟的社會施設を實行する事

大要以上の如くにして之れが實行を期する爲め生活改善期成同盟會を組織し猶ほ勤儉貯蓄思想を養成せんが爲め公設貯蓄銀行の如きものを作るか或は庶民

金融機關としての信用組合又は金融組合の如きものを設くべしと云ふにありたり斯くて一日夜開催せし第一次特別評議員會に出席せる人々は

會長金子平吉、副會長今景彦、相談役村井啓太郎立川雲平、評議員村田懿麿、寄藤好實、川上賢三黑崎眞也、土田忠二、蔦井新助、幹事長山田武吉幹事高橋多佳次、書記永田榮藏

の諸氏にして開議に先だち金子會長は東京震災當時の狀況と其の所懷について述ぶる所あり終つて協議に移り種々意見を交換したるも議容易に纒まらざりしを以て各自に實行具體案を作り之れを次回に持寄り更に協議する事として散會したり

越えて五日の第二次特別評議員會には

副會長今景彦、相談役相生由太郎、高柳保太郎、村井啓太郎、立川雲平、評議員川上賢三、村田懿麿、黑崎眞也、寄藤好實、香山長一、邊見勇彥、蔦井新助、幹事長山田武吉、幹事高橋多佳次、書記永田榮藏、切手惠吉

の諸氏出席し前回に引續き生活改善問題に關する審議をなしたるが持寄れる具體案は

相談役　高柳保太郎

社會事業には個人的と團體的との別がある個人的のものは之を自裁に待たなければならぬから之が指導を必要とする依つて當面の問題を解決するにも須らく此の指導法を案出するを要す比較的容易に試み得べきは會員を本位とし會員外の人を誘ひて男女を問はず（未成年者を除く）

甲、毎月一日と十五日との日出時に大連神社に參拜し此處にて各回短時間一人の名士に請ふて社會問題に關する講話を聽取すること、聽講料は一回金十錢を拂ふ（賽錢を含む）

之にて敬神、早起、時守、自裁の心を養ふ

乙、毎月第一及び第三日曜日の正午に於て料理場を有する學校等にて一汁一菜料理（家庭饗應を標準とす）を催ふし現場において其の精算をなし實費一人一圓以内を徵す

之にて聖旨奉體（質素）、男女社交、家庭饗應及び現金支拂の練磨を爲す

丙、前項に準し適宜の場所を選み一家の冠婚葬祭等に對する意志表示の會合を催す

之にて虛禮廢止、經費節約の實行に入る

團體的のものは相當の設備と經費を要するが故に暫く時機の到るを待ち尙ほ專ら個人的のものにつき工風を凝らすを可とせん

評議員　田邊敏行

一、衣食住に關する件

衣服、髮飾り、指輪等は各自身分相當なるべきこと勿論なるも之を各會員申合せて具體的に制限するやう各婦人會に勸告すること

一、社交儀禮に關する件

宴會は社交に重きを措く以上待合兼業の場所は第一に之れを避くること

訪問を受くるもの丶職業に關係ある用務は特殊又は火急の場合を除くの外その事務所に至り簡潔に用辨することに努め而して私交以外の自宅訪問はこれを爲さゞること

官衙又は大會社の人が一時旅行するに當り其の內部の下級者が一々その送迎を爲すは特別の場合の外全く無意義にして却つて心事の陋を含むことあるに依り之は向後廢止するか或は成るべく遠慮するやう勸告すること

評議員　村田懿麿

(一)時間厲行、(二)貯金の厲行(愛國貯金)、(三)徒步主義、(四)背廣主義、(五)宴會を質素にす、(六)猥りに贈答、送迎を爲さず、(七)猥りに寄付を爲さず又出金を要する勸誘紹介を爲さず

右を實行事項とし研究事項としては

(一)現金主義、(二)疊生活廢止の普及、(三)市場の改善及び其の利用、(四)冠婚葬祭の改良

實行方法は別に之を定むべし

評議員　黑崎眞也

一、時間を厲行する事

時間の約束は汽車の發着と同樣に心得たし

二、日出と共に起き出づる事

病氣の場合を除く外早起を厲行し之れと同時に夜更かしを廢めたし

三、現金賣買の事

日常生活に必要なる品物の賣買は總て現金拂ひとすべし尤も主婦不在のとき又は賣る方にて直ちに現金を受取らしむべき使用人なき場合等には自から例外あるべし

四、間食を廢止する事

菓子、果實等も一定の食事時間以外において成るべく之を用ゐぬ事にしたし

五、宴會の數を少くする事

例へば同一人を送別するに名前を替えて度々宴會を開くが如きは避くべき事なり大抵の宴會は茶話會程度のものに改めたし

六、杯の獻酬を廢する事

而して擧杯を以て之れに代ゆべし

七、送迎を簡易にする事

新たに來滿の人を迎え又は滿洲より轉居する人を送るは至當の事なるも普通の用件にて內地に往復する人を一々送迎するが如きは虛禮に屬す

るを以て見合はすべきなり

八、衣服は華美に流れぬやうにする事

通學の子女は專ら實用に適する衣服を用ひ裝飾を避くる事にしたし美服を着けて集合する婦人會は之を解散すべし

以上に對する實行方法は結局各自の自覺に俟つの外なきも會員組織として其內自己の實行する條項だけを名簿に登記し置き實行破れたるとき之を抹消する事とせば多少の效果あるべし

會報を年二回位發行し而して其の會報にて各自の遵守條項を公表したし

評議員　寄藤好實

一、總ての集會は必ず定刻に開會する事

本研究會は集會の催しを知りたるとき其の主催者に對し右の旨趣を勸告すること

二、特別の場合を除くの外、訪問時間は午後三時より五時までとする事

訪問時間以外の訪問は必らず先に打合せを爲したる後においてすること

三、結婚の祝儀返し並びに葬儀の香奠返しはこれを全廢すること

四、盆暮の贈答を全廢し特別の場合の外手土産もまた之れを廢すること

五、船車の送迎は近親者に限ることゝし近親者以外のものは必要に依り總代を以て敬意を表する方法を採用すること

六、婦人の普通禮服は黑木綿紋附とし結婚の場合においても彼の色直しと稱する着換への如きは之れを廢すること

評議員　川上賢三

一、年末、年始、中元等の年中行事に屬する品物の贈答を全廢すること

一、祝儀返し香奠返し病氣見舞返し並に葬儀の生花、造花、放鳥の贈物を全廢する事

一、葬儀の途中行列を廢すること

一、公式宴會には一切藝者を用ひざる事

一、公休日以外運動場の使用を許さゞる事

一、男女とも夜分は必らず十一時までに歸宅する樣にし戶締りを嚴にする事

一、出席人員の定限なき各種の會合は必らず定刻に間違ひなく開會する事

評議員　土田忠二

一、馳走は成るべく手輕にすること

一、特別の場合を除ける外、來客に茶菓子を出すことを廢すること

一、無意味なる物品の贈答を廢すること

一、時刻を厲行すること

一、送迎は必要なる程度に止むること
一、献酬はこれを廢すること
小生自身行ひ得るもの右の通り之を廣く行き渡らしむるに就ての名案なし唯同志の者の一人にても多く出で來らん事を望むのみ

評議員　蔦井新助

一、各家庭に收支の豫算を作成する事
一、現金取引を勵行する事
一、貴金屬及び華美の裝飾品を禁ずる事
一、住宅改善を官規にて爲す事
一、時間を勵行する事
一、冠婚葬祭は簡略にし宴會の會費は少額にし贈答は誠意を以てする事

幹事　高橋多佳次

一、葬儀は途中行列を廢止し時間を嚴守し一般者のため告別式を執行すること
二、特別の外、送迎會を廢し又送迎の場合には名刺の取次所を設くること
三、公會席上の喫煙を禁ずること
四、九月一日を永久に記念する爲め寄附デーを設け商人は當日の純益金の五分、俸給生活者は收入の三十分の一を夫れ〴〵醵出し市役所においてこれが取扱ひをなすこと

五、電車内に社會箱を新設し乘客は通行税の意味にて一回一錢づつ投入すること此の醵金を以て道路標識、街頭唾壺、共同便所、其他必要なる社會的施設をなすこと

猶ほ山田幹事長より九月一日を國民克己デーとする事、市場を改善擴張し巡回市場又はフリーマーケットを設け日常生活の利便を增進し自然に現金賣買の習慣を養成する事等の提案あり各自意見を交換したる後、時間勵行、冗費節約、貯金奬勵、宴會の質素、贈答の簡略、虚禮的送迎の省略、慶弔に對する儀式の儉素、服裝の事その他について審議決定することゝなりしが時刻切迫せるため更に今一回會合を開くことゝして午後十時散會したり。

第三次特別評議員會は十日開催

副會長今景彥、相談役相生由太郎、村井啓太郎、評議員村田懿麿、田邊敏行、山西恒郎、服部精四郎、佐藤至誠、川上賢三、香山喜一、寄藤好實、土田忠二、蔦井新助、幹事長山田武吉、幹事大内四郎、高橋多佳次、書記永田榮藏の諸氏集まり前回における未決事項についての審議を遂げしうへ二三の追加事項をなし斯くて生活改善問題の審議を了し左の如く決議せり。

生活改善ノ要項

第一、時間ヲ嚴守スル事

イ、會合ハ必ス定刻ニ參集スルコト

ロ、成ルヘク閉會時刻ヲ豫告スルコト

ハ、訪問ハ時間ヲ打合ハセタルウヘ爲スコト己ムヲ得ザル場合ニハ先方ノ迷惑トナラザル時間ヲ擇ブコト

ニ、事務上ニ關スル用談ハ成ルヘク私宅訪問ヲ避クルコト

第二、冗費ヲ省キ貯金ヲ奬勵スル事

イ、克己貯金ヲ爲スコト

ロ、寄附ハ濫リニ之ヲ爲サザルコト

ハ、先方ニオイテ出費ヲ要シ迷惑ヲ感スル如キ紹介ハ之ヲ愼ムコト

第三、宴會ハ成ルベク之レヲ避ケ且質素ニスル事

イ、献酬ヲナサス擧杯ヲ以テ之ニ代フルコト

ロ、當分ノ間、忘年會並ヒニ新年宴會ハ之レヲ見合ハスコト

第四、贈答ハ簡略ニスルコト

イ、年末、年始、中元及ヒ手土産等ノ贈答ハ之レヲ省略スルコト

ロ、慶弔ノ贈物ハ之レヲ濫リニセス其ノ返禮ハ省略スベキコト

第五、虚禮的送迎ヲ爲サザル事

第六、慶弔ノ儀式ハ儉素ヲ主トシ葬儀ハ途中行列ヲ省ク事

第七、服裝ハ質素ヲ旨トシ大抵ノ場合平服ヲ用井ル事

第八、瓦斯、電氣、上水其他公共生活ニ關スル物資ヲ濫費セザル事

此の決議は約二萬枚直ちに印刷に附し之れに左記の如き會長の通牒文を添ねて關東州及び滿鐵沿線重要地における重なる官公署、學校、會社、銀行、其他の公私團體に汎く配布し研究會々員には漏れなく送附し殊に各學校には敎職員並に生徒に各一枚宛送り生徒をして之を家庭に持ち歸らしめ室内の見易き處に張り出し永く保存せんことを夫々その校長に向

け生徒に注意方を求め婦人團體その他の團體にも二三百枚宛一纒めにして送り滿鐵會社には各部、各課及び其の附屬機關に悉く配布せり

金子會長の通牒文

拜啓　國民生活の改善及び其の節約緊縮の必要は夙に叫ばれたる事に候も兎角空言に終り實行を期し難かりしところ九月一日の母國關東地方における災禍は期せずして國民を反省せしめ今や到る處に其の實を擧げんとの眞摯なる企て有之候仍て滿洲に於ても此の機會に衣食住並に社交儀禮等の全般に亘れる生活改善を實行し一時社會を風靡せし浮華、輕佻、奢侈、贅澤の弊風を打破し勤儉、質實、剛毅、堅忍の氣風を作興し併せて思想界の善導を圖ることに致度玆に本會決議の生活改善に關する要項別紙の通り贈呈御熟覽を煩はし申候、申す迄もなく此種の事は各界、各階級、各團體の協力一致を得ざれば到底その實を擧げ難き儀に候條貴所に於ても夫々事項の周知方と其の實行方法を立て熱心且眞摯に國家並に社會の爲め御努力被下度此段特に得貴意候　敬具

大正十二年十月

以上の如くにして本會は微力ながら出來るだけのベストを竭せし次第なり世間の中には印刷物をバラ撒き大きな文字にて人心を作興せんと欲するも开は餘り效能なしと云ふ人もあるが斯かる場合には宣傳といふ事も極めて必要なる行動にして要は各自において實行を期する樣にし相共に奮勵努力するの外なきなり元來本會は研究調査を主とする間接機關なれば調査研究及び宣傳等をその本來の任務とするものにて例へば我が大原社會事業研究會若くば米國の樞要都市に設けられたる社會事業同盟會（別掲の研究資料欄における「社會事業同盟會と共同募金」の記事を是非とも一讀ありたしの如き調査研究及び宣傳の機關にして此種の機關の極めて須要なることも今更辯ずるの必要なかるべし何事も調査研究と實行と相待たざれば萬全を期し難し實行機關あらば其の一方に調査研究機關もなくてはならぬものなり況や調査研究は問題の全般に涉り常に全局に注意して事に當らざる可らざるものなるを以て此間の責務は頗る廣汎なり這次の生活問題については出來るだけ固より實行を期すべきも結局は各人の自覺と誠意の協同努力に待たざるを得ざるなり。

× × × × × × × × × × × × × ×

看板に僞多き世の中

上田恭輔

古諺に『看板倒れ』と申して、別段ゴマカス積でなくても、餘りに看板が立派過ぎて却つて世間から善意に認識され無い商賣人がある。個人としても、相當の學識才能のある人にも拘らず、偶々實力以上の飛び放れたエライ肩書の役目に就職すると、間も無く世間から無能呼はりされて不幸な目に逢ふことがある。況んや今の世の中には看板に僞あるものが頗る澤山ある。明治の初年、甫めて自由民權を唱道した人は、自分の家庭に於ては極端なる專制暴君であつた。彼と對抗して同じくデモクラットの旗頭であつた人も、己れの家庭を治め得ないのみならず、日本一の高等不良少年の爲めに系圖を破壞された。其他、國士と稱し志士哲人と呼ばれる名士の後繼者に概して不良少年が多いのは不思議である。

公共事業に奔走して新聞紙上に屢々その名を揭げられる婦人連の家庭を窺へば丸切り成つて居らぬものが多い。西洋の樣に未婚の學者風の老婦人または寡婦連ならばまだしも、家内に二三人も小供のある女が公共とか社會事業とかに飛び廻つて、ドウして兩兎を獲ることが出來るものですか？、ましてや此のやうな婦人の亭主には概してノロイ男が多いから益々その家庭がゼロとなるのは素より當然と言はねばならぬ。西洋の諺にチャリテイー・ビギンス・アットホームと言ふのがあるが、實に千古不朽の名言

であつて、確かに善事は先づ己の家庭に勵行し餘力があれば徐々に外部に及ぼすべきである。社會改良事業の如きも、多數の人が精神的に一致せなければ高遠の思想、萬人萬口の賛同する事柄でも、實行は出來難いものである。一部の有志者が若干名集會して如何に立派なことを議決しても、民心擧つて自然にその方に向きを直さなければ、折角の名案も大抵は龍頭蛇尾に終つてしまうものだ。

今回の有史以來空前の帝都の災厄に對する善後策に就ては、畏れ多くも難有き勅諭が出た。また勿體なくも皇室自らその範をお示になつて居る。然しこれとても國民をして皇室に習へとの御思召では無く寧ろ爾今帝國臣民はかくの如き精神を以つて立てとの御訓戒であるかの如くに心得る。震災後到處に質素勤儉主義の唱道されて來たのは實に結構なことではあるが、要は陛下の大御心を體して、萬民が心を一新し魂を入れ替ゐなければ何の役にも立たぬ。之れまで遣つて居つた遣口は惡い、コンな事では行かぬと各自に自覺してこそ、始めて高遠の理想が實現するのである。不言實行でなければ理想の目的は遂し得るものでない。陣太鼓を敲いて宣傳する徒には

却つて好果は擧がらず、寧ろ滑稽極まる矛盾の生ずることがある。現に昨今東京では、絹物を着て居ると擲られると言ふので、山の手通の燒殘り連が無暗と綿服を調製して餘分の金を費して居る。偶々近視眼者流の野心の奴隷が銘仙着服を唱道するので、御蔭で三越は繁昌し、疲弊のドン底に墮ちて居た足利地方が復活した。禮服廢用が昂まつて來るので俄に脊廣服を注文する馬鹿者もある。此輩は世論に迎合せんと努める所謂看板に僞ある徒であつて、大震後に處すべき精神が出來てない人々である。

吾人は思ふ、爾今當分衣服は一切新調せず、不斷着が無くなつたら、フロックコート乃至裾模樣の紋付を平氣で着て步く勇氣と決心ある男女が現れて來なければダメであると。徒步主義などを主張する者も少々常識が缺けて居る。當今苟くも業務を有つて居る者が、徒らに貴重の時間を空費することは良くない、下級者などの靴の相場も考へてやらねばならぬ。徒步は休日保健の爲めに奬勵したいものであるが、其實徒步主義を唱道する者で自動車で飛び廻る者があるから、此の世の中には看板に僞が多いのである。集會に關する時間勵行が出來ないのは主人並

に主催者が悪いのである。少し豪い人又は身分のある人が遅刻する場合に、その會の主人なり主催者なりが折角指定通りに參席した正直者を長く待たすから、自然時間厲行が出來なくなるのだ。

慶弔の贈答も或る點までは美風である。要は程度問題であつて必らずしも全然排斥すべきものでない年賀狀の如きも、近年個人主義が跋扈し、古來の國風が自然消滅するの虞があるので、佛蘭西の如きは年賀名刺郵便に對し特別に賃金を低減してある。スコットランド人も年頭の名刺交換を努めて實行して居る。送迎、禮裝の如きも、母國の同胞と我々海外に於て異國人と雜居して居る者との間に、大なる差別のあることを覺知せねばならぬ。況んや禮節を重んずる人種の間に介在して居れば、無理にもシミタレた風をせない樣に心懸けねばならぬ。禮裝を要する所には實質は粗惡でもムサクロしくない禮帽禮裝を着用して貰ひたいものである。羊羹色のフロックやグラッドストン時代のシルクハットよりは紋付羽織で堂々と押出した方がいゝのである。

送迎の如きも時と場合による。御機嫌取、幇間的自家廣告風の唾棄すべきは勿論であるが、遠く波濤を越えて來たもの、また行くものを送迎するのは賞むべき美風であつて、決して排斥すべきものでない吾人は送迎を廢する前に、袴田可坪君が嘗て海友誌上で唱道された如く、母國からの船が入港した時は花火を一發揚げるか、大阪商船旗を市中各所に揚げその下に赤玉一個を吊げ、檢疫中は二個、岸壁に着く二十分前には三個と言ふ風に合圖を示して、市民の時間の空費を救ける樣にしたいと思ふ。社會事業研究會の如きは其衝に膺つてチャリティー、ビギンス●アットホームを實行すべきであらう。高遠の理想は兎も角、當分外國より輸入したものは買はぬ樣にしたい。一人が一箇年拾圓分の舶來品を購入せなかつたならば、帝都の復興費は十年を俟たずして恐らく自然と湧いて來るだらう。（十月十日）



考慮を要する失業問題

中央職業紹介所　上木嘉雄

日本には未だ勞働保險や失業保險などの完全なものが無いために如何程の失業者數があるかと云ふことは確實に知ることが出來ない狀態にある。或は二十萬と云ひ或は四十萬と云つて見方に依り各異なつてゐる。かく數の上では確實なところを知ることは出來ないのであるが、唯その數が年々月々增加しつつあると云ふことだけは疑ふ餘地のない事實である職業紹介所が東京に出來たのは明治四十五年の事であるが當時紹介所で取扱つた失業者の數は約六千人であつた。それが大正十一年度になると失業者の求職數は約二十七萬八百零九人といふ驚くべき增加を示してゐる。その後も求職者數は增加するばかりで最近の統計に依ると、大正十年一月に於ける求職者全數を一〇〇と見るならば、大正十一年一月の求職者は六一二となり、同年十二月に於ては一二〇九となつてゐる。十年一月の統計の約十二倍の增加率をなして居ることになる。失業者は此くの如く數において著しく增加しつゝあると同時にその種類も極めて多樣となつて來てゐるのである。

從來紹介所の取扱つてゐた求職者の多くは、下級の人夫とか筋肉勞働者職工などの職業としては極めて低級なものであつたのが、現今に至つては機械工電氣工の如き產業的工業的失業者が著しく增加して來た。又從來の失業者の多くは自分の從事してゐる職業に滿足することが出來ないで他により良い職業を求めんとするための求職、謂はば失業の原因が自己の理由に因るものであつたのに反して、現在の失業者は自分は今の位置職業に滿足してそのまゝ就職してゐたいのであるが、經濟界不況のために工場の閉鎖とか生產額の制限などに基く人員の淘汰に因つて、自己の意志に反して止むを得ず失業しなければならないと云ふ、謂はゞ外的原因に依るものが多くなつた。從つて求職の性質も直接パンの問題に關係があるので過去のものに比べると極めて重大な内容

を持つ機になつて來てゐるのである。殊に失業者の種類の增加した中でも注意しなければならない問題は知識階級者の著しく增加して來たことである。從來知識階級の求職數は極めて僅少であつたのであるが、現在統計に示された數に依ると、全失業求職者數の二十七パーセントから三十五パーセントは知識階級に依つて占められてゐると云ふ狀態に立至つた。斯くの如く知識階級の失業者が激增して來たと云ふことは、一方から考へると、國家の柱石として常に國民の活動力の源泉たるべき中產階級の沒落凋零を意味する極めて憂慮すべき前兆とも見ることが出來るのであつて、これは正しく忽諸に附することの出來ない重大なる社會問題である。

世の識者はこの問題に果してどれだけの研究と顧慮を拂つてゐられるであらう乎。經濟的にその生活能力を失墜した中間知識階級は現在よりも社會的位置が或は低下するかも知れない。低下すれば經濟的に同じ苦境にある筋肉勞働者の群と提携することは寧ろ當然の結果である。食ふことの出來ない者は同じ仲間と提携して食ふ道を講ずるに至るものだ。殷鑑遠からずロシアに於ける實例に徵して見ても想像の出來ることは明かであらう。元來知識階級なるものはその經濟的生活に於て筋肉勞働者と選ばない即ち無產階級である。然るに普通の狀態にあつてはその持てる知識に依つて時に勞働者の指導者となり時に資本家の顧問となると云ふ狀態にあつて、謂はば兩者に對する寄生虫の如き階級であるが、一朝失業してパンの爲め苦境に陷るといふ事になれば、彼等は當然經濟的に同じ立場にある筋肉勞働者の群と提携するに至るのである。若し知識階級が勞働者の群と提携して彼等の要求を徹底せんとするに至らば無產階級の團結的勢力は眞に恐るべきものとなるのである。この知識階級者と勞働者の確實な提携さへ無ければロシア及びその他數箇國において爲された樣な恐るべく社會的災害は起らなかつたであらうと考へられる。この點に關しては日本の識者の最も愼重なる考慮を煩はしたいのである。

知識階級の失業者と共に戰後において著しく增加して來たのは婦人職業の問題である。廣い意味の婦人問題には司法行政上の平等權要求や人格的獨立なその思想問題が內容となつてゐるが、如何なる意味に於ても女子の經濟的獨立と云ふ問題は婦人問題解

決のアルファであり、オメガであることを疑ふの餘地がない。然し乍ら婦人問題の解決が女子の經濟的獨立にあると云ふこと、女子が從來の消費家庭經濟から遠ざかつて直ちに國家の生産經濟に走ると云ふことが、果して女子をして進むべき理想的の道程であるか何うかと云ふことは、自ら別の問題である。歷史的に見れば、原始時代に於ける食物摸索時代にあつては今日の如き生産經濟に基く職業と云ふものがなかつたし、男女何れも獨立した職業を持たなかつたのであつて、今日の職業なるものは近時に於ける生産經濟の發達と共に生じたものと見ることが出來る。たゞ性的その他の理由から女子は内に男子は外にと云ふ因習が生じて今日に至つたのである。かく長い歷史を背景とし今日の消費家庭經濟の上に置かれた女子がそれとは甚だ關係の少い積極的生産經濟に參與すると云ふことは甚だしい過渡期を經過しなければ成らないことゝなる。婦人問題の點から云つても、また現在の經濟狀態から云つても、女子が獨立した經濟生活を要望するのは當然であらうと考へられるのであるが、女子の眞に進むべき道が生産經濟に參與する職業婦人にあると云ふ思想に對しては大いに警戒しなければならぬと思ふ。

現在工業方面に活動する婦人は大正三年に九十三萬であつたのが大正九年には九十八萬の多きに上つてゐる。收入の點から云つても男子に對抗するだけの額を取ることの出來るものは殆ど無いと云ふ狀態である。この紹介所に來る婦人求職者に依つて調べて見ても、その多くは家庭經濟に深い關係のあるものであつて、或る期間就職すると云ふ程度のもので經濟的に獨立しなければ自分の生活を維持することが出來ないと云ふ樣なものは全數の二十パーセントを超過しない。殆ど總ては家庭經濟を前提として一種の經驗を積むといふ程度である。現在の場合婦人職業問題は思想的又は經濟的には重大な役割を演ずるものであるが、その内容に至つては極めて貧弱なものである事を知らなければならない。

猶ほ震災後における失業問題については一段考慮を要することと勿論であるが、其の場合には智識階級の失業者が一層著しく增加するから、此點に甚大なる注意を加へ、社會の中堅力たる中産階級が失業のために滅亡する事のないやう、政府及び篤志家において愼重に之が對策を講じて欲しい。

利己主義と社會共同生活

林　愛作

西洋の物質的文明が移入されてから、保守的日本人は急激に利己主義に宗旨換へをした、宗旨換へも宗旨換へ甚だしき利己主義に變化した。此點では西洋人も三舍を避くるの觀がある。藍より出でゝ藍より青しと云ふ言葉は蓋し歐米の物質文明を誤つて模倣した現時の日本人に適用するに相應はしい言葉と思ふ。然るに利益を尊び唯利の觀念の强烈なる歐米人は、一面に於て極端なる利己主義であり唯物的であると共に、他の一面に於て共同生活に對する義務觀念が中々に强烈である。共同生活の利益の爲めには甘んじて自己の利益や我儘を棄てる丈けの公的精神に富んで居る。近來の我が國民の氣風とする我利我利とは聊か趣きを異にしてゐる。我が國民が歐米就中米國において排斥せらるゝ理由は何處にあるかと言へば、彼等勞働者が賃銀の低廉なる日本勞働者に對して嫉妬を感ずるからであると解するは、唯一面の解釋であつて、實は移住日本人が郷に入つては郷に從への諺に背いて彼等の習慣國風に同化せざるの點も與かつて力あるのである。隣人が靜肅を要する場合に若し聲高らかに放歌喧囂を極むることあらばその隣人は如何に迷惑することであらう。隣人に迷惑を與へてはならない、隣人に不快の感を與へてはならぬと云ふ觀念は、共同生活を營む上において最も必要な最も大切な精神であるが、遺憾ながら我吾日本人にはこの精神が缺けてゐる。

私自身痛切に我が國民が如何にも利己一點張の不愉快な國民性を持つて居ることを感じた一例があるそれは他でもない。私は最近東京府下駒澤村に新住宅を構へたところ、或る問題が道路の新設と共に起つた。元來道路は萬民共有のものであり、一面都市の美觀にも影響するものであるから、成るべく規則正しくし、そして潤きが上にも潤きがよいのである斯ういふ意味から、私は自分の住宅への道路は幅四間とし、一直線に本道路へ通ずるやうにし度いもの

だと思つた。それで附近の地主に交渉して、相互の便利と市街の美觀の爲め、比較的低價に讓り渡しの事を協議した。然るに一寸の地所でも飽まで固守しやうと云ふ地主氣質と他の脚下を見込んで俄に暴利を得やうとする利己心とは私等の希望する意味を充分に諒解しなかつた。私は自費を投じて新開の道路を村民公共の爲めに寄附しやうと云ふのであるから地主はその道路の敷地を寄附しても然るべきものだが、私は相當の代價を支拂はうと云ふに拘らず、無法にも馬鹿々々しき高價を貪る不了見のものありし爲め、遂に眞直にすべき道路が歪みなりに出來上つたのである。斯ういふと徒らに私憤を洩すやうであるが、決して私憤でも何でもない、私は村即ち社會公共の爲めに美にして且正しき道路を開設せんとしたるに、沿道の地主の卑吝なる利己的精神から、遂に私をして不快にも又不本意にも曲り歪みたる道路を開くの止むなきに至らしめたのである。

以上は私自ら泌々實驗したる苦痛であり、不快であるが、我が國民の利己主義は啻に是れのみでない彼の倭少な住宅に馬鹿々々しき高價を拂つて塀を繞らして居るのでも如何にその利己的であるかを知ることが出來る。繞らすに塀を以てする此の一事は卽ち利己主義の看板であると言つてよい。庭内の美觀を他に覗はしめず自分のみ美觀を獨占せんとする處から塀が必要になつて來るのである。衆と共に樂むといふ開放的な處がなく、自分さへよければよいと言ふ例の島國根性から墻が必要になり、道路が狹隘になり、總てが亂雜と不統一になるのである。粗製濫造ら、商人の暴利主義も、世界の彼方此方に起る排日の聲も、要するに墻を高ふする利己的精神が招徠したのである。今や日本の問題は日本のみで解決出來ぬ時代になつて來た。日本が一寸進む間に世界は一尺進みつゝあるのだ。眼界を濶大にし、利己心を抑制し、社會共同生活の眞理を味ひ、社會連帶責任觀念を養ひ、その道德と精神を高め、萬事に紳士的ならんことを希望せざるを得ない。

猶ほ利己主義が社會共同生活を阻害する例を擧げると多々あるが、之を矯正する手段としては、社會敎化事業を大いに進ませ、小學校及び中學校にも社會敎育の課目を設け、共同生活の意義と公共道德の涵養に意を用ひ、更に進んでは社會的の成人敎育を普及することが極めて必要であらう。

關東州と滿蒙政策

兒玉新關東長官の着任した機會に

山田芙峰

現在の關東廳が關東都督府と稱した時代には、大島陸軍大將、福島、中村(覺)、中村(雄次郎)の各陸軍中將が軍服姿で威容を張つたものだが、關東廳となつてからは、其の長官は丸腰の文官となり、初代が外交官の林男、二代が行政官の山縣公、三代がまた外交官の伊集院男、四代が今度新任した行政官の兒玉伯で、外交畑の人と純行政官とが丁度迭み交りに任命された譯である。サーベルを佩びた武官都督を廢したのは、原内閣時代のことで、臺灣及び朝鮮の總督を文武官並用に改めたと同時に、都督府を關東廳と改稱し、その長官を爾來全く文官に限つたのである。朝鮮總督は海軍武官たる齋藤男が引續き其の任に當つてゐるが、臺灣總督は明石總督を最後の武官總督として其後は田男、内田氏と二代まで文官が續いた。總督は文武官並用主義だから又ぞろ臺灣に武官總督の任命を見ることが無いとも云へないが關東長官だけは文官に限られた譯である。外交畑の人が二度まで顏を出したのは、關東州が支那の特殊領土たる滿蒙に連なり、延いて支那本部とも關係を有し、更に北滿洲及び内外蒙古を通じて露領西伯利に接續し、對支並に對露政策上相當の考慮を要すと認めた爲でもあらうが、租借地關東州の仕事は純然たる行政範圍のものであるから、必ずしも外交官でなければならぬと云ふ理由はない。

猫額大の内地の一地方位に過ぎない租借地關東州に當初都督府といふ帝國主義。軍國主義を思はせるやうな特別な役所を何故設けたかは、今日詮議の限りでないが、當時は武斷的帝國主義の前露國が西伯利を踏臺にして北滿洲から外蒙古方面にかけて頑張つて居た折柄であり、英佛獨の三國も支那に對して

帝國主義的政策の遂行に鎬を削り合つた時代であるから、それに眞似たとも或はそれに備はれた爲めとも解釋して然るべきであらうと思ふ。然るに歐洲戰爭を一轉機として世界の形勢はガラリと變つた。ロマノフ王朝の顚覆と共にミリタリズムの權化とも謂ふべかりし露西亞は滅亡し、レーニンを中心とする現在の社會主義的ソヴエート聯邦共和國が生まれ、カイゼルが荒鷲のやうに羽振を利かして居た獨逸帝國も斃れて今日の社會主義的共和國となり、西大陸の北米合衆國が俄かに世界の覇者となつて東洋問題に喙を容れるといふ有樣、そして社會問題、勞働問題が內治上の重要問題となつて來たと同時に、對外政策の基調も隨つてまた一變せねばならぬ時代となつて來た。露獨といふ二ツの大きな敵手が失はれてからの英佛伊の對東洋政策、殊にその對支政策は大分變化したが、帝國主義の色彩が全然無くなつたわけではなく、今日は世界の覇者たる米國を中心にして資本主義的政策が濃厚となり、それが軍國主義に代つたやうな點もある。つまり經濟的文化的に遣らうと云ふのだ。米國の支那に對するお節介は今に始まつた事ではなく、ノックスの鐵道中立提議、錦愛鐵道敷設計畫、ストレートの借款籌備などで滿洲に早くもその片鱗を現はすと共に、我が日本の二大戰役が東洋の平和維持と自衞とのために行はれた立派なものであるにも拘はず、我國を獨逸流のミリタリズム國なるが如く誣ゆる者もあり、四邊の雰圍氣が甚だ險惡となつて來た。軍國主義を思はせるやうな關東都督府が撤廢されて丸腰の文官を長とする現在の關東廳が出來たのは此間のことで、それは慥に賢明な改め方であつたと云へるのである。

　覇道的軍國主義を基調とし、租借地關東州を根據地として滿蒙に臨み、延いて支那に高壓電氣を感ぜしめるやうな遣方はモハヤ行はれない。征服侵略を夢みるは愚だ。そんな時代は旣に去つた。華盛頓會議以來、我國は山東を支那に還附し、彼の對支二十一箇條中の滿蒙に關する事項、即ち鐵道敷設、諸稅擔保の借款及び政治、財政、軍事の各顧問についての優先權も自發的にこれを放棄したから、剩すところは七箇條で、旅大租借權、南滿洲鐵道經營權及び土地商租權等がその中での重なるものである。支那は廿一箇條全部放棄を望み、露淸原約に據れば本年三月が旅大租借權の滿期であつたので、盛んにその

回收を叫んだが、我國の誠意と王道的平和主義とは二十一箇條を大部分無效に歸せしめた事によつて既に明白となつたのだから、此上の讓步は斷じて出來ない。日支新條約による他の既得權は飽くまで之れを維持し、支那と相提携して此の半開地たる滿蒙大陸の文化的開發に當り、これを世界に公開し、日支兩國及び兩國民の共存共榮と共に世界人類社會の共同福祉を增進するに努めねばならぬ。これが我が滿蒙策の第一義諦である。滿蒙は支那に取りても特殊的領土だが、日本に取りても特殊地域で、國防の上からも、我が國民の經濟的生存の上からも、極めて重要な土地である。過剩人口の移植地としては不向きであるが、食糧問題の解決地としては大いに望みを囑すべき處であるから、今後の我が滿蒙策は王道的平和主義を基調として文化的、經濟的、社會的にその步を進むることゝせねばならぬ。

斯樣な次第であつて、嚴めしい軍服を着た武官を頭に戴く關東都督府が撤廢されたのは、至極結構な事であるが、租借地關東州を策源地として如上の王道的平和主義の滿蒙策が十分に行はれ得る乎、それが關東廳によつて果して遺憾なく行はれ得る乎と云ふと、此點は疑問である。警務だけは滿鐵沿線に伸びて居るけれども、關東廳の行政權の及ぶ範圍は自から限られてあるから、關東廳によつて滿蒙策の第一義諦を滿足に擧げ得らるゝ筈はない。これは何うしても滿鐵會社の仕事である。山縣長官時代には關東廳の規模を擴張し、勅任局長を增加し、滿鐵會社が國家に代つて行つてゐる沿線の附屬地行政、市街經營、衞生、敎育、產業、商工等の諸施設を關東廳の手裏に收め、滿鐵會社の仕事を鐵道、海運、鑛業等に限り、政府の持株に對する配當といふ意味で滿鐵が每年政府に納める所謂貢納金なるものを右と相殺しやうと目論んだらしいが、それは到底出來ない相談であつた。當時滿鐵に政黨の弊が浸潤し、塔連炭坑事件など惹き起し、滿鐵に暗い影が射した折柄なので、山縣長官の大きな抱負に相當共鳴したものも有つたやうだが、條約を改めぬ限り、關東廳の行政權を滿鐵沿線地方に及ぼすことは出來ない。假に出來たところで、役所風になると角が立ち、面倒が多くなり、前垂掛けでアッサリと遣つて行ける滿鐵會社の遺口のやうに參らぬから、王道的平和主義の滿蒙策を却つてぶち壞してしまうやうな結果になら

ぬとも限らない。山縣長官の理想が實現されなかつたのは怪むに足らない。關東廳が滿蒙策遂行の主體となることは到底出來ないのである。

朝鮮は朝鮮總督府、臺灣は臺灣總督府がそれぐ\中心になつて統一政治を行つて居るが、滿洲には關東廳、滿鐵會社、領事館の三機關が鼎立して統一が取れない。滿洲の三頭政治といふ事が夙に問題視されたのは之がためである。併し滿洲は支那の特殊領土であつて、朝鮮や臺灣の如き日本の新領土ではなく、租借地關東州も純然たる植民地でないから、其處に複雜した關係が生ずるのは已むを得ないと言ふよりも寧ろ當然であるといつた方が適當である。朝鮮銀行、正金銀行、東拓會社といふ風に滿洲の金融機關が今以て統一されないのは、當初の出發點を誤まつたがためで、それとこれとは自から事情を異にして居るが、滿洲及び關東州といふ處は土臺が複雜になるべく出來上つて居るのである。朝鮮や臺灣の例を以て律するのは間違ひだ。巷間傳ふるところに據れば、山本現內閣は普選を卽行して內治に革新を施すと共に、對支策にも更新を加へ、滿蒙に對しては滿鐵沿線附屬地以外にも仕事の出來る樣にし、その仕事は主として滿鐵をして之れに當らしめる方針であると。土地商租問題さへ煮え切らぬ今日、現內閣が滿蒙に對して果して何んな積極政策を行ふかはこれを今後の事實に徵するの外なきも、王道的平和主義の滿蒙策は元來滿鐵會社の行ふべき國家的特殊使命であるから、滿鐵中心の滿蒙策が新生面を開き來らんことは何人も望む所であらう。

そこで問題は關東廳の立場如何である。都督府を關東廳に改めたのは當然だが、關東廳を中心に滿蒙全體の文化的開發を圖るといふ事は事實出來ないのであるから、關東廳の規模を雄大にして滿蒙に統一政治の實を擧げることは望めない。兒玉新長官の着任匆々、斯樣な議をなすのはお氣の毒であり、また缺禮でもあらうが、大局の上から考へて、關東廳の規模は寧ろこれを縮少し、警務をその主要行政事務となし、滿蒙全體の仕事は滿鐵に行はせ、關東州內殊に大連及び旅順の市政に關する仕事はこれを市自治の行政に委ね、關東廳はその監督官廳として嚴正の立場に在る方がいゝ樣に思はれる。さうすれば經費を節約する事になり、年四百萬圓位の補給金に每年頭を惱ます必要もなくなり、不景氣で商民の困つ

てゐる折柄、煙酒税など賦課して怨嗟の聲を放たれた抔の餘計な事もせずに濟むだらう。以上の議は予の一個の私見でなく、實は數年前から有力者間に唱えられ來つた意見であつて、帝國主義、軍國主義の空氣が四邊に漲つてゐた都督府時代なら兎も角、世界の形勢一變し、時代思潮の變つた今日、關東州を根據地として滿蒙全體に向つての覇道的政策を行ふことは出來難くなり、また斯樣な政策はその終りを全ふすべき筈もないのであるから、大局の上から觀て、斯樣な意見が起るのは當然である。山本內閣の中央政府が果して巷間傳ふるが如き對滿蒙策を立つるとすれば、關東廳の規模を今遽かに縮少するといふことも出來まいが、行々はさう云ふ風にし、外交上の問題は領事館に遣らせ、滿鐵を中心にして王道的平和主義の政策を遂行したいものだ。

武斷的帝國主義時代の露國は、西伯利を足溜りとして一方は外蒙古に他方は北滿洲に手を伸べ、着々南下して旅大に出口を作り、更に鴨綠江を踰ゐて朝鮮にまで割り込まうとしたが、我國は一方に朝鮮を基地とし他方に關東州を根據地として漸次北の方に伸びやうと云ふのであるから、順風に帆を上げるとは違つて、丁度逆流に棹すと同樣、頗る遣り難いところがある。まして軍國的覇道主義を排して王道的平和主義で行かうといふのは困難だ。併しこの困難を意とせず飽くまで進んで行くには何うしても滿鐵を中心にして仕事を運ばせるより外に途はない。關東州だけの事なら、別段問題にならぬが、滿蒙といふ大きなヒンテルランドを有し、その背後地に奥深く進んで行くのが滿蒙策の要諦であり、さうしなけばれ日本が活きて行かれず、東洋の文化を進めることも出來ず、日支兩國及び兩國民の共榮共存は言ふ迄もなく、世界人類社會の共同福祉をも增進し難いのは極めて明瞭である。複雜な事實の上に置かれてある滿蒙を我國の新領土たり植民地たる朝鮮や臺灣と同一視せんとするのが根本の間違ひである。形式上の統一などは何うでもいゝ、實力を以て着々歩を進め、半開地たる此の滿蒙大陸に文明の新光輝を放つ事に努めねばならぬ。それは正しく我々國民の責務である。吾々は心にもない意見を吐いて兒玉新長官を迎ふることを欲しない。此の機會に平生懷ふところの卑見を卒直に開陳し邦家百年の大計のため敢て新長官の一顧を求むるのである。

社會問題彙報

早くも薄れ行く震災氣分

今回の震災によりて世の中が餘りに奢りに奢つた天罰で經濟界が激變し必ず國民の生活に一轉機があるだらうと豫想されたが震災後日を經るに從つて生活の改善は想像だけに止まり依然なる慘害前の生活に復歸せんとする傾向を示して居る例へば東京丸ビル前の各商店を見るに各店は顧客が殺倒して殊に舶來品の高貴なものや貴金屬等が相當に賣られてゐる又震災後の二三週間は木綿物の賣行が多かつたが今日では銘仙もの以上の絹物が多く賣れるといふ狀態で商店側では全く意想外の感に打たれて居る更に震災後四週間程は妙齢の婦人で化粧して居るものは發見出來なかつたが此頃ではバラツクに收容されて居る婦人が盛んに化粧して居り震災氣分が漸次市民の腦裏より去つて行くやうな有樣である之は中流以上のものでモラトリアム實施中に小口の金を引出し之がために手許に相當餘分の金があり多くのバラツク住居の家族等と同居して懷ろが暖かくなつたからで一方救濟部から配給を受くる爲め殆んど生活費が要らず旁々金使ひが荒くなる譯であるらしい。

政府は勞働者の金を吸收して物價の昂騰を防止すべく小額債劵發行の計畫もあるやうであるが彼等勞働者は震災以來精神が荒み切つて居り到底將來の計等をする考へは持つて居らぬから結局金使ひは荒くなる許りで物價の昂騰を免がるゝ事は出來ないそうして一般經濟界と云ふ大きいサークルに於て見ればさらぬだに最も大きな消費者たる政府は復興のために巨額の經費を使用し又災害前後のために災害成金が續出すべく旁々一體に金廻りがよくなつて來るから近いうち大景氣が出現するものと思はれて居る災害後當分の間は經濟界は死滅より途がないと見られて居るが近頃全くその反對の現象が生まれ出さんとして居るため政府當局も之を調節すべく馬力を上げて大いに警戒して居ると云ふことだ。

アスファルト道路は危險

大東京の建設に伴ふ耐震耐火の建造物に就いて根本的の研究を要することは勿論であるが九月一日の大震に次ぐ大火の結果として市街道路の建設上に世界的一大革命が齎らされて來た現在世界の大都市における道路の建設殊に自動車道はアスファルト道の右に出づるもの無しとして殆んどアスファルト道全盛の時代を出現したるもので吾が東京及び横濱を始め全國の大都市にも盛んにアスファルト道路を建造施設したのであつたが今度慘憺たる東京市の大火災の跡を視察した內務省牧技師に依つてアスファルト道に基因する極めて恐るべき慘害が發見されたのである。

同技師の後藤內務大臣への報告に依れば此の世界的好評のアスファルト道は今度の大火災の熱で殆んどドロドロに溶解し此の道路上を避難せんとした人々は何れも靴や履物がアスファルトの中にメリ込んで步行の自由を奪はれ逃げ遲れた者が頗る多く就中戰慄すべき事は溶解したアスファルトが化學作用を起して化學上の第一炭化酸素を發生し之れが爲めに無數避難者の生命を奪つたのである而も普通一般の燒死者は地を匍ひヒレ伏しても逃れんとした苦悶の狀が歷然として現れてゐるのにアスファルト道上の死亡者のみは一人として苦痛の模樣を止めず恰も眠れる如くに死亡

してゐる事が發見された小兒に乳房をふくめた婦人ハンドルを握つた儘の電車運轉手メリ込んだ靴のまゝ立往生した動人等凡てがその狀態の儘に呼べども還らぬ空しき骸となつてゐた此の事實は全くアスファルトから發散した毒瓦斯の爲めに窒息死に至つたものである事を物語つてゐるのである殊に此の慘狀の甚だしかつたのは橫濱であつたと云ふ。

愈々出來る大連興風女學校

最初は肉を殺ぎ血を吐くやうな思ひをして泣きの涙で暗黑の巷に踏み込んだものが知らず〳〵の内に放慢粗野に馴れ他は幸ひにも家庭の人となるも多くはこれに堪へず一生を不幸に終るものが頗る多い憂き川竹の流れに暮すそれ等薄倖のものを救助せん目的を以て大連市内に稼業してゐる藝酌婦約一千五百餘名(大連檢番、西檢番、逢坂町、小崗子)に對し普通學及び家庭的技藝を教授しその弊風を矯正し一家の主婦として恥づかしからざるものとすべく昨年春より市内有志各氏が發起となり私立大連興風女學校の設立計畫をなしつゝ有つたが愈々具體案が成つたので先頃民政署に一件書類を添へて願ひ出でた。

右學校の敷地は逢坂町稻荷神社裏の高地を以てそれに充て建築費その他設備費一萬六千五十圓を投じ修業年限を二箇年とし一箇年を三學期に分ち一學期は四月一日より八月三十一日まで二學期は九月一日より十二月三十一日まで三學期は一月一日より三月三十一日までとし一週十二時間一日二時間を教授する豫定で教授科目は普通學は修身、國語、算術の三科目を家庭技藝科には裁縫、手藝、挿花、茶の湯の科目を設けてあるそして最初の定員は二百名を限ることゝし生徒よりは一箇月授業料一圓づつを徵收する筈である建築費一萬七千圓は發起人寄附金二千圓、滿鐵より七千圓、篤志者豫約寄附金八千圓を以てし經費の收支豫算は收入一萬十二圓(春秋二回の溫習會の寄附金が主なるもの)支出六千三百八十圓(教師四名の給料宿舍料その他)差引三千六百三十二圓の殘金はこれを基金として積立つることになつて居るこの計畫は社會的事業とし必要缺くべからざるもので內地各地にも既に施設されてゐるが之が經營に就ては頗る至難で大なる努力を要する譯である分けて滿洲在住抱主等の多くは自己の利益を計らんがため藝酌婦を種々の手段を以て誘惑し一生浮び切れぬ破滅に陷らしめる傾向があり從つて斯かる趣旨の計畫を喜ばざるものがあるので之れをいよ〳〵實施せんとするには如上の傾向に鑑み其の方法に就いて相當考慮研究する必要があらうと某敎育者は語つた。

着工する滿鐵社員俱樂部

久しく問題になつて居た滿鐵社員俱樂部も來年四月頃から二十萬圓の豫算で工事に着手する筈であるが今その詳細を聞くに同俱樂部は現滿鐵本社と第四小學校の中間空地三千九百五十坪を敷地とし間口廿二間半奥行四十間の三階建(地下室附)とし地下室は料理、汽罐室、劍道、柔道部(主として道具を藏置)師範室、配膳室を一階には大集會場(十間に八間舞臺附)、球戯、娛樂、浴室、更衣室を二階には大集會場の上にトラック及び談話室、四小集會室、露臺二を三階には三小集會室を設ける豫定になつて居る大集會場は約二三千人を收容する力を得せしめる設計で漸次圖書室その他の室をも設ける事となつて居る食堂も少くとも四百人以上の人に配膳する能力を保たしめ衛生的に且低廉を本位とした理想的のものを作り上げこれに依つて大抵の會食を俱樂部で行はうとする方針である尙青年の敎育敎場その他にも利用し實際的に有意義のものにする方針であるが二十萬圓の豫算では道場ま

で出來難いのみならず露西亞町の道場は木造出來の相當古い建築物であつて冬季などは殆んど全く使用に耐ゐない程の狀態であるから早晩同倶樂部内に設置せなければなるまい何しろ同倶樂部の建設は滿鐵社員に取つては頗る便利な機關でなくてはならぬ。

死に直面した人間性の發露

死に直面すると人間は本當の人間性を發露する性が惡であるとか善であるなどの議論は全く餘裕あつての上のことで死線を踏破する刹那の場合はタヾ生きんとするの努力より外に善もなく惡もない震災に當り數萬の生命が犧牲となるのであるから其間には凡らゆる人間の眞性が吐露せられた而してこの事實はわが社會思想の上に決して無關係ではあり得ない從來餘りに物質的に流れ輕佻浮薄に陷つてゐた思想界は些かの餘裕も發見せられなくなつて眞摯堅實の本性を發揮することになる殊に物質界の必ずしも頼むに足らざるを感じ外界の刺戟にばかり生きてゐた社會思想の傾向が「自己」を發見し深く反省するの機會を持ち得たことは思想上喜ぶべきことである而もその「自己」の反省なるものが孤獨のそれでなく困難といふ國民の頭上に振りかゝつて來る問題であるからソコに覺醒した團體意識となつて現はれるのである勿論少數者の間には忌はしい行爲に出づると云ふやうなものもないではなかつたが一般の國民思想からすれば非常に緊張味を示し頓に堅實に向つた。

ソレから一方における民衆の經濟觀念であるが震災當時にありてはブルジョアもプロレタリアも誰も彼も自然の前には無力といふことを曝露した從つて萬事が金力によつてのみ解決されると觀念せられてゐた好景氣時代の思想は全く夢に過ぎぬと云ふことになつたタダ茲に最も悲しむべきは事業の破壞や人員の淘汰のため智識階級に屬する中産者が減少して復興に當る勞働者のみが盛んに需要さるることである其の結果は中庸を得た思想が勢力なく却つて偏頗な思想が主潮となるやうなことがないとも限らぬ何れにしても今度の災厄は輕佻浮薄であつた思想界に一大打擊を加へたものであつて死に直面したシカも深刻な新しい傾向を生むに至るであらうと。

勞働者に附する各種の保險

最近浦鹽から某所に達した情報に依れば勞農露國は法律を以て各雇主に對してその使用する勞働者に各種保險を附することを規定し保險は官衙、會社、商店、個人等經營者の如何を問はず之を強要し各雇主は雇人の給料の一割に相當する額を給料以外に保險料として毎月保險局に納付する義務を有せしめ自國人たると外國人たるとを問はず義務を負はしめ被雇人の保護を目的として四月一日から實施して居たが今回極東方面にも實施することゝなり之れに關する用件を帶びて莫斯科から保險局最高監督官シグチン氏が浦鹽へ出張しその實施方法に就いて調査中である。

此の事業は官衙に於てのみ取扱ひ私設會社又は個人に營業を許可せぬので外人には無論許可せぬことになつたが唯一つの例外として購買組合にのみ其の財産に對し之を許されセントロリユーズが實行してゐる而して此の法律は現に最高執行官會議の命令に依り財産に對する保險、家畜の流行病に對する保險、園藝農産物に對する保險は國家の經營となつては居るものゝ之れには義務保險と任意保險とがあつて義務保險は租稅的に拂ふものと協定的に拂ふものとの二種があるシグチン氏の談に依れば沿海縣に於ては差當り都市に於ける火災保險を實行する豫定で其他の保險は一應調査のうへ材料を得て徐々に初める計畫で目下その調査中である此の國家保險は既にザバ

イカル縣では五月一日から實施し[illegible]及び黒龍縣では十月一日から實施された。

大連に於ける講會の亂脈

大連警務署で現在許可して居る講會の數は三百二十餘件の多數である此の講會なるものは會員相互金錢の融通を計る目的を以て生れたものであるが引續いての財界不況のため會員間に於ても債務不履行者が往々あるので種種の問題を惹起して居るのは實に苦々しい事である今その例を擧ぐれば三百餘の講會中には不良講長或は不良管理人があつて故意に落札者の保證人を云爲して落札金を支拂はず其の爲め一層の問題を醸成して庶民金融の意義を沒却するのである講長はその間落札金を保管して居るので必らずそれを一時他に融通して往々不正の利得をなすのである。

警察としては現行取締規則に依り講會が秩序を紊し風俗を害した場合に許可の取消をなし得ると共に講會に臨檢し或は帳簿の檢閲をなし取締を爲す事を得るとしても第一回講會組織に當つて講主或は保證人の身元調査を行ひ許可を與へた以外の保證人資格云々の査定をなし能はぬため不正講長等の乘ずる所となるのであるソコで警務當局者は種々研究の結果萬一保證人の資格なく落札者に對して不拂を生ずる場合は一定の利子を附して保證人決定のうへ元利を拂渡す方法とする模樣である右に就いて石井保安主任は語つて曰く以上の如き問題は往々耳にする事で相當研究して居るが少くとも故意であることが判然とした場合は法規に照らし罰し得るも一般の弊害を除去するには相當利子を支拂ふべく命令條項の變更が必要であらうと思はれる然し落札者が若し之を惡用する事があつては五十歩百歩であるから一層の研究を要すると。

雲助然たる惡たれ人力車夫

大連ばかりで無く沿線各地へ行つても然うであらうが婦人方が外出して一番困らされるのは乘車を强ひる車夫の群である之れを最も露骨に表されてゐるのは埠頭、大連驛、滿鐵病院などであるが婦人達は如何に乘車を斷つても承知しないで車夫達は寧ろ婦人の嫌がるのを面白半分に乘車を强ひるさうして口々に侮蔑の言葉を浴せかける中にひどい奴になると婦人の袖を引き又は抱きつかうとまでする全く言語道斷の沙汰と云ふべきである斯うして到る處に婦人方に取つては實に此の上もない忌はしい悲劇が演ぜられてゐる。

これは乘車を斷つた場合の出來事であるが若し料金を約束して乘車して目的地に着いたとすると約束以上の料金をせがむ全く强盜にも均しいユスリである之は唯だ婦人方ばかりでは無い男子も良く經驗するところだが埠頭から大廣場まで一圓と云ふ途方もない料金を請求したり十錢で十分なところを三十錢呉れと云ふ男子なれば斷然ハネつける勇氣もあるが婦人方では其れが出來ない縱令それが出來るにしても車夫に大きい聲を立てられるのが嫌さに人前を憚つて止むなく堪へなければならない時のあるのは男子とても同じだ病院前で苦病に堪へない患者をさらへて此の悲劇が演ぜられてゐる如き全く見るに忍びないことである勿論警察に訴へれば何とか處置のあるものと考へられるが此の點に關する警察の徹底的な取締りを熱望するのは單に纖弱い婦人方のためのみではあるまいと思ふ。

宏濟善堂病院の通院患者

小崗子宏濟善堂の病院に毎日通院してゐる支那人の數は二百名近くであるが正式の醫員としては僅かに二名位である爲めその多忙さは全くお話にならない狀態である患者の多くは内科に屬すべき疾病で最近は胃腸病が増加

してゐる模樣である依然として減じないのは花柳病に因を發してゐる諸皮膚病であるが餘り惡性のものが少いといふのは一寸不思議だと係員は語つてゐた殊に患者の大部分つまり七割迄は男子で然も老年者よりも寧ろ壯年者の數が多いといふ事も不思議といへば不思議の一つであらうが醫員として是まで困つてゐたのは飲み藥を渡すと外部から見ゐる色に依つて飲むことを嫌ひ窃に捨てゝ仕舞ふ事であつたさうだが近來彼等は文明醫術と稱して萬事その指揮に從ふ樣になつて來たといふことだ多くの患者を毎日無料で診察すると共に一方從來の迷信の打破にも努めなければならないので單なる醫術のみでなく總ての方面に頭を使ふといふ事になり他の病院以上に難かしいものであると陳醫師は述懷する。

災後に現れた大阪の社會相

今度の震災が大阪地方の娘さんと娘さんを持つ母親とに或る大きな感動と自覺とを與へた結果が早くも大阪の社會相に現れかけたそれは大阪東區淡路町の女醫福井繁子女史の説によれば此の際大阪に逃れて來た數千の女性を愛國婦人會で世話してゐるが腕に職業を持つてゐる婦人は極めて都合よくズンズン片付いて行くけれども一番困るのは奥樣やお孃樣でそれも自覺して居ればいゝがまるで避難民は歡待される權利があるかの如く心得そして凱旋將軍のやうな氣位ゐでいつまでも平氣でゴロゴロしてゐる忠告すれば却つて「我々は避難民だ婦人會は避難民でも世話しなくては存在の意義がなからう」と憤慨する人すらあるそれに比べると職業婦人は完全な人間として世に立つといふ自尊心があるから扱ひいゝその内でも看護婦は數も多く需要もあり一番始末がしよかつた故に此等の婦人は既に大阪市内に於て數百人ばかり就職した。

元來大阪市で産婆、看護婦、見習婦を合せて四千餘人を數へた處へ今度の東京落の人々を入れて五千に近い數になつたので最もこの上の需要はない筈だが女醫、産婆、看護婦の志願者は俄に殖ゐて見習ひとしての申込が各病院に殺到する狀態だからいづれ來春の産婆看護婦學校或は養生所の入學期は非常な景氣を見せることであらうと云ふことだ然るに此現象は又タイピストの社會にも顯著なもので大阪本町二丁目角のタイピスト養成所の竹内氏の話では震災以來俄に入學希望者が激增したゝめ滿員になつて爾來毎日十數名づゝの希望者をお斷りしてゐるが新入學者は今直ちに生活のために習得しようとする樣な人々ではなく女學校を卒業してお茶や生花で遊んでゐたやうな階級の人が今は困らなくても女は生活に獨立し得るやうでなければ可かぬと父や母が申しますのでと云つて熱心に養成所に通つてゐる中には相當の資産家の孃さん達も數人ほどゐると云ふことだ其他天王寺の大阪英語學校梅田の英語學校その他のタイピスト科は邦文英文何れも激增してゐること。

滿鐵社員の人事相談と結婚

秘密嚴守を第一條件として開始された滿鐵獨身宿舍主事の鞅掌する人事相談は財政整理の相談、結婚相談等が主要なものになつて盛んに利用せられて居る伊藤大連主事は結婚相談に就いて痛切に必要を感じて居るのは結婚の相手方を廣く知る方法である突飛な事も出來ないが何等かの方法で要求のある處を有りの儘に知りたいと思ふ結婚は言ふまでもなく家庭を作つて玆に始めて人生のスタートを切ると言ふ大事な事柄であるから何ももぢもぢして引込んで居るべき事でないのに大分進歩した樣に思はれる今の男女にもまだ古い粕が頭の中にコビリ着いて居るやうだ。

自分としては今のところ大連兩女學校長の

諒解を得て連絡を取つて置きたいと思つて居る仕事が仕事であるから社內だけでは事が濟まない社外の父兄で社員に娵を嫁したいと云ふ人や會社員の娵なり從業婦人を欲しいと云ふ人の申込はどし／＼受付けて世話して居ると語つた因に滿鐵に勤務中の婦人は事務員二百二十名、看護婦百七十名、また社員獨身者は大連だけで千七百名、沿線を入れて三千名といふ數であると云ふが相談所は結婚希望者の紹介と調査をなすを主とし兩者間に諒解が出來れば媒介は當人兩者の意に任せそれ以上のことまでは立入らんものであると。

伊太利に於ける新國民主義

先般伊太利より來れる伊太利の新聞に依ると總理大臣ムツソリーニは五月一日の同盟休業日を廢止して之れに代ふるに四月二十一日を以てする事となつた四月二十一日と云ふはローマ建設の歴史的記念日であるこれマルクス主義を葬つて伊太利主義を新たに興したものである又最近の伊太利新聞に依れば伊太利の叉銃黨即ちフアケスト黨の有力者はジエノアの勞働者の前に演說して曰ふには「伊太利に於て全くあかの他人たるマルクスやレニンの敎義を尊崇するは適當でない伊太利人としては國民主義の學說の最初の主義者たるマツチニーの說を敬仰實行するを要す」と之れもまだ社會主義を排斥し國民主義を迎へるの言である今日の伊太利人は此の國民主義者に內閣を授け四千萬の國民を支配せしめ之れを世界に向つて矜りとなして居るのだ。

伊太利の勞働者は一時は悉く社會主義者となれるの風があつて千九百二十一年頃には其數二百二十萬人もあつたのであるがフアチツルチーの國民主義運動起つてより之れに加入する勞働者は日に／＼增加し今日にては其數百萬人に達したのである而して社會黨と密接の關係ある勞働總同盟に屬する勞働者即ち社會主義者的の勞働者は八十萬人に減じたのである惟ふに此の數は益々減じ行く事であらう伊太利のみならず佛の「國民活動團」も今の佛國を左右する程の力ある國民的大團體であるが伊のフアチツルチーのやうに國民主義を以て起つものであり又米國のアメリカンリージョンの如き米國中最新最有力の大團體も同じく國民主義を以て立つものである更にレニン政府が本年一月一日より新民法を以て人民に所有權を認むることよつてマルクス一點張りの共產主義が降伏した事なども吾々の知つて居られねばならない事柄であらう。

店舖改良協會で現金賣決定

大連店舖改良協會にては十月二十日夜大山通り敬老倶樂部にて茶話會を開き田中會長を始め會員及び會員外の關係者百餘名出席し今顧問、伊藤囑託講師、小川關東廳地方課長等の有益なる講演があつた後各自膝を交へての懇談裡に店舖經營上の改善を期する上において最も捷徑とする現金賣の實行を嚴行すべく決議したが既に之れに基づいて大山通り林洋行の如きは現金賣のお客に對して一割引を實行し其の成績良好であるとの事である。

掛賣にて掛倒れの見込み高を商品に掛値して販賣して居たものを現金賣にすれば掛倒れの憂ひなき故それだけ割引して販賣し得る譯であつて其の實行は左まで困難でないが其の割引率は商品に依て相違あるを以て更に各營業別に具體的割引率を協定する事になつたと云ふ何れにしても商家の自覺は物價の値下を自然ならしめ現金賣は生活改善の上にも好影響を與ふることは言ふまでもない尙ほ協會は會員相互の金融として金融組合の設立をも必要とし居るを以て何れ改めてその具體的方法を協議する筈だが華商會員は通譯の關係上別個に開會協議する事になつて居る。

住宅組合と共榮住宅組合

調査記事

高橋月南

諸物價は母國關東地方の震災の爲め品拂底なるにも拘らず漸次調節されてゐるが家賃のみは好況時代に値上げされた其儘の高率を維持してゐる。滿鐵會社は社員の爲め每年社宅を建築して居るが、多數者を收容するには年に百戶や二百戶新築したところで追付かないので、準住宅組合の如きものを組織せしめ、その組合の資金に對して滿鐵その保證の地位に立ち、成るべく社員をして住宅を建築せしむる樣に仕向けた結果、郊外土地會社の文化臺、洗兵臺に數十軒の住宅が新築された。之等の社員に對しては滿鐵が保證の位置に立つて社宅料を支拂つて居る。此外に猶ほ滿鐵社員の住宅建築用として正式に組織されたのは大連共榮住宅組合である。

大連民政署に於て調査した處によれば、大連の家賃は東京、大阪の大都市と比較して住宅で坪當り五割乃至七割の高價で、東京や大阪で住宅坪當り貳圓乃至參圓の家賃が大連では參四圓に當り、甚しいのは五圓又は六圓といふ高いのもある。今各方面の住宅の家賃に就て見るに、山城町の一箇月家賃月貳百參拾圓（坪數五十六坪、坪當り四圓拾錢）同町の百參拾圓（坪數二十八坪、坪當り四圓六拾錢）紀伊町附近の百圓（坪數參拾坪、坪當り參圓參拾錢）等は最も高率の方で、次に安い方では佐渡町附近の木造で月貳拾圓（坪數七坪、坪當り貳圓八拾五錢）天神町附近の貳拾五圓（坪數十七坪、坪當り壹圓四拾七錢）春日町の參拾五圓（坪數十二坪、坪當り參圓九拾錢）である。この外支那人家屋で壹圓四五拾錢見當のものもあるが普通煉瓦建の日本人住宅となれば

坪當り參圓以下ものは尠ない。店舗になると坪當り五圓前後である。浪速町附近の一等地は安いので四圓、高いので七圓である。斯くの如き有樣であるから大連の家賃は内地の都市に比べて概して高率であることが窺知される。大正八年以來引續いての住宅難の叫びが絶ねないのは當然である。

　この住宅難を緩和すべく勅令を以て關東州にも住宅組合法が實施される事になり、關東廳は昨十一年十月その細則を發布し、同年十一月より之を實施することになつた。大連の智識階級たる辯護士、醫師新聞記者等五十餘名は直ちに一團となつて大連住宅組合を組織した。この住宅組合は最初星ヶ浦土地會社の土地を買收して其處に住宅建築の豫定であつたが、地價が高い爲めか會社との交渉を打切り、その後關東廳に向つて土地の貸下願を提出し、一方組合の認可を本年四月中に申請したところ未だ許可の運びとならない。爾來大連民政署に提出された住宅組合は沙河口第一住宅組合で組合員七名、何れも滿鐵工場勤務の職工であり、次は滿鐵消費組合員や本社員の十五六名より成る港住宅組合、民政署員、各小學校及び公學堂職員等十五名の自彊住宅組合、今景彦、佐々木義山諸氏が中心になつて組織された月見ヶ岡住宅組合等である。以上の諸組合で土地を有して居るのは僅かに月見ヶ岡住宅組合のみで、これは組合員十二名より成り、九月中旬出來た計りであるが、比較的可能性を持つて居る。此外に民政署で取調べのうへ事業開始の見込みあるものは大連住宅組合で、これは辯護士大内成美氏が組合長で、組合員も他組合に比し割合に粒が揃つて居るさうだ。併し何れの組合も民政署から關東廳に申達した丈で一つも許可されない。その原因は土地政策が決定しない爲めである。大正十一年十月中會計法案改正の結果關東州の土地も國有財產に編入され、その爲め大藏省の認可を經なければ處分が出來ない事になつたが斯くては甚だ窮屈なので、累次交渉の結果、漸く關東廳の方で處理することが出來る樣になつたものゝ貸下が特賣かの點が決定しない爲め、折角組織された住宅組合が活用されないのである。

　仄聞する所によれば、關東廳では土地貸下を喜ばない傾向があるらしく、貸下であれば單に土地貸下料金を徵收するのみで餘り收益がない所から、住宅組合の土地も拂下げを希望して居るやうだ。處が組

合側の立場になると、拂下げであると最初から多額の資金を土地に固定させ、建築資金と土地代とを負擔せねばならぬ、例の低利資金を借受けるとしても五年賦の短日時を以て償還するとせば、組合員の苦痛一方でない、そこでせめて土地代の負擔だけでも輕くしたい所から貸下げを出願する樣になるのである。大連住宅組合が星ヶ浦土地會社の土地を買收し樣として借入金の都合から破談になつたのは此の故であらう。低利資金は年九分で、利率は幾分安いが五箇年賦といふ制限は斯かる組合への貸付として餘りに短期で、五年先に於て他に借替へると云ふことも困難な事柄である。東拓では十箇年でも十五箇年でも長期の貸出しを承諾するが、金利が年一割といふ高率だから、之も住宅組合に向かないのみならず土地に對する貸付は拂下地であらうと貸下地であらうと坪當り貳拾圓位の評價である。拂下地なれば如何に安くても貳拾五圓以下はない。この貳拾五圓以上の土地と貸下地の地代一ヶ月五錢の土地と同一評價といふのだから、貸下地の方が遙かに有利なわけで各組合が擧つて土地貸下の出願に及んだのは無理もない。處が關東廳では土地の拂下げを希望して居ると云ふのだから其處に勢ひ撞着が生ずるのである近來一種の利權屋が殖ゑ、土地の貸下を願つて夫れに名義人が建築し、直ちにそれを他に轉賣して不當利得を占めやうとする者あり、現に出願中の住宅組合の中にも如何はしいのがあると云ふから、此點は注意せねばならぬが、土地政策が決定しないため折角の住宅組合が活きないのは遺憾だ。

以上のやうな次第で、現在出願中の住宅組合は何れも行惱んで居るが、滿鐵社員の星明淸丸、山岸謹二兩氏に依つて企てられた共榮住宅組合のみは住宅組合發布前に既に設立され、大正十一年十二月中百三十五戸の住宅を建築し終つた。現在大連における住宅組合中活きて居るのは此の組合のみである。顧みれば大正七八年の空景氣時代に方り、物價の暴騰と共に家賃の騰貴も天井知らずといふ有樣で、社宅のない滿鐵社員中の散宿者は正門より物價、搦手より家賃の脅威を受けた。そこで一部の社員は自給自足の外なしとして、結束の上、一方消費組合を起して食糧品及び日用雜貨類を原産地より仕入れ、他方前記の共榮住宅組合を企つるに至つた。此間會社自身も社員救濟の意味に於て沙河口工場敷地内に木造

家屋數百戸を急造し、更らに周水子土地建物會社をして代用社宅を建築せしめ、猶ほ進んで寺兒溝の切取地にも數百戸の社宅を新築した。

共榮住宅組合の宣言書は大いに振つてゐる、曰く文化的經濟的にこの滿蒙の地に於て我が民族の發展を圖るのは民族自己保存の本義に外ならない、然るに滿蒙に對する文化的經濟的活動の基本の地たる我が大連市に於て、邦人居住の基礎若し鞏固でなかつたならば、滿蒙に對する我が政策の遂行豈能く望むべけんや、少なくとも我が大連市に於て邦人永住の素地を作るは滿蒙政策の眞諦に觸るゝものであると之を理由として住宅組合の必要を力說し、滿鐵幹部の了解を得、斯くて當局者に交渉を開始したのは實に大正十年八月であつた。當局者もまた之れを諒とし、非公式乍ら組合規約も制定され、次第に進捗したところ、此處に土地問題について一支障を生じた組合發起人は最初滿鐵社員を中心として一部市內の有志をも加入せしめ樣としたのであるが、資金調達資金回收等に就いて社員と行動を共にすることが出來ない不便があるので、市中側の有志を拒絕して全く滿鐵社員のみで組織した關係上、敷地の如きも本社の附近を希望したに拘らず、譚家屯ならばと言はれたので、事業計畫の根本に相違を來したのであるそこで折角の組合も次第に蔭が薄くなりかけた。此時恰も大連市役所が財源の一つとして南山麓一帶の土地拂下げを受けると云ふ事が知れたので、早速同地一帶の隣地の拂下げを出願したところ、一溜りもなく許可相成り難しと却下された。

この折、當時の滿鐵理事杉浦氏は關東廳に當時の事務總長土岐氏を訪問して、共榮住宅組合の內容を力說し、更らに滿鐵會社に於て保證すべきを誓つたので、關東廳も漸く安心したものか、然らば便宜を計らうと言つて、拂下げになつたのが卽ち南山麓における現在の一萬七千九百四十四坪六合三才三勺の傾斜地である。斯くて土地問題は解決されたが、一難去つてまた一難來る、今度は資金問題に行詰つた二三發起者は當時上京中の松本前理事の斡旋によつて東京に於て資金調達に奔走したが、財界の日增しに不況を加へ來れる折柄とて、容易に纏まらず、之がために幾多の苦辛を嘗めた。組合の調達せんとした金額は二百萬圓で、長期貸付の利率は年九分といふ要求であつたから、當時下り坂の財界に向つては

幾分無理であつたかも知れない。二三の大手筋から簡易に貸出さうとした事もあつたが、當方で思ふ程に先方では考へて呉れず、殊に海外の事情に疎い點もあつて思ふやうに運ばなかつた。然るに故早川社長と松本前理事の努力で東京の保險團が出さうといふ事になり、之には又滿鐵保證といふ難問題があつたが、故早川社長がその保證を宜しいと一も二もなし快諾したので保險團との交渉はスラ〳〵と成立した。然るに農商務省から此際資金を海外に放出するのは內地財界に影響を與ふるから許可出來ぬと頭こなしに遣られたので又々一頓挫を來たした。然し故早川社長が滿鐵が責任を帶びて處理するから決して心配するに及ばぬと斷言したので農商務省も遂に保險團に向け許可を與へることになつた。

斯の如くにして土地と資金の二問題を解決し得たのは宣言書を發表してから滿一年の後の大正十一年七月八日であつた。此日は共榮住宅組合が漸く產聲を上げた記念日であるのだ。保險團より借入れた資金は壹百參拾萬圓で、この資金によつて直ちに工事に着手し、昨年十二月までに一氣に第一計畫たる百三十五戸を全部建築し、同月中に約壹百戸ほど移轉した。この種別は左の三種である。

A種　住宅用地一〇〇坪　住宅床面積五〇坪
B種　住宅用地　九〇坪　住宅床面積四五坪
C種　住宅用地　七〇坪　住宅床面積四〇坪

敷地は地區劃の關係上平均せず、大體に於てA種は百坪より百二十坪乃至百三十坪まで、B種は八十坪より九十坪まで、C種は七十坪から八十坪までとしてある。建築の樣式は經費節約の意味に於て以上の三種に限定してあつたが、組合の社員から各人各樣の希望が出でたので、已むなく別種の建築も爲した結果、現在では凡そ八九種の樣式より成つてゐる。然し大體においては以上のＡＢＣ三種か標準になつてゐる。その建築資金償還方法を聞くに

A種住宅　百八十八口以上
B種住宅　百六十九口以上
C種住宅　百五十一口以上

で一口は、五拾圓であるから、A種は九千四百圓以上、B種は八千四百五拾圓以上、C種は七千五百五拾圓以上の償還金となるが、これは勿論住宅用地の取得費と住宅建築費との合計額及び之れに對する利子相當額の全算額である。組合員の償還金は給料か

ら差引くことになつてゐるので此方の遲滯は絶對にない。唯だ最初の豫算より建築費が割高になつたのと、整地の土工費に意外の出費を要したので、第一期の計畫は完成したが、豫算より約貳拾五萬圓計り超過した。建築費の割高といふのは、請負工事そのものが高いのではなく、結氷期を目先に工程を急いた爲め、本年の解氷期になつて龜裂を出じ、その修繕費に資金を投じた爲めである。土工費が多額に達したのは元來傾斜地であつた爲め切取り作業に意外の費用を要したからである。然し隣地市役所の管理特賣地に比較すれば安い。市役所が關東廳より拂ひ下げられた特賣地は坪貳拾七圓で、それに市役所の手數料が壹圓五拾錢であるから、平均坪貳拾八圓五拾錢に達するが、共榮組合の方は右の土工費を合算しても坪貳拾五圓五拾錢に過ぎない。

尙ほ組合として計畫してゐるものは幼稚園と公園とである。幼稚園は目下建築中の第七小學校の南方空地一千二百餘地を充當する事になつて居るが、經費の都合で未だ着手されない。公園は前方の山上一帶に植樹して公園としての諸施設をなす筈で、關東廳へ出願中であるから、許可の下り次第着手するさうである。上下水道、瓦斯、電氣等の設備は遺憾なく完備し、本年は道路の開鑿に從事し、これも殆んど完成した。此の南山麓一帶は高等住宅地であるから、市街美を失はぬやう、組合の建築に就ても尠なからざる苦心を拂ひ、瓦の如きも特に高價な青色を選び、外部も煉瓦を全部塗り立つて美觀を損はぬやう細心の努力が拂はれた。そこで萬一組合員が他に轉勤した場合は、その家屋を組合員外の者に賃貸するのであるが、その家賃は建築費と土地代を合算した一割を十二分して一ヶ月の家賃として定める事になつて居る。その率は市中の家賃に比較して幾分割安であるさうだ。尙ほ組合員は償還金の拂込み完了せざる間は他にその住宅を讓渡することが出來ない若し已むを得ざる場合は組合長は未拂金に對し其の住宅の抵當權を設定せしめ所有權移轉の登記を爲さしむることになつて居る。次に住宅の供給を受けた組合員は償還金の拂込み完了に至るまで左の條項を遵守せねばならぬ事になつて居る。

一、相當の事由ある場合を除くの外他人をして其の住宅を使用せしめざること

二、修繕其他住宅の保存上必要なる管理を爲す

三、理事の承認を受けたる場合を除くの外住宅の模樣替へを爲さゞること

四、如何なる事由あるも二ヶ月以上の償還金の拂込義務を怠らざること

組合員の資格は滿鐵會社の社員たることは勿論であるが、加入後滿鐵を退職しても組合員たる資格の存續は出來る。然かし滿鐵社員でも大連市内に於て居住に適する住宅を所有せるもの又は他の住宅を所有せるもの又は他の住宅組合の組合員になつて居るものは共にその資格がない。又組合員が脱退したる時必要ある場合に限り、滿鐵會社はその住宅を社宅として使用する目的を以て組合員及び其の前住の組合員が各々脱退に至るまでの間組合に對して償還したる金額、組合經費として拂込みたる其他の金額並に組合に拂込みたる金額の合算額より滿鐵會社が其の各々に對して給付したる散宿料其の他之に關する一切の給付額を控除したる殘額を組合に納入し、その組合員の權利義務を承繼する事になるのである。之れは東京十一の保險團から借入れた低資の保證をなして居る以上己むを得ないことであらう。此の借入れた低利資金百參拾圓は年九分で、十ヶ年賦の償還になつて居り、その第一回がこの十二月である。尙ほ組合は社團法人の登記をなし、その役員として理事五名、監事四名を置き、理事一名を組合長に推し理事の任期は三年、監事は二年として再選を妨げないとしてある。事務所は滿鐵會社經理部會計課事務室に置き星明氏が萬事を支配してゐる。これが現在の大連における唯一の住宅組合である。

奉天に於ける唯一の市場

在奉天　田原漠東

奉天における滿洲市場株式會社は古い歷史を有する營利會社であるか、居住者の日常生活必需品たる物資の供給並びに賣價の調節と之が小賣市場の風紀及び衞生の取締に當り、他面内地都市に於ける魚菜

市場の業務を兼ねた謂ゆる營利と公益の兩性質を帶びた特殊機關である。同社は大正九年六月當時滿鐵奉天地方事務所長であつた現滿鐵入江理事を中心とし、公稱資本金四十萬圓のうち二十萬圓拂込みとし株式八千株のうち四千株を滿鐵の出資に依り、殘部二千株卽ち十萬圓を一般公募として會社の創立を見たのである。創立と同時に市街の中樞に位する春日町の空地二千八百坪を滿鐵より貸下げ貰ひ、內地都市の市場建築法を參考として其れに採光、防火、衞生の三要素を具備したる設計に依り圓形二階建煉瓦家屋及び二階建二棟を建築し、前者は四十戶に區分して階下は通路及び店舖とし、階上は從業人の假住居に充て、後者は全然貸店舖とし、猶ほ此外に魚菜糶市場をも設置したのである。

然るに貸店舖向きの家屋は比較的需要を見たるも肝腎の圓型店舖は豫期の借受人なき爲め、會社は廉價なる貸付料の外に店舖一戶に對し一箇月金五圓宛の貸付料の補助を爲し、專ら商人の吸收に努めたところ、幾何もなく日支商人四十戶の店舖成り、爾來奉天の市街的發展と人口の增加と相俟つて奉天に於ける唯一の公設的市場となつたのである。創設後尙ほ數年を出でない今日、現在の店舖では早くも狹隘を訴へて居るので、周圍の空地に小賣市場的貸店舖增築の計畫を立て、滿鐵の承認を受け增築費金借款の保證を得て、正門通りに煉瓦二階建二棟十戶、江の島町通りに同一棟六戶、此の坪數五百十坪を建築する事に決定し、六月末工事に着手し十月末日竣成の豫定である。本建築竣成の曉は現在の小賣店舖は純然たる魚菜食料の店舖に充て、外部の店舖を雜貨小賣店舖に貸付け、內外相俟つて消費者たる一般購買者の利便を圖る方針であると聞く。

以上は會社創立より今日に至るまでの概況であるが、此の市場株式會社は一見普通の營利會社の如くにして其實特殊の社會的使命を帶ぶる機關であるから、成るべく小賣商人の負擔を避けしめ、生產地荷主より受くる委託品に依る糶市場の手數料（手數料は關東長官の許可を受け現在會社の實收は鮮魚一割その他九分）と僅かの店舖貸付料とを以て收入とし之れに依つて營業費及び市場の經費を支辨し、定款に依り滿鐵會社の承認を受くる範圍內で株主配當及び積立金を控除し、殘餘の利益金の大部分は之を市場內の公益施設或は物價調節資金に充當し、猶ほ僅

少の利益配當を爲して居るのである。

魚菜糶市場 糶市場は商人の取引上最も困難なる魚菜並びに果實の供給を潤澤ならしめ且つ價格の調節を計る爲め特に設けられたものであるが、而も之れは會社の財源を生む唯一の事業であつて、生產地の荷主より委託された物資を同市場の糶市場に上場し、會社は此價格の一割を手數料として生產地の荷主より徵收するのである。現在の仲賣人は鮮魚十一名と野菜果實十名で、此外小仲賣人と稱する專屬仲賣人に附隨した小賣人が二十名あり、每日午前中一回宛糶を開市して居る。大正十二年上半期間に於ける同市場の取扱高は十五萬七千四百八十圓九十一錢で、之を前年の同期に比較する時は鮮魚において二千九百七十圓、鹽干魚において二千四百餘圓、菜果類において七千七百五十六圓十一錢の激增である。更らに參考のため之を品種別及び各地荷主發送別に示すときは（十二年上半期分）

▲品　種　別

鮮魚	一三三、三九七、七一円	鹽干魚	六、九七五、七三円
製造物	四、九四六、五六	菜果	一二、一六四、九一
合計	一五七、四八四、九一		

▲各地荷主發送別

▲大連	鮮魚	二一、〇六六、三〇	鹽干魚	四五一、二八
	製造品	一、九三九、五一	菜果	六、二一七、二〇
▲旅順	鮮魚	八、六八四、五五	製造品	一〇五、一〇
	菜果	二、六五六、三五		
▲熊岳城	鮮魚	六、四〇六、〇六	菜果	一、四九八、六二
▲營口	鮮魚	二、一〇〇、五五	—	—
▲安奉線	鮮魚	一、五八五、六〇	—	—
▲滿鐵本線	鮮魚	七八二、七二	鹽干魚	一四四、七一
	菜果	二六四、六六		
▲釜山	鮮魚	三七、五〇六、六六	鹽干魚	二、七〇六、六二
	製造物	五五一、〇五	菜果	三九二、九二
▲統營	鮮魚	二四、五四二、一三	鹽干魚	一、五〇三、六八
	製造物	一、七〇五、二四	菜果	一八、〇〇
▲元山	鮮魚	九、八〇二、〇六	鹽干魚	一、二一二、三一
▲木浦	鮮魚	四、五五二、〇一	鹽干魚	二一一、一六
▲安東	鮮魚	一、九二一、三〇	鹽干魚	一七八、八五
	菜果	一八九、二五		
▲馬山	鮮魚	八九五、六三	鹽干魚	四八九、四〇

	製造物	一七一、三二一		
▲密陽	鮮魚	五四〇、四〇	｜	｜
▲平壌	鮮魚	二五、七八	｜	｜
▲三千浦	鮮魚	八五一、九七	鹽干魚	八七、〇九
	製造物	一九〇、八一		
▲群山	鮮魚	二、八二三、二五	｜	｜
▲内地	鮮魚	九、三二八、七四	鹽干魚	八六、六三
	製造物	二八三、五四	菜果	五五七、九一

小賣市場

小賣市場は四十戸に區分し現在は鮮魚商十戸、精肉商二戸、野菜果物商十戸、蒲鉾商二戸、食料雜貨商八戸、豆腐商一戸、菓子商一戸小間物商二戸、家具商二戸、履物商一戸、玩具商一戸で、現在のところは宛然是れ各商店雜居の狀態であるが、本年十月外部の店舗竣成すれば、雜貨商人は努めて之を外部に移し、内部は純然たる食料鮮魚等の小賣市場に改むるとの事である。

滿洲市場會社は前述の如く純然たる公設市場とはその趣を異にするも、一種の特殊市場であつて、現在の奉天としては最も必要なる社會的施設の一つである。財界好調時代は市場外の商人も一般購買力の旺盛なりし爲め高い家賃を支拂ひ高い經常費を要し而も猶ほ十分採算が立つたので市場商人の敵でなかつたが、一朝財界の反動を受け一般購買力の減退を見るや、需要者は漸次市場に足を向け、隨て市場外商人の困難を加ふるに反し、市場の商業は殷賑を加へ、之がため市場外商人にして市場商人を希望するもの多く、昨今は相當の權利金を出して市場内に店舗を搆へんとするの狀態を呈して居る。

終に臨み此の特殊的市場をして益々その公益的機能を發揮せしむる爲め吾人の特に希望する事は現在會社が滿鐵に支拂ひつゝある土地料と滿鐵會社所有株四千株に對する利益配當の撤廢である。滿洲市場撫順市場及び長春市場の三市場は滿鐵會社が地方行政の一端として何れにも出資し經營して居るもので營利を度外に置いた一種の公益機關である爲め、長春市場に對しては土地料を徵收せず、撫順市場の如きは家屋まで滿鐵が築造し、且土地料を免除して居るにも拘らず、獨り奉天の市場のみは此の恩典に預つて居ないのみか、出資額に對して利益配當までして居るのは遺憾である。本問題は今日まで一部株主に依つて論議され再三滿鐵と折衝を重ねたが、未だ

その目的を達するに至らない。株主利益配當は已むを得ずとしても、土地料だけでも免除すれば、それ丈け市場會社の支出を經減し、延いて市場小賣商人の負擔を輕からしめ、市場に於て販賣する商品の物價をヨリ以上低廉ならしめ、必ず特殊公設市場としての本分を發揮し得ることゝ信ずる。

來年度から愈々大連市區の擴張

總戸數約六萬餘、總人口約三十萬

大連市が大正十三年度から愈々市區の擴張を實施することは内定し居るも其の區域が何の程度迄に及ぶべきかは今のところまだ分らないが仄聞する處によると北は北崗子海岸の民國人部落より鐵道線路に併行し新設さるゝ沙河口停車場から斜めに沙河口工場の引込線に添ひ西は工場の裏から一直線に馬蘭河畔までゞ夫から川の流れを境界として下流に出で農事試場の宿舎の杜の處から山の麓までとし夫れから北に向ひ山の中腹を界とし沙河口の火葬場をも含みて伏見臺上水配水所に出で今度は同所から西公園の上の南山の頂きを境に春日町の貯水池迄であるらしく若し大連郊外土地會社の所有地を編入するとせば老虎灘の街道の兩側を或る程度まで入れ鹽田で打切るであらうが同方面における居住者の有志は市街に編入さるゝことを喜ばず内々反對運動するものもあると傳へられて居り又當局の方でも未だ市街としての完全なる體を爲さず單に營造物があるのみで人口も僅少であつて重要視されて居ないから第二回の市區改正の時機まで放任されるといふ説があり旁々當分同方面は春日橋を限度とされるか或は療病院邊りまで延長されるかも知れぬとの事だ。

此の擴張改正により大連市には譚家屯、李家屯、大劉家屯、小劉家屯、沙河口、聖德街等の多數の町街及び部落を包轄する事となるが戸數に於て邦人四千餘戸、人口一萬四千餘、民國人は戸數一萬餘、人口約七萬餘の増加となるべく現在の大連市内と合すれば總戸數が約六萬餘、人口が約三十萬に達し土地の廣さは現在市内の約倍になるであらう。

研究資料

社會事業同盟會と共同募金

社會事業の意義　昔の社會事業はその思想内容に於て仁慈博愛がその全體にして個人的要素を多く含有したものであつたが近時の社會事業はその思想内容に於て公的又は社會的要素を含み社會共進、社會共存、社會共樂てふ共同福利の增進を企圖する觀念に到達したのである故に英國のラスキンモスリ氏は『社會事業は社會連帶責任觀念を以て社會的弱者を保護し向上せしむると共に更らに進んで之が發生を防止せんとする事業である』と言ひ佛國のレオンブルヂョア氏は『社會事業は社會成員の連帶責任に基づく共同努力である』といつて近世科學の研究に依りて之を說明して居る。

それに據れば一切の有機體に於ては一機關の衰退死滅はその生物全體の衰退死滅となるものであるが社會も個人の組織的集合體なれば一種の有機的體系と觀るを得べく而してその組織的なる所以は個人の幸福增進を基調とする社會全體の文化發展にある故にその組織體の成員は各自の福利增進の爲め社會文化發展の爲め各特別の職能を有し而もその各自は他に對し何れも皆隷屬的關係に於て存立し居ることなれば社會の一部に落伍者たる貧困者又は弱者の如き保護を要するものあらんか社會の弱者は之を保護し救助すべきことと理の當然であると云ふのである。

共同募金運動　この意味に於て社會事業費の共同募金運動の如きは最も當を得たものと言はなければならぬ即ちこの共同募金は各人の幸福增進と社會の文化發展のために設けられ又設けられんとする社會事業の資金に對し社會成員の同情と理解とに訴へて應分の醵金をなさしめ以て斯業の發展を圖らうとするものである斯くて米國樞要の都市には社會事業同盟會が設置せられた其の同盟會は直接事業を營むことなく主として社會

事業の調査、研究、宣傳及び資金募集に從事する機關である此の中には調査研究と宣傳のみに重きを置くものとこれに加へて更らに加入團體に對する資金募集の中央機關たるものとの二種があるオハヨー州クリーブランド市の同盟會の如きはその後者に屬するものゝ適例である我國には此種の機關が乏しいが長崎市は率先して共同募集を開始し好成績を擧げた。

同盟會成立の以前クリーブランド市に於ける社會事業家は各自その經營に關し各獨立して資金募集に從事し且その事業の紹介に力めたのであるが斯くては徒らに募金の奔命に疲れ且つ一般市民もまた時に募金の重複とその强要とに接することあるが爲め斯業に對する援助は各市民の社會的義務たるにも拘らず反つて之れを忌避するに至つた當時クリーブランド市は地方的小都會の域を脫し益々膨脹發展して大都市の群に入り從つて各種必要なる事業の隆起を來たし社會事業に對しても市民一般が充分之を尊敬し得るだけの了解を持ちたるにも拘はらず右の如き結果を生じたるは甚だ遺憾であるとして識者間に種々熟議が重ねられた後こゝに社會事業の同盟機關を組織し同機關自ら責任を負ふて募金と宣傳の任に當り之に依つて各加入團體をして此の至難なる二大任務より免かれしめ以て專心に事業經營に當ることを得せしめた此の團體はクリーブランド市福祉同盟會と稱し同市の社會事業の上に新たに組織されたものである。

其組織と成績　　斯の如くにして成立した同盟會は如何なる內容のものであるかと云ふに市內數百の社會事業中之れに加入したものは六十八團體で尙之れに商業會議所、敎育會、敎會同盟、婦人倶樂部同盟、男女基督敎青年會など二十團體が加名し合計八十八團體を以て組織せられた而して各團體より二名の代表者を選出して評議員となし尙その以外に市長、市會議員、敎育局長等は職務上評議員たるの資格を有するも議決權を持たぬことゝした評議員會は年四回の例會と年一回の總會とを開催して會務の方針その他重要事項を議決し尙ほ同會は理事二十四名乃至三十名を互選する斯くて互選された理事は理事會を組織しその中より會長一名、副會長二名、書記及び會計一名宛を選擧し任期を何れも三年とし書記以外は理事會員たるを條件とする評議すべき重なる事項は左の通りである。

一、豫算編成と經濟關係事項
分配を受くべき加入團體の豫算の審査及び其の作成
社會事業の行政方法を研究して事業經營上の能率增進を圖る
加入團體に對する經費の募集と其の配給

一、社會改善と教育關係事項
社會奉仕的問題の研究
社會的立法の改善並びに實際社會の事實と經驗とを利用して積極的且つ豫防的社會事業の發達進步を企圖すること

募金と事業審査　同會の事業中その最も重要なるものは資金募集であるそれで加入の六十八團體より每年その豫算を同盟會に提出せしめ理事會に於てこれを審査する審査の結果査定したる豫算に對しては同會は責任を以て極力その募金に盡力する若し團體自身が直接募集に從事するが如きことある場合はその團體は同盟會より除名せられる斯る狀態の下に募集したる成績如何といふに一九一八年の決算報告に依れば六十八團體の總支出四百四拾萬圓、總收入四百六拾萬圓で結局貳拾萬圓の剩餘金を生み出して居る收入には種々の要素あるがその主なるものは各團體が患者收容その他に依つて公共團體より支給された事業收入貳百貳拾萬圓、基金利子六拾貳萬圓、各團體に對する直接寄附金四拾四萬圓で其他の百八拾貳萬圓は同盟會が募集して之を分配したものである從つて各團體はその維持經營に對して何等の顧慮する處なく專心事業に鞅掌することが出來斯る機關を有するがため一般市民もまた事業の性質と其の必要とを詳知し安心して社會事業に對し寄附することが出來るのである。

尙ほ募金以外に於て重要なる事項の一は新設事業の社會的地方的效用の有無若くは程度を審議することである同盟會設立以前に於ては各自隨意に新事業を設立した爲め事業の重複を來たし又その必要程度の極めて薄弱なるものなどあつたが同會設立以來は凡て同會の審査を經ることゝなり之れが爲め市民一般も利便を受くること極めて多大である斯くて同盟會の事業は創立日尙ほ淺きに拘らず其の成績顯著なる爲め社會一般より重要視せらるゝやうになつた。

市俄古同盟會　序に市俄古市の同盟會を紹介しやうチ市のそれはク市の同盟とは事業の內容に於て稍々その趣きを異にし主として調査と宣傳に重きを置き加入團體のために豫算を査定して募金に從事することは爲さぬ千內外の社會事業を有する同市に於ては一般

的募金の至難なるが爲めである嘗てこれを試みたことが有つたが效を奏しなかつたと聞く市俄古市同盟會もク市のそれと同じく各加入團體から二名の代表者を選出して評議員會を組織し評議員の中より理事を選擧してゐる其の活動の範圍は市俄古市を中心として社會狀態の調査、細民の最低生活標準の調査、各團體の豫算が如何に經濟的に作製されてゐるかを調査し若し不經濟的なることを發見すれば之れに充分の注意を與へ經濟的經營方法を指示するのである。

以上は同盟會の一二の事例を記述したに過ぎないが米國都市に於ては今やクリーブランド式か市俄古式かの何れかに依つて同盟會を組織するもの次第に多きを加へて來た尤も募金方法は未だ一般的に公認されず公認されたのは僅少であるやうだ我國に於て共同募金を實施したのは長崎市を以て嚆矢とするが之れは大いに一般の參考となるものであるから开は次號において詳しく紹介しよう。

（内務省社會局調査）

職業紹介所と其の附帶事業

在東京　一記者

九月一日の京濱地方大震災直前に於ける日本全國職業紹介所の現在數は百十五箇所で職業紹介事業に附帶して各種の事業を施設して居る職業紹介所の數は三十五箇所であつた而してその附帶事業の種類は宿泊所、簡易食堂、賃金立替授產、內職紹介、副業講習所、性能檢查少年職業相談、人事相談、法律相談、無料代書、貸家貸間案內、案內所の十二種を算するが其中最も多きは宿泊所の二十二箇で簡易食堂八、人事相談五、授產四內職紹介三之に亞ぎ其他は一二箇所に過ぎない而して二種以上の事業を倂せ施設する職業紹介所は十五箇所であつた今玆に各事業別に施設の概要を擧げて見よう。

宿泊所　を設けて居たものが二十二箇所あるが之れは主として求職者中宿泊の出來ない特別事情の

ある者を一時宿泊せしむるのであつて全然無料のものと實費若くは低廉なる料金を徵するものとに分れてゐる大體が一泊七八錢から十錢位で入浴の設備はあるが食事は取らせない大阪市の西野田、今宮並びに鶴町の各職業紹介所には附帶事業ではないけれども夫々共同宿泊所が併置されて居る。

簡易食堂　を設けて居るものは八箇所で之れは求職者その他公衆に簡易なる食事を取らしめ廉價にして榮養に富む飮食物を提供することになつて居る大體朝食は十錢、晝食及び晩食は十五錢內外で饂飩、麵麭、牛乳等も提供し大阪市と神戸市とでは簡易なる洋食として二皿に麵麭には飯一皿を加へ一定食三十錢位で供給して居る大阪市九條、今宮、西野田、鶴町の各職業紹介所、神戸市の中央、東部、葺合、兵庫等の各職業紹介所東京市の中央職業紹介所には食堂が併置せられて居るけれども夫れは其の附帶事業ではない。

賃金立替　東京市の淺草と本所に在つた職業紹介所と神戸市の東部及び西部勞働紹介所等に於ては自由勞働者（日傭勞働）の賃金立替をして居る又大阪市の京橋及び今宮勞働紹介所において紹介する自由勞働者に對する賃金は職業補導會において之れが立替へを爲し頗る好結果を擧げて居る。

人事相談　の施設をして居るものは五箇所で之は職業紹介をする傍ら一般公衆に對する福利の增進を計り身上に關する諸問題を解決指導して居るのである。

授產　東京市の淺草に在つた職業紹介所では震災前に紙製品（紙管）の手工を授けて居つた愛國婦人會婦人職業相談所では和服と洋服の裁縫及び手藝品の內職の周旋と技術の敎授及び練習をして居る同會の愛媛支部婦人職業紹介所においても紙類裁斷機を備へて封筒の製造傳習を行ふて居る。

內職紹介　震災前の東京市中央職業紹介所では內職品を蒐集陳列しその工程、賃金、仕事の難易等を指示し就職の便宜を與へ希望者には紹介の勞を執つて居たその他愛國婦人會の婦人職業相談所と金澤市職業紹介所とにおいても同樣に之か紹介をして居る。

副業講習所　は內職紹介と殆んど同樣で京都市職業紹介所では袋物製造機三十臺とミシン機四臺を設備し專門の敎師二名を囑託し每金曜日午後講習をして居る名古屋市に於ても袋物製造の講習を爲しつゝある震災前の横濱市富士見町

職業紹介所及び名古屋市職業紹介所に於ても夫々何れも此等の講習會を催して居つたのである。

性能檢査少年職業相談　變災前の東京市中央職業紹介所及び大阪市中央職業紹介所では少年職業相談部を設け二十歳未滿の少年男女に對しその身體的並に精神的方面の素質を考査し適當なる學校の選定や職業の選擇を指導し希望に依つては直ちに就職の紹介をもして居つた兩所とも歐米に於ける最も新式の智能檢査機械器具を備へ專門の職員を置き極めて親切に少年子弟の善導に努めて居つた。

法律相談　京都市職業紹介所では辯護士九名に囑託し交代にて每日曜日に三名の辯護士と事務員一名とにて法律上の人事に關する百般の相談に應じて居る。

貸家貸間紹介　附帶事業として之が紹介をして居るのは尼ヶ崎市職業紹介所と金澤市職業紹介所であるが東京市社會局と大阪市社會部とでも之を行ふて居る。

無料代書　廣島社會協會宇品職業紹介所では諸官衙及び公署への願屆書と手紙等の代書をして居る震災前は横濱市中村町職業紹介所でも右と全く同じやうに之が代書をして居たことがある。

案內所　神戶市中央職業紹介所では神戶驛前に案內所を設けて地方から出て來た者に市內及び各所への地理の案內をなし猶ほ求職者に對しては職業紹介所への案內をして便宜を計つて居る。

中央職業紹介事務局に於ける大正十二年六月の調査に據れば全國の職業紹介所は百十二箇所で其のうち東京地方職業紹介事務局管內の四十三箇所、大阪地方職業紹介事務局管內の六十三箇所、合計百六箇所よりの報告を集計し之に依つて同月中の職業紹介事業の概況を示せば左の如くである。

（一）取扱總數　六月中に於ける取扱數は求人數五萬六千四百六十六人、求職者數四萬八千七百九十五人、就職者數一萬九千四百五十人、紹介件數三萬三千八百六十六人である之を前月と比較すれば求人數に於て六百十六人の減少、求職者數に於て千五百五十一人、就職者數に於て千百四十三人、紹介件數に於て千四百十三人の增加を見た更に之を昨年同月の情況と比較すれば取扱紹介所數二十箇所の增加の下に求人數に於て千七百二十六人、求職者數に於て一萬七千四百十四人、就職者數に於て四千六百三十五人、紹介件數に於て一萬百五十八人の增加である。

(二)需給狀態　六月内の需給狀態を概觀すれば需要卽ち求人數が供給卽ち求職者數を超過すること七千六百七十一人である蓋し不況なりし當時に比し幾分財界好況に向ひつゝある爲めかも知れない果して然りとするも職業紹介當事者の努力の結果もまた大いに與つて力あるべしと考へられる次に職業別に就いて之を觀れば需要の供給に對して甚だしく超過を示すものは紡績、裝身具、小店員、行商、僕婢、乳母、子守、看護人、集金人、理髮、商業に屬する雜業等で又供給にして需要を遙かに超過するものは機械器具、電氣瓦斯、自働車從事員、書生、給仕、番人、小使、事務員、醫師、藥局員、工鑛業に屬する雜業等である。

(三)地方別取扱　東京に於ける求人數は全求人數の四三%を占め大阪に於ては三一%を占め神奈川愛知、兵庫、京都等之に亞ぐ又求職者數に於ては大阪四一%を示し東京之に亞いで三九%を占め兵庫神奈川、京都等之に亞いで居る右は京濱地方の震災前全國に於ける職業紹介事業が如何なる狀態の下に在るかその概況を示さんが爲め爰に之を採錄したのである。

米國の大仕掛な震災救援

東京と横濱とに天幕病院建設

米國政府と一般米國人とは此度の我が東京、横濱其他の震災に逸早く精神的にも物質的にも素晴らしい大仕掛の而も驚くべき力强い救援を與へたが殊に臨時病院の建設の大仕掛な計畫には全く驚くの外はない是等の病院は全部天幕張りであるが立派な組立と設備から成り大病院十六と外來患者診察所五十三を建設するもので其の材料は山の如く積まれ横濱と東京の適當な場所數箇所に組立が急がれ萬般の用意が出來上ると片端から我が當局の手に引渡される。

右十六の病院は野戰病院十三、中間病院二、基本病院一から成立つてその一つの野戰病院にはベットが二百十三臺あると云ふから十三の野戰病院で二千七百六十九臺になる之れに中間病院二つで八百臺、基本病院一つで一千臺、合計四千五百臺に上りベットの數だけでも震災前の東京全體の病院の寢臺數よりもズット多い基本病院に

麻布高松宮御殿敷地二萬坪一帶に建てられ手術室研究室の設備は勿論エッキス光線室から何から何まで苟くも病院として要する總ての設備必要品はチャンと備付けられ『サア何うぞ御使ひ下さい』と云つた顔をして我が當局の手に渡されるのである尙これ等の米國からの寄贈病院は日本赤十字臨時病院と云ふことになつて居るが天幕から蚊帳まで附いた前記數千の寢臺から醫療機械から毛布から悉くが實に氣の利いた立派過ぎる程のもので一つ〳〵の病院に倉庫迄も附いて居て六箇月間は外から何等物品の給與を受くることなく患者の食糧も十分蓄へてある。

　高松宮御殿敷地の基本病院は差當り日本赤十字社麻布臨時病院と稱し醫員は院長五斗欽吾博士、事務所は井田主計中佐、外科木下博士、小兒科島博士、產婦人科岩津學士の諸氏で市內に燒け殘つた相當の病院で手當を受けて居る罹災患者を收容するのである猶ほ日本赤十字社は十月三日米國政府から曩に橫濱へ回航したセンム號の天幕病院の外に同月二十五日ポートランド港出帆の汽船テウエー號で更に六つの追加病院を積み出した此の病院は例の木で造つた組立式半永久的のもので大きさは七間に十四間位のものである。

簡易なる青年文庫

滿洲各地にも設けたいものだ

地の都鄙を問はず文化普及機關として缺く可らざるもの〻圖書館であることは今更論ずるまでもない而も構造及び設備共に完備したる圖書館を設置するには寡なからざる資金を要する事とて何れの市邑村落にも之が建設を期することは不可能事である從つて之が代用機關の必要が痛切に感ぜらる〻次第であるが然らば最も適切なる代用機關は何かと言へば近年奬勵されて處々に設立を見つ〻ある所の文庫である文庫の設備にもまた大小種々あるが今回文部省では極めて簡易にして資金僅かに五十圓又は百圓位を以て足るところの青年團文庫の標準を示しそして此れに購入備ゐ付くべき圖書の種類をば大略左の如く撰定した。

　五十圓位で出來る青年文庫

（順序不同）

圖書名	著者名	價格
社會奉仕の仕方	西川光次郎	二、〇〇
思想善導の基準	增田義一	一、五〇

懺悔の生活	西田天香	二、五〇
陸上競技の研究	寺田英	一、八〇
口語文用例集	文部省	六〇
進化と遺傳	山内繁雄	三、〇〇
カーネギー自叙傳	小畑久五郎	四、〇〇
日本集詩(一九二二版)	詩話會	一、六〇
星座の親しみ	山本一清	一、〇〇
山の科學	原田三夫	二、〇〇
海の科學	原田三夫	二、〇〇
兵營の三百六十五日	荒城猛郎	九〇
現代の商業及商人	福田德三	一、九〇
無盡藏	忽滑谷快天	一、七〇
名人物語	歌川飛鳥	一、五〇
國民西洋歷史	柴田親雄	三、三〇
日本全國パノラマ地圖(東海道)	清水吉康	一、五〇
平易なる皇室論	永田秀次郎	一、五〇
現代人の生活	寺田精一	二、八〇
生活の改善	天岡直嘉	二、五〇
最新水上競技法	熊田、加藤	七五
私の西洋見物	眞田幸憲	一、五〇
大正新立志傳	爲藤五郎	一、五〇
詳解漢和大辭典	服部、小柳	三、五〇
毎日年鑑(大正十二年度)	毎日新聞社	一、〇〇

百圓位で出來る青年團文庫

(順序不同)

前記の圖書へ更らに次の二十五種を加へたものが百圓位で手輕に出來る青年團文庫である。

圖書名	著者名	價格
明治勳臣、近世偉人百話	田中萬逸	一、八〇
都に憧れて	天野藤男	一、三〇
歷史と自然と人	大類伸	一、四〇
歐米名士の印象	鶴見祐輔	三、五〇
世界を煙で捲いて	齋藤松濤	一、六〇
敗殘の國々を巡りて	久留義郷	二、五〇
三都見物	生方敏郎	三、〇〇
新しい修養、心の掃除	前田、加藤	一、七〇
報德修養訓話	花田仲之助	一、五〇
天に口なし	中村進午	二、五〇
潮の華	川村庄助	一、九〇
新しい發明及發見	赤澤美人	一、三〇
余の漫畫帖から	伊東忠太	二、〇〇
體育運動誌上展覽會	内外教育資料調査會	二、五〇
新智識の庫	三上於菟吉	一、五〇
聖賀禮讃	宮崎安右衞門	一、五〇
わたりたる記	上原敬二	二、〇〇
地に跡を印した人々	別所梅之助	三、〇〇
戲曲、新しき村を造る迄	石田傳吉	一、〇〇
口語文範	帝國教育會	一、〇〇
恩讐の彼方へ	菊池寛	五〇
貘の舌	内田魯庵	二、五〇
明治神宮、意義ある參拜	本場貞長	一、二〇
國文學歷代選(現代篇)	芳賀矢一	三、五〇
辭林	金澤庄三郎	三、二〇

斯る小規模の文庫ならば容易に全國到る處の青年團に附設し得らるべき便宜あるのみならず中流以上の讀書家の文庫としても適する様に思はれる右は青年團文庫の最小標準を示して參考に供したるものなれば此の以上必要な圖書を求めて擴張しやうと思ふならば何程擴張しても差支ない寧ろ其れは大いに歡迎すべき事である。

輓近新刊圖書の數が日一日と増加して一箇年間の種類萬を以て算せらるゝことは現代文化の振興發達の顯著なることを象徵すべき第一條件たるに相違ない而も靜かに此等新刊の圖書を閱するに其の内容必らずしも廣告文に於て盛んに自讃するが如く皆咸く世の讀書家を益すべき萬世不朽の名著たるもののゝみではない併しながら前記の圖書は兎に角經驗もあり責任もある文部當局者の調査監閱を經たるものなれば何人も安心して讀んで可からうと思ふのである。

自治無用論者

◉市役所のある爲め吾々市民は餘計な負擔をして居るから市役所などは撤廢して市の事業は一切民政署に遣らせるがいゝ◉併し市制を撤廢しろと云ふのではない吾々市民は市會議員の選擧權と被選擧權を有し民政署の下に諮問機關を作らせて市民としての權利を得れば滿足だ◉と丁度數年前に旅大特別市制問題が沸騰して關東廳に臨時機關たる市制調査委員會が作られたとき一部に持て囃された彼の小川案なるものを蒸し返したやうな論議を今更の如く大きな聲で喚め き出したものがある◉伊集院前長官に依つて旅大特別市制が一歩進んだ改正を見やうといふ鼻先に斯んな蒸し返し意見を吐き出したものゝ眞意の那邊にあるかは烏渡判斷が出來ない◉彼等の議論は市の仕事を官治にし市民は代表者をその諮問機關に送つて申譯的に市民の權利を認めて貰へばいゝと言ふに過ぎない◉山本内閣によつて内地には總て普選が行はれ地方自治にも一刷新を見ようといふ時節柄如何に内地と事情の異なる土地柄とは申せ斯樣な官治萬能論を振廻すのは甚だしい時代錯誤だ◉勿論現在の市制は頗る變則的のもので市の財源も乏しく隨つて市の事業も思はしく捗取らないが併し市の自治行政によつて着々多少の成績は擧つてゐる◉それを守り育てゝ次第に都市の自治行政に歩を進めるやうにするのが市民の任務であるのに負擔を理由として市役所を贅物視するとは何事ぞや◉金を出すのは厭だ義務は眞平御免だ併し權利は欲しいと義務を竭さないで單に權利だけ得たいと云ふのが彼等の議論だ◉權利を得ようと思ふなら義務を負ふべきが當然でその義務は戸別割として當に市民の負擔すべきものでは無いか◉旅大兩市の存ずる關東州は純植民地たる朝鮮や臺灣と決して一樣に視ることを許さない斯樣な租借地に在つては遠き將來のことを考ゐて成るべく住民自ら治め自ら行ふ道を辿るべきである◉植民地に於ても自治の氣勢は之から益々高まつて來る況んや還附期限の存ずる租借地に在りては官治萬能の迷夢より醒めて住民自ら治め自ら行ふやうに素地を作つて置く必要がある◉財政の困難な官衙に何から何まで遣つて貰はうと考ゐるからが第一の間違ひだ◉滿洲の日本人は官衙や軍隊を頼み過ぎると支那人に笑はれるやうな不面目を曝らす勿れ。

儉素質實

◆東京、横濱を中心にした一府四縣の震災で五十億乃至百億圓といふ大損害だ◆この損害は日露戰役以上のもので歐洲戰時に蓄積した二十億圓の正貨がブイにならぬ迄も大いなる打擊で復興費に外債を募集すれば借金が出來るわけだ◆外債の利子は六分内外といふ安いものでも今後何年か我が國民の總てがその元利償還の負擔に當らねばならぬのである◆斯うした場合に贅澤な眞似をすべきでないのは申す迄もないことで朝野官民擧つて節約を旨とし冗費、濫費、浪費を戒め各人の生活に能ふだけの節度を加ふる事にせねばならぬ◆大正八九年の空景氣時代に我が國民は上ッ調子の生活をなし浮華輕佻に流れ不況時代に入つてからも一旦色付いた惡い癖は兎角拔け切らなかつた◆それが今度の震災で流石に眼覺めたのだから此の機會に引締め得るところは十分に引締め同時に衣食住その他社交儀禮に關する生活の全般に亘つて思ひ切つた改善を斷行せねばならぬ◆虚榮を戒め質素を旨とすべきは勿論として時間の嚴守、贈答の簡略、虚禮の廢止など是迄の惡い習慣を改める必要がある◆第一に時間は今後是非とも嚴守する事にしたい如何なる會合にも定刻前に必ず參集する事とし主催者側では定刻にキチンと開會する事にすべし◆宴會は飲食本位でなく社交本位とし會費は二三圓程度にし藝者など侍らす事[illegible]一種の社交で其處に温かい人情美が籠つて居るのだから絶對にこれを廢止してはならないが成るべく簡略にすべきである◆結婚の祝儀返しや葬儀の香奠返しなども略する事にしその金は社會公益事業に寄附し葬儀の途中行列は斷然廢すべしだ◆十月十四日大連の常安寺で催ふされた故早川滿鐵社長の一周年忌は定刻にキチンと開き儀式も極めて簡略で近頃にない模範的の法要であつた◆斯樣なことは上流階級から先づいゝお手本を示す樣にしなくては可けない親爺が極道をし乍ら子息に道樂をするなと

言つても通るものぢやない◆此の眞面目な生活改善の企てに對して感違ひの反對説を述べたり厭味や惡口や嘲笑を放つものもあるが其んな惡戯者などは投たらかして置くがいゝ◆だが善意の注告には耳を傾けねばならぬ節約に名を藉つて爲すべき責務も爲さず出すべき金も出さぬと云ふやうな吝ッ垂れでも困るのである◆婦人の中には絹物を簞笥のなかに仕舞ひ込んで態々銘仙や木綿物を買ひそれを仕立てゝ着て歩くものもあるが飛んだ心得違ひだ◆そんなムダな事をするから節約をしろと云ふので有るものは仕舞ひ込まないで着て歩くがいゝ◆時節柄斯んな身裝をしては何とか思はれやう抔と心配して妙な節約ぶりを示すのは一種の時代迎合で斯樣な上ッ面な節約は節約に成つて居ないのだ◆送迎も虚禮に渉らざる範圍において爲すべしで去つて再び來ぬもの始めて來るものなどは其の親近者において送迎すべしだ◆一寸內地に行つてまた歸つて來るものを一々送迎する必要はない斯る虚禮は廢すべしである◆新年に名刺を持たせて投り込むなども虚禮であるが年賀の訪問や年賀狀の差出などは社交としても人情の發露としても當然行ふべき事柄である◆餘り極端に走つて人情を無視し社會を乾燥無味にし世の中を冷たいものにしてはならぬ◆畏れ多くも上皇室には卒先して萬事御儉約を旨とせられ宴會なども御取止めになり國民に範を示され給ふた◆政府も行政財政の大整理を行つて大緊縮を遣らうと云ふ時節だ各個人も此際は質素を旨とし同時に生活改善を斷行すべしである◆不況で一般が沈衰し震災で一層人心の滅入り込んだ今日節約宣傳などは間違つて居るといふ論者もあるが節約も生活改善も實は今日ほど好い機會はないのである◆また震災の大損害と今後の國民の負擔を考へたら節約の必要がない抔と言はれた義理ではあるまい宜しく相率ひて華を去り實に就くべしである◆浮華輕佻は亡國の兆、勤儉質實は興國の徵で要するに此の興國的氣風を作興するのが生活改善の大眼目である。

満洲秘志

倭寇と少女

香月　尚

（一）

戰亂と爭鬪と相亞いだ明の亂世も漸やく終らうとする春もまだ淺い三月の初め頃。下蔚への草の嫩も堅く楊柳の芽さへ色づかぬ此處遼東半島のはづれ、營城灣に程近い入江のあたりに點々として少さな漁村があつた。赤つちやけた丘陵をへだてゝ宛がら駱駝の背のやうな山の懷ころに抱かれた一部落は、家の數にしたら僅に三四十戸位であらうか、石や白壁で頑丈に造られた家の構ひを見ても、さして貧しいやうでもなく、何れは半農半漁を生業とするらしく見へた。

或る朝のことであつた、海上は一面にたてこめた樣に靄がひどくかぶさつて、砂濱を洗ふ浪の音さへどうやら春の訪れを告げるやうな響きを傳へてはしきりに岸を洗つて居た。ふと見ると、その靄の中から此の邊にはついぞ見かけぬ異形の船が七八艘影繪のやうにボーッと浮んで來た。

村は漸やく朝餉の煙りがほのぐ〵と立ち登つて人々はこれから一日の働らきに就こうとして居た時であつた。フト一人の子供がその影繪のやうな船を見付けると、怖ろしいものでも發見したかのやうに、けたゝましい聲を振り上げて近くの家の中へ飛び込んだ。

平和な夢から醒めて、これから男は外に、女は内に一日の仕事にとりかゝらうとして居た時、思ひもかけぬ子供の叫び聲は、此の一村の人々の耳に惡魔の叫びとも呪ひの聲とも響いたのであつた。それは正しく惡魔の叫びでもあり呪ひの聲でもあつた。其頃此の近海へかけて最も怖れられて三歳の子供も泣く聲を止めるとさへ云はれて居た海賊、いはゆる倭寇の襲來であつたからだ。船の數も少なく、人の數も僅かではあつたにせよ、優れた武器と慓悍な武力とを持つた彼等には、如何にしても敵しかねたのみならず、何日も思ふがまゝの掠奪と耻かしめを目のあたり見なければならなかつたのだ。

一人の子供によつて恐怖を傳へられた其船は、今や彼方の岸邊近かく槽ぎ寄つて、既にその船艙の上には物の具に身を堅め、槍、長刀の物悽い光りをキラ〳〵させながら、如何にも凛として勇ましく立ち働く人の姿さへ明らかに見られるやうになつた。

村中は上を下への驚ろきに鼎の沸くやうなうちにも一人の心利いた若者は背後の小山の上に築かれた石垣を目差して馳け登つて行つた。それは豫てかゝる時の爲め備へられた烽火臺である。何か事のある時、遠くの縣城へ又附近の村落へ凶變と應援を求め知らせるために烽火を上げて人々を集めるのである。軈がて一發二發、朝の空に平和な空氣を破つて轟く烽火の音はどんな響きを傳へたであらう？

老人や女子供は間道から間道へと纖弱い足を急がして逃れるのであつた。小さな荷物を手にしたもの、若干の食ひ物を抱へたもの、それ等の人々が慌てふためいて騷ぎ廻るその混亂に驚ろく犬の啼き聲、鷄の叫び聲、一村の平和は須臾にして亂されてしまつた。

若き者、爭鬪に堪へ得べき者は後に居殘つた、そして各々手に手に手頃の武器、漁具、包丁など持つてゐる。出來るだけの抵抗と自衛とを試みる爲めであつた。

聽てそこには恐しい闘ひが始まつた。鐵をも斷つ日本刀の鎬の音、鍔の音、矢叫びの聲、それは全く修羅の巻であつた。砂は鮮血に染み、白壁には血しぶきの跡、げに悽愴の極みであつた。

（二）

此の爭鬪は約一時間足らずで終つた。存外に頑強な死を賭しての抵抗に、結局何物をも得ることが出來ず手負ひを引きまとめて一時倭寇の群は引き揚げることになつた。長居をして應援が來ては愈々不利と見たので急いで帆を上げて此の濱邊から離れてしまつたのである。

烽火を見て馳けつけた近村の若者や、程經た頃馬に泡を吹かして馳けて來た縣城の兵士なども、船の姿さへ見へない沖の方を眺めつゝ、濱邊の死骸や血の流れを見て、半ば手持無沙汰のやうになつて、一刻前の物凄かつた鬪ひを想像するに過ぎなかつた。

敵味方の死體が取り片づけられ、落ち散つた武器もそれ〴〵處分された中に、日本刀や、槍、武具などの精巧にして見馴れぬ珍らしいものがあるので、人々は暫らくの間は今迄の騷亂を忘れるともなく忘れて、ガヤ〴〵とそれを捻くり廻して居たのである。

時ならぬ劍戟の音もやんで、醒風過ぎ去つてしまへば、村はまた以前の靜寂にかへつて、暮色やうやく四邊に迫らうとして來た。村の入口には夜に入ると篝火が燃ゑて、萬一の再襲に備へる爲めか、若干の兵士が物の具の金具を火の光りに輝かしながら威風の程をあたりに示して居た。村の若者もその中に交つて時折は沖合の方を注意しながらもひたすらに事なきを念じて居るのであつた。

日は何時の間にかすつかり暮れて、忍び寄るやうに暗はあたりを包んでしまつた。そころごころに燃ゑて

ゐる篝り火のみが紅々と物凄く暗の中に四邊を照らして居る。

此處は海岸からは少しく入りこんで、小さな丘陵を二ツばかりも越して、楡の林に圍まれた一構への農家の裏であつた。土壁の上に石塊を積んで越へれば、一またぎにも足らぬ垣を入れば、其處は轝場になつて居て、風に戰のく破れた窓には僅かな灯火のひかりが薄暗く映つて居る。

その家の裡では、幽かな灯火の光りを唯一の便りに十七八の娘が、しきりに衣服の修繕をして居るのである。傍らの炕の上には五十余りの頑丈な體格の顋に素髯を生した由ありげな老爺が好い心持ちに眠つて居る。時折ほの暗い灯火の光りをまともに浴びて顔をあげるその娘は、こんな貧しい百姓家には似合はぬ程な美くしい豊滿な氣高い容姿であつた。

夜はしだい〳〵に更けて行つた。あたりに聞ゆる物音とてはなく、閒として宛がら靜寂そのものゝ如くであつた。と此時闇をさいて突如として恐ろしく犬の叫ぶ聲が消魂しく裏から起つた。忽ちそれは二疋になり三疋になつて物凄い程に高く高く吠ね出した。

娘は時ならぬ犬の聲に針の手をやめて急いで寢てゐる老爺を搖り起こすのであつた。犬の聲は愈々激しくそれは確かに何者かゞ家に近付いて居るに違ひなかつた。好い心地で寢てゐた老爺は、娘の搖り動かすのと犬のけたゝましい聲に、漸やく眠りから醒めて半身を擡げたのであつたが、何ものかの音を聞きつけたのかガバと跳ね起きると急いで扉口へ行つてジッと耳を澄ませるのであつた。

娘は今朝の恐ろしかつた騷ぎを思ひ起して又今夜のこの何物ともしれぬ恐ろしさに顔の色もなくなつてしまつて居た。老爺は犬の叫び聲の間に、何者かの物音を聞き出したのか、娘を近く引寄せて耳に口をあてながら、しきりに宥めるやうに、優しくいたはつて居るのであつた。

するとこの時入口の扉が外からコト〳〵と、それは如何にも四邊を憚かるやうに叩くのであつた。老爺は恐れ戰のく娘を急いで寢床の背後に隱すと、傍はらの太い棒を手に要心しながら、そつと扉の鍵を外して細目に開けると、中からの淡い火の光りがサツと外に射す。その光りに映つて戸口に立ちはだがつた老爺の目に入つたものは何者であつただらう？

足許近く吠へつく犬に心を配りながら、細目に開けた扉に片手をかけて、嘆願するやうに半身を扉口にもたせて居るのは、思ひもかけぬ倭冦の一人であつた。

蒼ざめた顏には黑い髮が亂れ被さつて、淺傷、深傷を負ふたのか、血の色さへ黑く堅まつて、千々に切れた腹卷の緘の糸目さへズタ〳〵になつて、それでも右手には鞘に納めた大劔を杖にして立つて居たのである。そして何事かしきりに憐れみを乞ふが如く嘆願して居るのであつた。老爺は心にうなづきながら靜かに四邊に氣を配つて靜かにその男を家の中へ導き入れたのである。

吠え續けた犬はいさゝか柏子拔けのていに、しきりに鼻を鳴らしながら、やがて何處ともなく去つてしまうと、外はまた以前やうな靜寂に還つた。

（三）

彼は今朝、此の濱邊を襲つた倭寇の一人であつた。深入りした彼は村民の包圍をうけて、惡戰苦鬪の果て漸やく血路を開いて逃げる途中、山の峽から足を踏み滑らして墜落したが、それきり悶絶してしまつたのであつた。彼が氣のついた頃は午後の日が紅々と四邊に照りわたつて居る時であつた。深い重傷にたまらなく渴を覺へて、地隙の間からにじみ出る淸水に漸やく日を過ごしたのであつたが、仲間の船は既に遠く逃げ去

つたのであらう、影も姿もなく、一人取り殘された彼は人目にかゝればどの道命は無いものと覺悟はしたものゝ、脱れるだけは逃れやうと夜に入るのを待ちかねて、方角さへわからぬ暗の夜路をこゝまで辿つて來たのであつた。そして此の離れた山蔭に見出した灯火の光に、もうこれから進む勇氣もなく、どの道落す命なら自剄してと考へて、此の家の扉口を叩いたのであつた。

最後の水とそれから筆と紙があつたら遺書を認めやうと云ふ願ひである事を、覺束ない手眞似や表情で傳へる哀れな男を見守りながら、老爺はそれらの事情が漸やく呑みこめると、急いで隱れてゐる娘を呼び出して何事かしきりと命ずるのであつた。娘は心得て少さな箱を奥から持ち出して來ると、老爺はそれを開いて中から紙に包んだ何かしら藥のやうな品々を取出して、それを娘と二人して此の落ち人のために傷口の手當をするのであつた。そして兎も角も傍の炕の上へと輔け寢かすやうにするのを、此の落武者は初めて安堵の思ひがしたものか、ぐつたりとしてそのまゝ吾れしらず横になつたのである。

はからずも此の親一人、子一人の貧しい農家に怨敵にもひとしい片割れを匿ふことにした此の老爺は、そもそも何を考へたのであらうか？

水を與へ、傷口には藥を張りなどして、二人は何彼と手を盡したのである。思ひもかけぬ看護をうけた彼は夢のやうに、時折感謝の色をその眼に表はして居た。

（四）

それから幾日かの日が流れるやうに經つた。春もいつの間にか逝かうとして、梨の花さへ散り果てゝ、四邊の野山や谷には新綠の匂ひがあまい懷かしさを漂よはせて來るのであつた。

老爺と娘の私心を離れた眞心からの手當てをうけた倭寇の落ち人は、今はもう創口もあらかた癒へて、元氣も回復して來たのである。老爺は萬一附近の村人や知り人に此の匿まつて居る事が知れてはと、それを案じて、彼を野菜や何かを貯藏する穴藏に入れて置いたのであつた。

人の居らぬ時を見濟しては、娘は彼を地上に出して、日光に浴させたり、される時、彼は覺束ない片言に感謝の意を現はしながら、今更のやうに變り果てた吾身を顧みるのであつた。

着馴れた祖國の着物はとり更へられて、藍色の胡服をまとひ、月代の伸びた頭はいつの間にか見知らぬ型に變つて、故國の風を失なつて居た。

時折杖にすがつては人の居らぬ朝夕を裏の空地に出て胡藤の樹蔭を徘徊する度每に、ひし〳〵と胸に迫るのは堪へやらぬ望鄉の想ひであつた。わけても行く春の物悲しい夕べなど靜ご心なく散りしいた胡藤の花片にも祖國のなつかしさが泌みわたるのであつた。

斯うして來る日來る日も空しく徒らに懷鄉の念ひに耽つて居る時に、何時とはなく背後の方から忍び寄るやうにして、彼の身を氣遣ひながら近寄るのはいつも變らぬ娘であつた。

何うした前世を持つた親子であるかは知る由もないが、生れてからの農夫でない事は、老爺の思ひの外に博學であることや、娘の敎養などにも、又その態度などにも、決して侮ることの出來ない所があるのを見ても、何等かの前身を持つ人の成れの果か、または暫時世を忍ぶための此の百姓生活か、何れは深い理由のあるものと思はれたのであつた。ついぞ今迄そんなことは詰もせず、彼の男とてもその身の素情を語る折とてもなく打ち過ぎて來たが、何日からともなく此の娘の胸には、彼の倭寇の一人であつた男の姿が朝となく夕となく幻のやうに消ゆるともなく映つて來たのである。

色の淺黑い苦味走つた、筋骨の逞ましい、三十にはまだ一二年間もあらうと思はれる彼の男の姿を、不思議な運命の糸はだん／＼と何時の間にか知らない間に、娘の胸に堅く結びつけて居たのであつた。自分の國のためには倶に天を戴かない仇敵にも同じい倭寇の一人に……いかに戀に國境や仇敵がないとは云へ何んと云ふ運命の惡戯であつたらう………？

娘の然うした心の推移を逸早く感じたのは當の男よりも老爺であつた。が然し何を思つて居るのか、又そんな事は人生の一些事と觀じて居るのか、一向に見て見ぬ振りをして過して居た。

夫れは或る日の夕暮れ時であつた。彼の男は此の日も裏の小山の上に出て、海の彼方に沈む夕陽を眺めながら、思ふともなくそれからそれへと懷舊の想ひ出に湧く胸を抱きつゝそゞろ歩いて居ると、何時の間にか來たとみへて娘は背後の方から靜かに歩み寄るのであつた。

蒼茫として海は漸やく黃昏れて來た。その果しもしれぬ彼方を、懷かしみ憧がれるやうにして、何時か二人は寄り添ふて何を語るのか私語き交はす言葉は波の音、風の音に妨げられて聞へなかつたけれども、燃ゆるやうな娘の瞳、嬌羞を帶びたその振舞の其れは戀を語るのでなくして何であらう？

國を異にし風俗を異にする男女が、然かも仇敵にもひとしかるべき地位にある男と女が戀をするとは眞實にそれは宿緣と云ふやうなものであつたらうか。命を救はれ、手篤い看護をうけたその恩人の娘の戀に、否眞心籠めたその眞情の前に、男は自分の過去の暗い影を心から耻ぢて娘の戀を幾度か躊躇して居たのであつた。彼の娘の父親が初めて此の倭寇の男を救はうと決心しのは何んの考へからであつたであらう。古い諺で云へば窮鳥懷ろに入れば何んとかと云ふ樣な事からであつたらうか。それとも外に考へがあつたのであらうか。それは到底窺ひ知ることは出來なかつた。唯娘には

『出來るだけの介抱をしてやるがいゝ』

とそれだけの言葉が何ものをか語るのみであつた。

（五）

二人の戀が芽生へはじめて熟しそめた頃、思はぬ災禍が此の温かい一家に降りかゝつて來やうとは………あゝ誰れか神ならぬ身の知る由もなかつた。

或る日のことであつた。何日ものやうに二人は裏の丘に登つて海を見ながら語り合つて居たのである。そよ〳〵と吹く初夏の微風は快よく血に燃えた若い娘の頰をなでゝ、鼻をつくやうな磯の香をなつかしみつゝ手と手を握り合つて、男は漸く覺へた異國の言葉をぼつ〳〵と話して居るのであつた。娘は

『……貴郎のお國は此の海のどの邊になるのでせう、隨分遠い所なのでせうね……』

『エヽ、遠いんですとも、それは〳〵幾日も幾晩も波のうへで暮さにやなりません、けれども此處からだとあの陽の出る方へと進んで行けば、私の國の西の端の方に着くでせう』

然う云つて男は遙かに東の方を指さして眺め入つて居た。

『……ねへ、貴郎!!、貴郎はお國へお歸りになりたいでせうね………!?』

淋しさうに云ひながら男から眼をそらす娘の肩を、輕く抱へるやうにして男は

『モウそんな事は考へては居ません、本來なら私は此處で命を落す所だつたのです、それを思へば今の私は生れ代つたも同然ですもの、一生を貴女と此處で暮さうと決心して居るのです』

『……本統に妾、それを心から祈つて居りますの、父も多分それを快よく承知して吳れるでせうと思つて居

ます、どうぞ何時までも〳〵一緒に……』
『貴女のお父さんには全く深い御恩になりました、それを思つても私は出來るだけの事を貴女に盡さねばなりません……私はそれを深く考へて居ます……どうか私を信じて下さい、折を見て私はお父さんに貴女のことをお願ひしようと思つて居ます……』
キッパリと男の云ひ切るその言葉を聞いて娘は嬉びに輝く瞳をあげて男の手を握りながら
『何卒その御言葉に裏表のないやうにお願ひしますわ、妾の心も躰も、最う皆な貴郎のものですもの……何うぞ一生それを忘れずに居て下さいましね……』
『本統に貴女こそ……!!!』
二人の相擁して私語する態を知るものは、天と地と海とより外にはないと思つて居たのに、何時何處から來たのか、一人の男が遙か背後の小松の影から窃かにそれを見て居たのであつた。それは此の近村を時折巡視して歩く縣城の見巡人の一人であつた。
この男は軈て二人が樂しさうに連れ立つて歸つて行く姿をぢつと見送りながら頻りに何か考へて居た。二人の姿が丘の下のさゝやかな農家の中に入るのを見屆けると其儘何處へか姿を消してしまつた。それは本當に偶然のことであつた。どちらにも思ひも寄らぬことであつた。二人は行末の樂しさを語りこそすれ二人の前に暗い影の横たはらうとは知るよしもなかつた。
それから三四日を經つた或る朝である。此の農家へ馬に乘つた一人の役人が多數の衙役を連れて不意に家宅搜索に來たのであつた。馬上の役人は扉を開けた老爺の姿を見ると、急いで馬から飛び降りて慌だしく一揖する。その役人を見下しながら老爺は

『お前達は何用あつて來たのか？』と言つた。その聲には千斤の重みがあつた、凛とした犯すべからざる威嚴が見すぼらしい百姓服をかゞやかせた。

『ハッ、實は意外な報告を受けまして……先生のお宅とは存ぜず突然の推參……』

『フム、其の報告とは何か……？』

『ハッ、二三日前一人の密偵の報告によりますと、先生のお宅に確かに日本人と思はるゝ、イヤ夫れは何かの見違ひであるかも知れませんが………見馴れぬ男がお宅のお孃樣と何かお話しをして居るのを目擊したと云ふことで、若しもと思ひまして先生のお宅とは知らず……イヤ何に一應形式だけでも苦しう御座いませんまさか先生のお宅にそんな者の居らう筈は御座いませんから……』

『ウム、然うであつたか、それならば遠慮は要らん、こんな狹い家ぢや、一目に見透せるあばら家ぢや、這入つて搜索なと何んなと自由になさるがい』

然う云つた老爺の顏上には柔和をよそうたその影に堅い決心の色がほの見へて居た。

『では、失禮ながら一寸形式だけ……』

恭々しく一揖して馬鹿丁寧な言葉と態度との間にもの役人の目は銳どく室の隅の塵一つも見脫がすまじとするやうに冷たい光を放つて居た。

隣りの薄暗い室には娘が息も詰るやうな切ない思ひをして此の話を聞いて居た。施す術もない突然の出來事に半ば失心したやうになつて炕の上にうつ向けに顏を覆ふて居たのである。

役人は狹い家の室の隅から隅まで、外へ廻つたり裏へ拔けたりして尋ねたけれども、一向にそれらしい影もなく、何等の證據を握ることが出來なかつたので、やゝ失望と早計を悔ひて居るやうであつたが、不圖彼

は裏庭の物置の影になつて居る處に、野菜や穀類を貯藏する穴藏への入口を發見した。思ひもかけぬ處を發見した彼は、嬉びに輝いた目を光らして衞役に指圖をするのを、此時までヂッと彼等のなすが儘に委して置いた老爺は、此場の成り行きに觀念の眼を閉ぢて娘の居る室へ這入つて行つた。

役人はやがて穴藏の入口に行つてそこに立ち塞がつた。彼等の瞳には凱歌を奏する色が見れた。あゝ萬事休す矣。その穴の中こそ彼の男の隱れ場所であつたのだ。

娘は蒼い顏をして確かりと父の胸に抱かれて居る、堅く喰ひしばつた齒、それは失望と驚ろきに嗚咽するのをこらへる爲めに……。』

暫らくは恐ろしい沈默が續いた。

（六）

穴藏の中には彼の男が最前からの一部始終をすつかり聞いて、最早脫れぬものと覺悟を極めて居た。が然しそれまでには彼も考へた。彼等の包圍を斬り破つて逃れるだけ脫れやうかとも思つたが、然しそうすると後に殘つた親子がどんな災難に逢ふか、此上の災難をかけることは今迄の恩義に對しても忍びないことである、と言つて、共に逃げるにしても足手まとひの女を連れては到底逃れ得ないことは解つて居るし、それかと云つておめ〳〵縲絏の辱かしめを受けることは猶更忍びないのであつた。そこで結局彼は男らしく此場において自刎してしまう事が最上であると決心した。

彼は役人の手に觸れられぬ中にと思案を極めて、豫て萬一の場合を思つて秘して置いた鎌倉物の業物を取り出し、靜かに鞘を拂つて、上衣の脇を寛ろげながら、下腹のあたりを二三度撫でるのであつた。此の時最

後の覺悟を定めて瞑目した彼の腦裡に電光のやうに閃めいたのは娘の身の上であつた。はからぬ宿縁から末を契つた彼の女の瞳は今朝も嬉びに輝やいて居たのに、嗚呼思へば憐れな事をした。

今は何うして居るであらう、驚ろきと失望にあの小さな魂しいは、どんなにか悲嘆のドン底に落ちて居るであらう。自分の最後の姿を見出した時……あゝそれを思へば彼は死にたくなかつた。何んとかして脱れる事は出來んものかと考へて居る時、突然穴藏の入口から振り絞るやうな聲で

『……最う萬事了れりぢや、斯うなつては俺の力には及ばん事ぢや、俺も覺悟せにやならん、貴殿も潔よく處決して下され、後々の事は萬事俺が引受けるから……』

それは老爺の沈痛な聲であつた。

この言葉に彼は最早到底脱れ得ぬことを知ると共に、さらばとばかり太刀の切先を確つかりと布で巻いてそれを右手に持つと、下腹部を左から右へキリ〳〵と引き廻してグッと突き立て、サッと迸ばしる鮮血を冷やかに見て、更に兩手に力をこめて咽喉へと刄先を突き立てる、と其儘前へガックリと倒れてしまつた。四邊は一面に血が漂つて、憐れ若者はその血の中に事切れてしまつたのである。

暫らくして男の亡き骸は人々の手によつて老爺の家の奥に横たへられた。役人は今更に此の老爺の義氣を無にするに忍びないので其儘萬事を委かして引揚げて行つた。

半ば狂亂したやうに娘は男の死骸を掻き抱くやうにして、何かしきりに掻き口説いて居る憐れな姿を、悲し氣に瞑目して時折顧みては心もとな氣に打ち守る老爺の姿も悄然として居た。

それから幾日か過ぎてしまつた。人知れず裏の小山の松の根方の下に葬られた男の新墓の前に、彼の娘は幾日も〳〵泣き崩れては悲しげに男の名を呼んで居た。モウ其頃は父親の顏が戀しい男に見へたり、役人に

なつて見へたり、又何も無いのに怖ろしい惡靈でもそこら邊りに居るやうに騷ぎ出したりして、憐れにも氣はすつかり狂つてしまつたのであつた。

（七）

それから幾春秋を送り迎へたか知らなかつたが、モウあの小山の麓の棲家はいつの間にか取り壞されて石垣の石塊がそこらあたりに轉がつて、僅かに在りし日の面影を思ひ出すに過ぎなかつた。老爺も娘も何處に行つたのであらう？知る人とては無かつた。唯彼の老爺は當時名高い碩學沈永澤が時の官の怒りに觸れて世を忍ぶ假の棲居であつたと云ふ事が彼の役人によつて云ひ傳へられたゞけであつた。

彼の氣の狂つた憐れな娘を連れて、今は何處にどうして居るやら、その後誰れも再び此の碩學の老爺とその娘の行衞を知ることは出來なかつた。

× × × × × × × ×

× × × × × × × × ×

星移り物變り幾春秋の歲月は經ち、此處遼東半島は今、鐵道は敷かれて、その倭寇と呼ばれた日本人の手によつて華々しく開發されて行きつゝある。彼の旅順線の營城子から少しく龍頭驛の方に近い丘陵のあたり或はまた營城灣に近い畑のほとりに立つて見るならば、そこに壘々とした石壘の殘缺が苔蒸して居るのを見るであらう。それこそ其頃築かれた烽火臺の名殘をとゞめるものである。尙それのみではない、若し終日を畑の中など少しく掘つて索すならば、日本刀の折れたのや、矢の根、刀の鍔、その外、日本の昔の武器の斷片が泥にまみれ風雨に磨滅したのを見出すことはさして難くない。噫これこそ當時、此の近海に出沒した倭

寇が爭闘の爲めに血を流し、骨を洒らし、竟には人知れず地に埋まつて、それから幾春秋を經て、全く土に化したその名殘を語る唯一のものでなくて何んであらう。

人若し彼のあたりに杖を曳いて、一日の清遊をほしいまゝにする事があつたならば、そして四海に鬼神の如く怖られた彼の慓悍無比な倭寇の爲めに顧望低徊一掬の涙を地にそゝがれるならば、それは如何に地下に眠る彼等の靈を慰むる供養であらう?（おはり）

公設市場の改善

現在大阪市設二十二箇所の公設市場のうち鐵筋コンクリート建のものは九條、泉尾、櫻川市岡の四箇所に過ぎない殘り十八箇所は木造の粗末なもので一部分コンクリートで固めたもので遂にこの間の本庄公設市場の如き大火事を出すそこで市商工課では既に確定してゐる境川公設市場（本月頃より起工）の外に主として市の中央部に出來る六箇所の市場を鐵筋コンクリートにし尚ほ既設木造の分も全部同じ構造にすべく夫々建設費と位置などに就て大調査を開始することになつた鐵筋コンクリートに變へることは公設市場の周圍に群つてゐる多數類似の私設市場との區劃もハッキリつき頗る便利だと云つてゐる現在の四箇所の鐵筋コンクリート建ては平家であるが境川のは三階でその他の分も二階又は三階に改築するそしてその範を上海あたりのマーケットにとり一階には魚類、蔬菜、二階には乾物、干魚、荒物類、三階には雜貨、小間物といふ風にし又各階の連絡は階段にしないで勾配式にしてその兩側にも店舖を仕切り商品の運搬にはエレベーターを用ひ換氣、採光、水利をすべて衛生的にするさうであるが其の一箇所の建設費だけでも平均六萬圓乃至十萬圓で將來中央市場の設置と共に公設市場はスッカリ面目を新しくするだらうとのことだ。

研究會の旨趣目的

滿洲社會事業研究會は其の名稱の如く研究を主とする間接機關でありますが研究と共にその研究の結果を發表し講演會その他の集會をも催ふし宣傳、鼓吹、報道、論評と相待つて實行促進に努力しますから直接に自ら實行しないでも漸次實行を促すことになります場合に依り又事業の性質によりては本會自ら實行するやうな事があるかも知れませんが本來の使命は間接的に助長、發達、進歩を計り社會問題に對する正しい理解力を一般に普及したいのであります夫れから本會は會員組織でありまして會員を別つて贊助員及び普通會員とし役員は會長一名、副會長二名、幹事長一名竝に幹事若干名で外に顧問、相談役及び評議員若干名を置くことに成つて居ます評議員は贊助員の中より選擧し其の任期は二年です評議員會は會長において必要と認めたるとき又は評議員五名以上の請求ありたるとき開くのです評議員會は今日までに既に九回開きました本會の經費は會費及び寄附金を以て之れに充て會費は贊助員毎月貳圓、普通會員同上壹圓です追つて沿線電要地に支部を設けます。

研究會の組織綱領

●勞農西伯利の近情………南滿洲鐵道株式會社 哈爾賓事務所調査課

●露西亞社會主義聯邦ウエート共和國民法……同上

●敬神(創刊號)………大連市 敬神會事務所

◉滿洲日日新聞、遼東新報、大連新聞、泰東日報、週刊「極東」、日滿通信、滿蒙、讀書會雜誌、新天地、海友、滿蒙實業彙報、調査時報、滿洲建築協會雜誌、滿洲公論、大陸、日華之貿易、滿洲經濟時報、關東新聞、赤陽、聖德會々報、(以上大連)◉大陸日日新聞、奉天新聞、奉天毎日新聞、(以上奉天)◉大乘(上海)◉山東公論、濟南日報(以上濟南)◉青島新報(青島)◉京城日報、朝鮮新聞、朝鮮銀行月報、朝鮮及滿洲、(以上京城)◉釜山日報(釜山)◉平南毎日新聞、平壤商業會議所月報(以上平壤)◉臺灣時報、臺灣月報(以上臺灣)◉臨時産業調査局資料、滿鐵東亞經濟調査局經濟資料、東洋、支那、大觀、大日本、東京商業會議所所報、日華之實業、愛國婦人、戰友、我が家(以上東京)◉紡績界(大阪)同志社時報(京都)◉横濱商業會議所月報(横濱)◉東亞經濟研究(山口)◉福岡日日新聞(福岡)

毎月一回發行

定價表

本號特別號＝金七拾錢

册數	定價	郵税
三箇月分	壹圓九拾錢	五錢
半箇年分	參圓八拾錢	郵税共
一箇年分	七圓五拾錢	郵税共

▲半年分及壹年分には特別號を含む▲誌代は總て前金拂の事▲郵券代用は一割増

廣告料

等級	半頁	一頁
特等	四拾圓	八拾圓
一等	貳拾五圓	五拾圓
二等	拾五圓	參拾圓
三等	拾圓	貳拾圓

●三回以上は割引可仕候●年極めは特別に御相談可致候

●〆切りは前月二十日限り

大正十二年十月三十一日發行

發行人 山田武吉
編輯人 大内四郎
印刷人 太田信三
印刷所 大連市大山通 小林又七支店

發行所(電話五四二六番) 滿洲社會事業研究會
大連市霧島町五十六號地
振替口座大連一二三九番

祝天長節

大連汽船株式會社

東洋汽船株式會社大連代理店

本社……大連市山縣通（電話代表番號 四一八五 四一八六）

支店……
- 上海黄浦灘路一號
- 青島葉櫻町十一番地
- 天津舊德界
- 安東縣財神廟街

出張所……神戸仲町十五ビルディング内

代理店……旅順・龍口・芝罘・營口・香港・大阪・横濱

●大連、青島、上海線 每月六回

●大連、天津線 每月八回

●大連、安東線 每月六回

●大連、龍口線 每月六回

●青島、上海線 每月六回

●營口、大連、阪神線 貳ヶ月三回

●不定期航路

◎南滿洲鐵道、膠濟鐵道トノ連絡輸送並ニ北支那諸港間ノ荷客取扱申候

◎天津航路ハ大連ニ於テ大阪商船會社大阪大連間定期船ニ接續可致候

◎天津、安東兩地ニハ完全ナル倉庫ヲ新築シ一般倉庫業相營ミ居リ候

◎鴨綠江結氷中大連安東線ハ休航、白河結氷ノ際ハ天津行ヲ皇秦島行ニ變更

カバン馬具

製造販賣

大連市浪速町（伊勢町角）

熊井洋行

電話三二〇五番

振替口座二三一三番

分店＝大連市大山通（舊電話局前）

支店＝旅順市敦賀町

電話六七番